

家ヲ擾亂スルモノヲ罰セサルノ理由ナキモノトス故ニ暴動トハ内國戰爭即チ擧兵ノ場合ハ勿論其他ノ場合ヲモ包含スルモノト謂フヘキナリ而シテ其如何ナル場合ヲ暴動トナスヤハ事實ノ問題ニ屬ス故ニ實際上内亂罪ト多衆聚合罪トノ區別ニ付往々困難ヲ感スル場合アルヘシ然レモ内亂罪ハ朝憲紊亂ヲ目的トスルモノニ限リ他ハ其目的ノ何タルヲ問ハスト雖モ多クハ朝憲紊亂ヲ目的トスルコトナキモノトス尙ホ新法ニ於テハ多衆聚合罪ニ付キ舊法ノ如ク暴動ナル文詞ヲ用ユルコトナク之レヲ暴行脅迫ト改メ内亂罪ト區別シタリ

次ニ處分ニ付テハ内亂罪タル多衆人ノ團結ヲ要スルモノナルヲ以テ從テ其團體組織上首領以下種々ノ階級アリテ各其加功アルノ程度相同シカラサルナリ故ニ犯人ノ位置階級ノ如何ニヨリ之レヲ區別シテ罰スルノ要アルモノトス本條ハ之レヲ三段ニ區別シテ之レヲ罰ス

第一 首魁ハ死刑又ハ無期ノ禁錮ニ處ス

首魁トハ暴動ノ首領ニシテ擧兵ノ場合ニアリテハ全軍ヲ指揮統卒スル者ヲ云フ而シテ首領ハ必スシモ一人ニ限ラス數人共同シテ統卒スル場合モ之レアルヘシ此ノ場合ニハ數人皆首魁ナリ此首魁ナル者ハ内亂罪ノ張本人ニシテ其情狀ニシテ最モ重キモノナルカ故ニ極刑タル死刑又ハ無期ノ禁錮ニ處スルモノトス舊法ニハ教唆者モ亦首魁ト同シク死刑ニ處スルコト、ナシタリシモ内亂ノ教唆者タル即チ内亂罪ヲ發生セシムル原因ヲ作爲スルモノニシテ多クハ首

領者タルヘシ若シ然ラサルトキハ第七十三條ノ規定ニヨリ正犯ニ準スヘキモノナレハ特ニ規定スルノ必要ナキヲ以テ新法ハ之レヲ刪除シタリ

第二(甲) 謀議ニ參與シ又ハ群集ノ指揮ヲナシタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處ス

謀議ニ參與スルトハ擧兵ノ場合ニ於ケル參謀官トシテ作戰方略ニ參與スル者ヲ云ヒ又群集ノ指揮ヲナシタル者トハ一方ノ隊長トシテ群集ヲ指揮スル者ヲ云フ此等ノ者ハ其情狀ニ從ヒ裁判官ノ認定ニ依リ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處スルモノトス

(乙) 其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス
甲以外ニ屬スル種々ノ職務ヲ執リタル者ニシテ例ヘハ糧食ノ充實ヲ掌リ又ハ運輸、會計、等ノ事務ニ從事シタルモノ、如キヲ云フ此等ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處スルモノトス

第三 附加隨行シ其他單ニ暴動ニ關與シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

附加隨行シタル者トハ單ニ他人ノ煽動ニ依リ暴動ニ加ハリタルカ如キ者ヲ云ヒ其他單ニ暴動ニ關與シタルモノトハ暴動ノ雜役ニ使用セラレタル如キモノヲ云フモノニシテ此等ハ其罪責尤モ輕微ナルモノナレハ三年以下ノ禁錮ニ處スルモノトス而シテ此第三號ニ該ル者ノ如キハ自カラ進テ朝憲ヲ紊亂スルノ目的ヲ有スルヲ要セサルモノトス

第七十八條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ハ内亂罪ニ付テハ其豫備又ハ陰謀ヲモ之レヲ罰スルコトトナシタルモノナリ蓋内亂罪タル其罪重大ニシテ豫備又ハ陰謀ノミヲ以テ既ニ社會ニ危害ヲ與フモノニシテ普通ノ犯罪ト異ナルヘケレハナリ而シテ其豫備又ハ陰謀ノ何タルヤニ付テハ前既ニ屢々説明シタル所ニヨリ明ナルヲ以テ爰ニ贅セス
(舊刑法)第二百二十五條 兵隊ヲ召集シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第二百二十二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス
内亂ノ陰謀ヲナシ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス
新法ハ右舊法ノ條文ヲ修正シタルニ過キサレハ別ニ説明ノ要ナシ

第七十九條 兵器金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ハ内亂罪ヲ犯スノ情ヲ知リテ兵器金穀等ヲ資給スルカ如キ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ其陰謀、豫備、若クハ實行ヲ幫助シタル從犯ニ付テノ規定ニシテ此等ノ者ハ七年以下ノ禁錮ニ處スヘキモノトナシタリ而シテ其幫助ノ行爲ニ付テハ制限ナク如何ナル行爲ヲ以テモ苟クモ其實行豫備陰謀等ヲ容易ナラシムル行

爲ナルトキハ總テ包含スルモノトス本條示ス所ノ兵器金穀ヲ資給ストハ只タ其重ナルモノヲ例示シタルニ過キス故ニ舊刑法第二百二十七條ノ集會所ヲ給與シタル如キモノモ當然本條ニ包含セラル、モノトス故ニ同條ハ之レヲ删除シタルモノナリ

第八十條 前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

本條ハ特別自首免刑ノ規定ニシテ即チ内亂罪ノ豫備陰謀ヲナシ若クハ之レカ幫助ヲ爲スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタルモノハ其刑ヲ全免スルモノトナシタリ蓋シ事前ニ自止ヲ促スノ精神ニ出テタルモノトス而シテ自首ニ付テハ總則ニ於テ説明シタルヲ以テ爰ニ省略ス

第三章 外患ニ關スル罪

舊刑法ハ外患ニ關スル罪ヲ以テ政治ニ關スル犯罪ト見做シ内亂罪ト共ニ國事ニ關スル罪ノ章下ニ之レヲ規定シ内亂罪ト同シク其死刑ニ該ラサルモノニ對シテハ無役ノ刑ヲ科スルコト、セリ固ヨリ國家ノ安寧ヲ害スルノ點ニ於テハ二者ノ間全ク相同シト雖モ一ハ國民全體カ外部ニ對スル關係ヲ害スルモノニシテ他ハ國家内部ノ憲法上ノ組織ヲ破壞シ若クハ變更セントスルモノニシテ其ノ

性質自カラ相異ナルモノアリ殊ニ犯人ノ目的ヨリ看察スレハ一ハ敵國ヲ助ケ我
 帝國ヲ亡滅セントスル奸惡ノ犯罪ニシテ他ハ國家ヲ想ヒ國家ノ隆盛ヲ謀ルノ熱
 情ニ出ツルモノニシテ豈ニ同日ニシテ論ス可ケンヤ尤モ時トシテハ政治上ニ付
 キ此罪ヲ犯スモノ萬一ナキニシモアラスト雖モ其犯人ノ目的ニシテ之レヲ遂ケ
 得タリト假定センカ我帝國ヲシテ獨立ヲ失ハシメ遂ニ敵國ノ附庸タラシムルニ
 至ラン何レノ點ヨリ觀ルモ此罪ヲ犯ス者ハ實ニ忠君愛國ノ大義ヲ破滅スル賣國
 ノ奴輩ニ過キス故ニ新法ハ是等ノ罪ヲ犯ス者ハ死刑ニ該ラサルトキハ有役ノ刑
 ヲ科スルコト、ナシタリ又舊刑法ニハ都府城砦ヲ敵國ニ交付スルノ規定アリト
 雖モ之レヲ破壞又ハ使用スルコト能ハサラシメタル場合ヲ規定セズ然レモ之レ
 等ノ行爲モ亦帝國又ハ同盟國ノ爲メニ害ヲ及ホスヘキ行爲ニシテ一ハ之レヲ罰
 シ一ハ之レヲ不問ニ付スルノ理由ナキヲ以テ新法ハ之レヲ補充シタリ又舊刑法
 ハ國家ノ占有スル兵器彈藥其他直接戰鬪ノ用ニ供スル物件ヲ敵國ニ交付シタル
 罪ヲ規定スルモ其私有ニ屬スルモノニ付キ何等ノ規定スル所ナク又敵國ノ間諜
 ヲナシ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタル者及ヒ豫備陰謀ノ規定ヲ缺キ又外患罪ハ外
 國人ニ適用スルヤ否ヤノ規定モ缺除セルヲ以テ議論ヲ免カレサリシナリ故ニ新
 法ハ是等ノ場合ニ付規定ヲ設ケ其缺點ヲ補ヒタリ而シテ又舊刑法ニハ其第三百
 十三條ニ於テ外國ト私ニ戰鬪ヲ開クノ罪同第三百二十四條ニ於テ局外中立ノ宣言
 ニ違背スル罪ヲ規定セシモ之レ等ハ國交ニ關スル罪トナシ新法ハ次章ニ之レヲ

規定シタリ

第八十一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ
 敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

本條ハ外國ニ意ヲ通シテ帝國ニ對シテ戰端ヲ開始セシメタルノ罪及敵國
 ニ與シテ帝國ニ抗敵シタルノ罪ヲ規定シタルモノニシテ之レ等ハ何レモ極惡ノ
 犯罪ナルヲ以テ死刑ニ處スルモノトセリ
 舊法ハ其條文中本國トアルヲ以テ其犯人ハ必ス日本人タルヲ要ス從テ外國人ハ
 假令本條ノ罪ヲ犯スモ所罰スルコトヲ得サルカ如キ結果ヲ免カレス新法ハ前ニ
 モ述ヘル如ク保護主義ヲ採用シタルモノナレハ苟クモ我國所管內ニ在留シナカ
 ラスル大罪ヲ犯シタルトキハ之レヲ罰スルコト、ナシタルヲ以テ廣ク帝國ニ對
 シ云々ト改メ又舊法ハ本條以下各條中多ク本國及同盟國ト並記シタル新法ハ同
 盟國ニ付テハ別ニ第百二條ニ於テ帝國ニ對スルト同様所罰スルコトヲ規定シタ
 ルヲ以テ各條項中ニハ同盟國ナル文詞ヲ用キス又本條ハ其他本國ニ背叛シ敵兵
 ニ附屬シタルモノト規定セシモ其附屬ナル文詞ノ意義タル廣汎ニシテ總テノ款
 ヲ通シテ敵ヲ幫助スル場合ヲ包含スルモノニシテ甚タ漠然タルヲ以テ新法ハ斯
 ル文詞ヲ避ケ單ニ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタルモノト改メ尙ホ舊法ニ規定ナ
 キ所ノ外國ト通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメタル罪ヲモ規定シタリ

次ニ本條前段ノ外國ト通謀シテ戰端ヲ開カシメタル罪ヲ構成スルニハ左ノ條件ヲ要ス

第一 外國ニ通謀シタルコト

第二 帝國ニ對シテ戰端ヲ開カシメタルコト

右第一條件タル外國トハ日本帝國版圖以外ニ存在スル所ノ一定ノ土地ト主權トヲ有スル人民ノ團體即チ一ノ國家ヲ云フモノトス故ニ一定ノ土地ヲ有セス又主權ヲ有セサル即チ國家組織ヲ以テ存立セサル所ノモノ例ヘハ海賊團體ノ如キモノハ國家ニアラサルヲ以テ從テ之レト通謀シテ帝國ニ對シテ戰端ヲ開カシムルコトアルモ本罪ヲ構成セサルモノトス

第二ノ條件タル帝國ニ對シテ戰端ヲ開カシメタルトハ即チ日本帝國ト外國トノ平和ヲ破リ外國ヲシテ日本帝國ニ對シテ戰端ヲ開始セシメタルコトヲ云フ而シテ戰爭トハ甲國ト乙國ト又一國中ニ於テ異ナリタル政黨ニ屬スル人民間ニ於ケル鬭爭關係ニシテ平和手段ニ賴テ其目的ヲ遂クルコト能ハサルモノヲ兵力ニ賴テ獲得スルコトヲ云フ而シテ本罪ノ構成ニハ戰爭ノ開始ヲ要件トナスカ故ニ平和ト戰爭トノ分界ヲ知ルノ必要アリ之レヲ沿革ニ徵スレハ往時ニ在テハ凡ソ一國カ他國ニ對シテ戰爭ヲ開始セント欲セハ先ツ其開始ノ時期ヲ敵國ニ宣告スルヲ以テ始マルモノトシ戰爭ハ即チ宣戰ニヨリテ開始セラル、モノトセシカ近世ニ至リテハ尙ホ此說ヲ主張スルモノナキニアラスト雖モ實際上ニ於テハ開戰ノ宣告ヲ

ナサ、ルモ公然戰爭行爲ヲ爲スニヨリテ開始セラル、モノトスルカ若クハ既ニ開戰ノ後ニ宣告ヲ爲スニ止マルコト一般ノ慣例トナレリ故ニ事實上公然戰爭ノ開始セラレタルトキハ本罪ヲ構成スルモノトス尤モ單ニ國際間ノ紛議ニ止マル開戰ニ至ラサルトキハ格別其開戰ニ至リタル以上ハ其結果ノ勝敗如何ニ關係セサルモノトス

本條後段ノ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル罪ヲ構成スルニハ左ノ條件ヲ要ス

第一 敵國ニ與シタルコト

第二 帝國ニ抗敵シタルコト

右第一條件タル敵國トハ日本帝國ト交戦スル對手國ヲ云フモノニシテ之レニ與シタルトキハ敵國ト一致合同スルノ意ニシテ犯人自身ニ敵ノ軍隊ニ投スルハ勿論總テ敵軍ト盟約シテ連合ノ運動ヲ爲スヲ云フモノトス
第二ノ條件タル帝國ニ抗敵スルトハ即チ日本帝國ニ對シテ兵器ヲ執リテ日本軍ニ敵對スルコトヲ云フ但其現ニ戰陣ニ臨ミタルト否トハ問フ所ニアラス唯タ干戈ヲ執テ日本軍ト戰フ可キ地位ニ在ルヲ以テ足レリトス而シテ犯人ノ日本帝國ニ抗敵スル意思ヲ有スルヲ要スルコトハ勿論ナリトス

第八十二條 要塞、陣營、軍隊、艦船、其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥、其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條第一項ハ軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル罪第二項ハ第一項以外ニ關スル軍用ニ供スル物件ヲ敵國ニ交付シタルノ罪ヲ規定シタルモノニシテ何レモ帝國ニ背叛スルノ行爲ニ外ナラサルモノトス而シテ二者ノ中前者ハ其情常ニ後者ヨリ重キモノトス故ニ之レヲ死刑ニ處シ後者ハ其情狀如何ニヨリ死刑又ハ無期ノ懲役ニ處スルモノトス

(舊刑法)第三百十條 交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ本國及ヒ同盟國ノ都府城砦又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス即チ本條前段ノ敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシムル行爲ノ如キハ新法ハ第一百一條ニ讓リ又前條ニモ述ヘタル如ク新法ハ第一百六條ニ於テ同盟國ニ對スル行爲ニ付テハ帝國ニ對スル場合ト同様本章ヲ適用スルノ規定ヲナシタルヲ以テ之レヲ删除シ其他ハ法文ニ修正ヲ加ヘタルニ過キス其精神ハ同一ナリ

本條第一項ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ條件ヲ要ス

- 第一 交戰中ナルコト
- 第二 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交

付シタルコト

右第一條件ハ別ニ説明ヲ要セス第二條件タル要塞、陣營、軍隊、艦船等ヲ列擧シタルハ之レ其例示ニ過キサルモノニシテ獨リ此等ノ場所及建造物ニ限ラス總テ其他ノ軍用ニ供スル場所及建造物ヲ敵國ニ交付シタルモノハ本條ノ罪ヲ成スモノトス而シテ交附トハ此等ノ場所及建造物ヲ引渡シテ敵國ノ占領ニ歸セシムルヲ云フモノトス尤モ本條ニ例示セル要塞、陣營、軍隊、艦船等ハ之レヲ監守スル者ニアラザレハ敵國ニ交付スルコト能ハサル可シ而シテ之レヲ監守スルモノハ軍人ノ外ナキヲ以テ此等ハ軍人ニアラザレハ犯スルコト能ハサル可キナリ其他ノ場所又ハ建造物ハ何人ト雖モ交付スルコト得ヘキモノナレハ通常人ト雖モ犯スコトヲ得ヘキモノトス

第二項ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ條件ヲ要ス

- 第一 交戰中ナルコト
 - 第二 兵器彈藥其他軍用ニ供スル物件ヲ敵國ニ交付スルコト
- 右第二ノ條件タル兵器、彈藥ハ前項ト同シク軍用ニ供スル物件ノ重ナルモノヲ例示シタルニ過キスシテ苟クモ其他ノ物件ニシテ直接ニ軍用品トシテ我軍隊ノ使用ニ供セラ、モノナルトキハ總テ本條ノ罪ヲ成立セシムルモノトス爰ニ注意スヘキハ第一項ノ如キハ其行爲アレハ敵國ヲ援助スルノ意思アルコト明カナリト雖モ本項ノ物件ヲ交付スル行爲ニ付テハ時ニ利益ノ獲得ヲ之レ目的トシテ交

付スルコトナシトセサルヘシ斯ル場合ニ於テハ其意思ノ有無ヲ知ルニ困難ナル
ト之レナリ若シ其意思ナキモノトセンカ本罪ヲ構成セサルヘシ

第八十三條 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、
汽車、電車、鐵道、電線、其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ
損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死
刑又ハ無期懲役ニ處ス

註 本條ハ新タニ設ケタル規定ニシテ即チ軍用ニ供スル所ノ要塞、陣營、艦船
兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線等其他ノ場所又ハ物ヲ損壞シ敵國ヲ援
助セントスルモノ若クハ之レカ使用ヲ爲シ能ハサラシメタルモノヲ罰スルモノ
ニシテ其罪質タル前條ノ罪ト敢テ異ナルナキモノトス故ニ其科スル所ノ刑モ亦
死刑又ハ無期ノ懲役トナスナリ

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪
ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ二三年以
上ノ懲役ニ處ス

註 本條ハ兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ニ供用セラル、物件所謂戰時禁制品ニ
屬スル物件ニ付キ規定シタルモノニシテ此等ノ物件ハ縱令我軍用ニ供セラレザ

ル所ノ一私人ノ所有ニ屬スルモノナリト雖モ苟クモ之レヲ敵國ニ交付スルコト
アレハ敵軍ノ勢力ヲ援助スルモノニ外ナラス故ニ帝國臣民タルモノ、敢テ爲ス
ヘキ行爲ニアラス假令犯人ニシテ單ニ己レノ利益ヲ得ントスルノ目的ナリトス
ルモ其交戰中ナルコトヲ知リナカラ之レヲ敵國ニ交付スルモノハ其罪輕シトセ
サルナリ故ニ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處スルモノトス而シテ本條ノ罪ヲ構成
スルニハ左ノ條件ヲ必要トス

第一 交戰中ナルト

第二 軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物件ヲ敵國
ニ交付スルコト

右條件ニ付テハ別ニ説明ヲ要セサル可シ

第八十五條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助
シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス
軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

註 本條第一項ハ敵國ノ間諜トナリ又間諜ヲ幫助シタルノ罪ニシテ第二項ハ
敵國ニ我軍機ヲ漏スノ罪ナリ之レ亦敵國ヲ援助スルモノニシテ其罪重シト云フ
可シ故ニ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處罰スルモノトナシタリ
舊法ニハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵ニ通知スル者ト定メタルモ之等ノ

事柄ハ即チ軍事上ノ機密ニ屬スルモノニ過キササルヲ以テ新法ハ本條第二項ノ如ク修正シ又舊法ニハ敵國ノ間諜ヲ誘導若クハ藏匿スルモノ云々ト規定セルモ之レ亦其間諜ヲ幫助スルノ方法ニ過キササルモノナレハ新法ハ誘導藏匿ノ行為ニ限ラス廣ク其間諜ヲ容易ナラシムルコトヲ包含セシムル爲メ幫助ノ文詞ニ改メ而シテ舊法ニハ犯人自カラ敵國ノ間諜トナリタル場合ヲ規定セサルヲ以テ新法ハ之レヲ補足シ本條ノ如ク規定シタルモノトス

本條第一項ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ要件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 交戦中ナルヲ

第二 敵國ノ爲メ間諜トナリ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタルヲ

第二條件タル間諜トハ公然タル爲戦者ノ一員トセスシテ私カニ敵情ヲ探知スルノ任ニ當ル者ヲ云フ而シテ幫助トハ總テ間諜ヲ容易ナラシムルノ行為ヲ云フモノニシテ舊法ニ示セル誘導若クハ藏匿スル行為ノ如キ適例トス而シテ敵國ノ間諜ニハ敵國人ノミナラス又敵國以外ノ外國人モ間諜タルコトアルヘキナリ

第二項ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ條件ヲ要スルモノトス

第一 交戦中ナルコト

第二 軍事上ノ機密ヲ漏泄シタルヲ

第二條件タル機密トハ軍事上ノ秘密事項ヲ云フモノニシテ例ヘハ砲臺、城塞ノ組織及ヒ軍隊ノ策略兵士ノ員數兵器ノ狀況等ヲ廣ク包含スルモノトス而シテ漏

泄トハ敵ニ我軍ノ秘密事項ヲ通知スルノ意義ニ外ナラサルナリ

第八十六條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ

一年以上ノ有期懲役ニ處ス

本條ハ前五條ニ掲クル所ノ以外ノ方法ニヨリ直接間接ニ敵國ヲ援助シ其利益ヲ與ヘ我レヲ害スルモノハ其方法ノ如何ヲ問ハス總テ之レヲ罰スルモノトナシタリ即チ前五條ニ定ムル方法ノ外尙ホ他ニ敵國ニ利益ヲ與ヘ又我軍ニ不利益ヲ與フルヲ方法種々之レアルヘキヲ以テ此等總テヲ網羅シテ處罰スルノ旨意ニ依リ本條ヲ設ケタルモノトス故ニ舊刑法第二百二十九條ノ敵兵ニ附屬スルモノニシテ抗敵スルモノト見做スコトヲ得サルモノ又ハ第三百十條ノ敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシムルカ如キ又同第三百二十二條ノ陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者ニシテ敵國ノ賂遺ヲ收受シ其命令ニ違背シ我軍備ノ缺乏ヲ致シタルカ如キ行為ハ總テ本條ニ依リ罰セラレヘキモノトス

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ別ニ説明ヲ要セスシテ明カナリ

第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫

備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
本條ハ外患ニ關スル罪ニ付テハ其豫備陰謀ヲモ之レヲ罰スルモノニシテ
舊刑法ノ欠點ヲ補ヒタル規定ナリ而シテ其豫備陰謀ノ何タルヤハ既ニ屢々述ヘ
タル所ナルヲ以テ明カナリ其他別ニ説明スルノ要ナシ

第八十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ
適用ス

本條ハ戰時ノ同盟國ニ對シテ本章規定スル所ノ犯罪ヲ犯シタル者ニモ亦
帝國ニ對スル場合ト同一ナルヲ以テ之レヲ適用シテ所罰スルモノトス而シテ同
盟ニハ平和ノ同盟ト戰時ノ同盟ノ二種アルモノニシテ本條ハ即チ戰時ノ同盟國
ニ對スル場合ニ限リ適用アルモノトス又本條ハ舊刑法ニ於テ外患ニ關スル罪ノ
各條中本國及ヒ同盟國ト規定セル其煩雜ヲ避ケ特ニ本條ヲ設ケタルモノトス

第四章 國交ニ關スル罪

舊刑法ニ於テハ國交ニ關スル罪ニ付キ規定スル所ハ唯外國ニ對シ私ニ戰
端ヲ開クト局外中立ノ命令ニ違背スルトノ二點ニ過キスシテ締盟國及ヒ其君主
大統領又ハ使節等ニ對シ暴行又ハ侮辱ヲ加ヘタル者ヲ罰スルノ規定ナシ此等ノ
罪ハ國交上ノ妨害トナルヲ固ヨリ鮮少ナラサルヲ以テ新法ニ於テハ舊刑法第百

三十三條同第百三十四條ノ罪ト此等ノ罪トヲ併セテ國交ニ關スル罪ノ一章ヲ設
ケ舊法ノ不備ヲ補ヒタリ

第九十條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行
又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタ
ル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪
ヲ論ス

本條ハ我日本帝國内ニ滞在スル所ノ外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又
ハ脅迫ヲ加ヘタル罪ヲ規定シタルモノニシテ其暴行又脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年
以上十年以下ノ懲役ニ又其侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處スルモノト
ス尤モ侮辱罪ニ付テハ外國政府ノ請求アルヲ待テ之レヲ罰スルモノトナセリ故
ニ其請求ナキ場合ニハ之レヲ不問ニ付スルモノトス之レ蓋シ其請求ナキ場合ハ
國交上ノ妨害トナラサルヘキヲ以テナリ凡ソ獨立國タル各平等ノ地位ニアルモ
ノニシテ之レカ君主又ハ大統領タル者ハ各其國家ヲ代表スルモノナルヲ以テ其
他國ニ滞在スル場合ニハ之レヲ優待待遇スルハ蓋シ列國間ノ交誼上ニ於ケル禮
節トス之レ尙ホ一個人ノ間ト同一ニシテ國交上ノ通義トス之レ獨リ政府ノミナ

ラス臣民ニ於テモ亦他國ノ君主又ハ大統領ニ對シテハ相當ノ禮節ヲ欠クヘカラサルモノナリトス若シ之レニ違犯シ暴行又ハ侮辱ヲ加ヘ其身體名譽ヲ毀傷スルコトアラシカ唯タニ國交上ノ妨害ノミナラス双方間ノ平和ヲ破リ遂ニ開戦ノ禍ヲ惹起スルコトナキヲ保セサルヘシ之レ本條ノ規定セラレタル所以ナリ而シテ本條ノ罪ヲ構成スル要件ハ先ツ第一項ノ暴行ヲ加フル罪ニ付テハ(一)暴行ヲ加ヘタルコト(二)帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對スルコトヲ要スルモノトス又第二項ノ侮辱罪ニ付テハ(一)侮辱ヲ加ヘタルコト(二)帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對スルコト(三)外國政府ノ請求アルコトヲ要スルモノトス

第九十一條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

註 本條ハ我帝國ニ派遣セラレタル外國使節ニ對シ暴行又ハ侮辱ヲ加ヘタル者ノ罪ヲ規定シタルモノニシテ其暴行ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ又侮辱ヲ加ヘタルモノハ二年以下ノ懲役ニ處スルモノトス但シ侮辱罪ニ付テハ被害者ノ請求アルヲ待テ處罰スルモノトナシタリ之レ蓋シ前條ト同シク被害者タル使節ニシテ其侮辱ノ行爲ヲ寬暇スル場合ニハ國交上ノ妨害トナラサルヲ以テナリ

トス方今各國其交通ノ密ナルヨリ相互ニ使節ヲ他國ニ派遣シ自國政府ヲ代表セシメ以テ交通ノ機關ト爲スハ之レ國際間ノ常例トナスニ至レリ故ニ此等他國ニ命ヲ奉スルノ使臣ハ所謂治外法權タル特權ヲ有シ其保護ヲ受クルヲ國際公法上ノ原則ト爲ス所ナリ然ルニ若シ此等使臣ニ對シ暴行又ハ侮辱ヲ加ヘ以テ其身體名譽ヲ毀傷スルカ如キコトアラシカ國際間ノ交誼ヲ阻害スルコト大ナリトス之レ本條ノ設ケアル所以ナリ而シテ本條ノ罪ヲ構成スルニハ先ツ第一項ノ暴行ヲ加フル罪ニ付テハ(一)暴行ヲ加フルコト(二)帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對スルコトヲ要スルモノトス而シテ使節ノ種類ヲ舉クレハ大使、特命全權公使及代理公使ノ三種トス

次ニ第二項ノ侮辱罪ニ付テハ(一)侮辱ヲ加フルコト(二)帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對スルコト及ヒ(三)被害者タル使節ノ請求アルコトノ三條件ヲ要スルモノトス

第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除却又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

註 本條ハ外國ノ國家ニ對シ侮辱ヲ加フル爲メ其國ノ國章ト爲ス所ノ國旗其

他ノモノヲ損壞若クハ除却又ハ之レヲ汚穢シタル等ノ如キ之レ亦國交上尠カラサル妨害ヲ爲スモノナルコト前二條ト同様ナルヲ以テ之レヲ二年以下ノ懲役又ハ貳百圓以下ノ罰金ニ處スルモノトス尤モ此等ノ行爲ヲ爲スト雖モ其外國政府ニシテ別段意ニ介セス看過スル場合ニハ國交上ノ障害ヲ來サ、ルヘキヲ以テ之レヲ罰スルノ必要ナケレハ其所罰ノ請求アル場合ニ限り處分スヘキモノトナシタルナリ

第九十三條 外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十四條 外國交戰ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條 本條ハ局外中立ニ關スル命令ニ違背スル罪ヲ規定シタルモノニシテ舊刑法第三百三十四條ヲ修正シタルモノトス而シテ其處分ハ三月以上五年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金トナセリ

テ之レニ干與セサルヲ云フモノトス故ニ中立國ト交戰國トノ間ニ於テハ平和ヲ保持スルモノトス而シテ此中立ヲ全フセンカ爲メニハ獨リ政府ノミナラス臣民ニモ亦之レヲ遵守セシメ以テ交戰國ヲシテ我ヲ疑ハシムルカ如キコトナキヲ要ス從テ其中立ニ關スル命令ヲ公布スルモノトス本條ハ即チ此命令ニ違背スル所ノ罪ニシテ之レヲ犯シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處斷スルモノトナシタリ

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

第九十六條 本條ハ公務員ノ職務執行ヲ妨害スル罪ヲ規定シタルモノニシテ即チ官吏、公吏職員等ノ職務執行ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ之レカ妨害ヲ爲シ又ハ或ル處分ヲ爲サシムル爲メ若クハ辭職セシムル爲メ暴行脅迫ヲナシタル者ハ何レモ三年以

下ノ懲役又ハ禁錮ニ處スルモノトス而シテ本條ハ舊刑法第三百二十九條ヲ修補シタルモノナリ

即チ舊法ニヨレハ單ニ下級ノ執行官吏トノミアリテ其適用狹キノ嫌アリ又百三十九條ノ二項ハ官吏ノ爲スヘカラサル事件ノミアルヲ以テ其正當ノ職務ヲ行ハシムル爲メナルトキハ不問ニ付セサルヘカラサルノ不都合ヲ見ル苟クモ其目的ノ如何ニ拘ハラヌ官吏公吏若クハ議員等ノ職務執行ニ對シテ暴行脅迫ヲ加フルカ如キハ公權ヲ蔑視スルニ於テ異ナルコトナキヲ以テ新法ハ廣ク公務員トナシ又或處分ヲ爲サシムル爲メトナシ其適用ノ範圍ヲ擴張シタリ加之第二項ニ於テ公務員ヲシテ辭職セシムル爲メ暴行脅迫ヲナシタル場合モ亦同様所罰スルコトトナシ之レカ規定ヲ増補シタリ又舊法第四百十條ノ如キハ殺傷罪ヲ以テ論スヘキハ別ニ明文ヲ要セサルヲ以テ之レヲ削除シタリ

尙ホ左ノ三項ニ區別シテ本條ノ罪ヲ説明ス可シ

第一 公務員ノ職務ノ執行ヲ妨害スル爲メ暴行脅迫ヲナシタルノ罪

第二 公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシムル爲メ暴行脅迫ヲナシタルノ罪

第三 公務員ヲシテ辭職セシムル爲メ暴行脅迫ヲナシタルノ罪

(一) 第一ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ三條件ヲ要ス

- 甲 職務ノ執行ニ對スルコト
- 乙 暴行脅迫ヲナシタルコト

丙 職務ノ執行ヲ妨害スルノ目的ニ出ツルコト

甲ノ條件ニ付テハ法文ノ明示スル所ニシテ別ニ説明ノ要ナシト雖モ其職務ノ執行ニ付キ適法ナルコトヲ要スルヤ否ヤニ付テハ立法上積極消極ノ二説アリト雖モ蓋シ積極説即チ適法ノ執行タルコトヲ要スルモノト爲スヲ正當トス而シテ夫レ如何ナル場合ニ適法トスルヤ否ヤハ事實問題ニ屬ス要スルニ(一)公務員タルコト(二)職務ノ執行ナルコト(三)其職權アルコトノ三條件ヲ具備スルトキハ其公務員ノ行爲ハ常ニ正當ノ職務執行ト見做スヘク一私人ハ決シテ之レヲ妨害スルコトヲ得ス若シ之レヲ妨害セントシテ暴行脅迫ヲ爲シタルトキハ本條ノ制裁ヲ免カル、コトヲ得サルモノト爲ス可シ而シテ此等ノ條件ハ法文ニ明示セスト雖モ公權ノ執行ニ對シテ不正ノ腕力ヲ弄スルノ行爲ナルヨリシテ自ラ劫了セラレ、モノトス故ニ公務員カ其職務執行トシテ他ノ公務員ノ職務執行ヲ妨害スルコトアルモ本條ノ罪トナラサルナリ何トナレハ此場合ニ於ケル公務員ノ行爲ハ各公權執行ノ行爲ニシテ他ノ職務執行ヲ妨害スル行爲ニアラサルノミナラス故ラニ之レヲ妨害セントスルノ意思ヲ有セサレハナリ故ニ妨害ヲ爲スモノハ一私人タルコトヲ知ルヘシ尤モ爰ニ一私人ト云フハ官吏ノ資格ヲ有セサル者ト云フノ意ニアラス假令官吏ノ資格ヲ有スル者ト雖モ其職務ノ爲メニ爲シタルニアラサルトキハ本條ノ犯人タルヲ免カレス而シテ公務員トハ第八條ノ規定ニ依リ明カナルヲ以テ爰ニ贅セス

乙ノ條件タル暴行トハ廣ク云フトキハ不正ニ腕力ヲ用ユルコトヲ意味スルモノニシテ物ニ對スルト人ニ對スルトヲ問ハサルモノ也而シテ其人ニ對スル場合ニモ或ハ疾病創傷ノ結果ヲ生スルカ如キモノト或ハ否ラサルモノトアルヘシ本條ニ所謂暴行トハ公務員即チ人ニ對スル暴行ニシテ疾病創傷ノ結果ヲ生セサル程度ノ不正ノ腕力ヲ云フモノトスヘシ而シテ人ニ對スルモノナルカ故ニ身體ニ直接ナルハ勿論又間接ナルモ妨ケサルモノトス例ヘハ方サニ開カントシツ、アル門戸ヲ閉ツルカ如キ又官吏ノ手ニセル物ヲ奪ハントスルカ如キハ直接ニ物ニ對スル行爲ナリト雖モ間接ニ人ニ對スル行爲ナルヲ以テ所謂暴行タルヲ免カレス單ニ偽計詐術ヲ行ヒ妨害スルモ決シテ本罪ヲ構成セサルナリ次ニ脅迫トハ廣ク云ヘハ其手段ノ如何ヲ問ハス總テ人ノ心裡ニ恐怖心ヲ惹起セシムル行爲ヲ云フモノナリト雖モ其手段ニ依テ區別スレハ有形的ナル場合ト無形的ナル場合トアルヘシ而シテ本條所謂脅迫トハ有形的ナルモノヲ云フモノトス例ヘハ白刃ヲ擬シテ殺害セントスルカ如キ切迫ナル危險ヲ受クヘキ恐怖心ヲ惹起セシムルモノノミヲ云フモノニシテ唯タ口頭ニテ汝ノ惡事ヲ曝露セントカ又ハ他日汝ノ家ヲ燒クヘシト云フカ如キハ無形的ニシテ急迫ナラサルモノハ之レヲ包含セサルモノトス

丙ノ條件タル犯人ニシテ職務ノ執行ヲ妨害スルノ意思ヲ要スルコトハ殆ント説明ヲ要セスシテ明カナリ即チ犯人ニシテ公務タルニト及ヒ其職務ノ執行タルコト

トヲ知リツ、其執行ヲ妨害スルノ意思アレハ本條件ヲ充タスニ足ルモノトス故ニ若シ此ノ二者中其一ヲ缺クトキハ本罪ハ構成セス

(二) 公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシムル爲メ暴行脅迫ヲナシタル罪ヲ成立スルニハ左ノ三條件ヲ要ス

甲 公務員ノ職務ノ執行ニ對スルモノナルヲ

乙 暴行脅迫ヲ爲スコト

丙 或處分ヲ爲サシムルノ目的ニ出ツルコト

甲乙ノ二條件ニ付テハ前第一ニ於テ説明シタルヲ以テ爰ニ贅セス

丙ノ條件タル或處分トハ其公務員ノ職權上爲シ得ヘキ事項タルト否ト又適法行爲タルト不適法行爲タルトヲ問ハス苟クモ其公務員ノ意思ニ反シ暴行脅迫ヲ加ヘテ強テ或處分ヲ爲サシメタルモノハ總テ之レヲ包含スルモノトス蓋シ本條ノ規定タル畢竟公務員其人ヲ保護スルニアラシテ公權ヲ保障スルカ爲メニ存スルモノナルヲ以テナリ之レ舊法ト異ナル點ナリトス

(三) 公務員ヲシテ辭職セシムル爲メ暴行脅迫ヲナシタル罪ニ付テハ別ニ説明ヲ要セサルヘシ唯一言スヘキハ辭職セシメントスルコトハ職務ノ執行ニハ關係セサルモ亦公權ヲ蔑視スルモノニシテ換言セハ官吏公吏議員等ノ任命權ニ對シテ妨害ヲ加フルモノトス故ニ之レヲ不問ニ付スルヲ得サルモノトス

以上三個ノ罪ニ付テハ何レモ其罪質ヲ同フスルカ故ニ共ニ三年以下ノ懲役又禁

鋼ニ處スルモノトナシタリ

第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無効タラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ封印ノ破棄又ハ差押ノ標示ノ破棄タル公權侵害ノ犯罪ニ付キ規定シタルモノニシテ蓋シ簡易ノ保管ヲ全フスルノ目的ニ出テタルモノナリ

第六章 逃走ノ罪

舊刑法ハ囚徒逃走ノ罪罪人藏匿ノ罪及罪證隠蔽ノ罪ヲ一節トナシ靜謐ヲ害スル罪ノ章下ニ於テ規定セシト雖此等ノ罪ハ孰レモ裁判權ノ執行ニ關スルモノナルヲ以テ新法ハ公權ニ對スル罪ノ部ニ列シ囚徒逃走ノ罪ト他ノ罪トヲ區別シテ之レヲ規定シタリ

第九十七條 既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ單純逃走ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ舊刑法第四百四十二條ニ既決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス同第四百四十四條ニ未

決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第四百四十二條ノ例ニ同シト規定シ即チ既決未決ヲ區別シテ二ヶ條ニ規定セシヲ新法ハ之レヲ合シテ本條トナシ而シテ處分ニ付テハ舊法ヨリ其範圍ヲ廣クセシモ其法意ニ至リテハ異ナルコトナシトス而シテ本條ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ二條件ヲ要ス

第一 囚人タルコト

第二 逃走ノ行爲アルコト

第一條件タル囚人トハ法律ノ規定ニヨリ獄舎ニ繋留セララル、者ヲ云フモノニシテ詳言セハ刑事判決執行ノ爲メ又ハ犯罪ノ嫌疑ニ因リ獄舎ニ拘留セララル、者ヲ云フ而シテ前者ヲ既決囚ト云ヒ後者ヲ未決囚ト云フ

第二條件タル逃走トハ拘禁若クハ監督セララル、場所ヲ遁カルルヲ云フモノニシテ即チ不法ニ拘禁監督ヲ脱スルノ行爲ナリ例ヘハ監守人ノ懈怠ニ乘シ獄舎ノ門戸障壁ヲ踰越シ或ハ鎖鑰又ハ戸扉ヲ開キ若クハ監守人ヲ欺キ逃走スルカ如キ又此等脱獄ノミナラス獄舎外ニ於テ勞役ニ服スル場合ニハ其服役ノ場所ハ即チ監督ヲ受クル場所ナルヲ以テ擅ニ其監督者タル監守押丁等ノ監督區域ヲ逃走スルカ如キ之レナリ

右二要件ノ外犯罪一般ノ要素タル犯意即チ逃走ニ因リ自由ヲ回復スルノ意思アルコトヲ要スルハ勿論ナリ故ニ逃走ノ意思ナキ水火震災ノ際其危難ヲ避ケンカ爲メニ脱獄スルカ如キハ即チ本罪ヲ成立セサルモノトス

次ニ本條規定ノ單純逃走ノ手段ハ千態萬狀ニシテ爰ニ一々之レヲ舉示スルコトヲ得サルモ要スルニ複雜逃走トシテ規定セラレタル以外ノ場合ニ於テハ總テ單純逃走罪ヲ構成スルモノトス立法上古來單純逃走罪ハ之レヲ罰スヘキヤ否ヤニ付キ積極消極ノ二説ニ分カル、所ナリト雖モ本法ハ積極説ヲ採用シ之レヲ罰スルモノトナシタルカ故解釋上ニ於テハ議論ノ餘地ヲ存セス

第九十八條 既決、未決ノ囚人又ハ拘引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ複雜逃走罪ヲ規定シタルモノニシテ之レ亦既決未決ノ囚人ニ共通ナルモノトス而シテ前條ノ單純逃走罪ハ實ハ本條ノ基本トナルモノニシテ其成立要件ハ即チ前條ノ要件ニ本條ノ條件ヲ加フルトキハ爰ニ本條ノ罪ヲ構成スルモノトス故ニ其特別ノ條件ノミヲ説明スヘシ

- 第一 拘禁場又ハ械具ヲ損壞シタルコト
- 第二 暴行脅迫ヲナシタルコト
- 第三 二人以上通謀シタルコト

(一) 拘禁場トハ囚人ヲ留置スルカ爲メニ法律ノ設ケタル建造物ニシテ即チ現行監獄法ニ所謂集治監、假留置監、地方監獄、拘留監、留置場及ヒ懲治場ヲ云フ故ニ苟クモ獄舎ヲ構成スル部分ナランカ内部ニ於ケル監房ノ戸扉又ハ鎖鑰タルト外部ニ於ケル障圍又ハ門扉タルトニ論ナク之レヲ損壞スルニ於テハ常ニ本罪ヲ構成ス械具トハ囚人ヲ拘束シ又ハ懲戒スル爲メ特ニ拘禁場ニ備付ケラレタル物品ヲ總稱スルモノニシテ捕繩、手錠、連鎖等ノ類ヲ云フ故ニ拘束又ハ懲戒ノ用ニ供セサルモノ即チ例ヘハ獄衣食器其他起臥ノ用ニ供スル器具ノ如キハ爰ニ所謂械具ト云フコトヲ得サルモノトス損壞トハ有形的ニ物件ヲ毀損スルヲ云フモノニシテ夫ノ手錠捕繩連鎖等ノ如キ物ヲシテ其用ヲ失ハシムル行爲ヲ云フ從テ單ニ手錠ヲ解脱シ又ハ捕繩ヲ解キ去ルカ如キハ爰ニ所謂損壞ニハアラサルナリ

(二) 暴行脅迫ニ付テハ第百十二條ノ下ニ於テ説明シタルヲ以テ爰ニ贅セス

(三) 二人以上ノ通謀トハ共ニ逃走セントスル二人以上ノ意思ノ共通ヲ云フモノニシテ即チ一致共同シテ逃走セントスルモノナリ其他別ニ説明スルノ要ナシ

以上三個ノ手段ヲ以テ逃走シタルトキハ其情狀タル單純ナル逃走ノ場合ニ比シテ罪責重キヲ加フルカ故ニ三月以上五年以下ノ懲役ニ處スヘキモノトナシタルモノナリ

第九十九條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

前二條ハ囚人自カラ逃走シタル罪ニシテ本條ハ他人カ囚人ヲ奪取シ依テ其拘禁若クハ監督ノ場所ヲ脱セシメタル場合ナリ

第一百條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條モ亦前條ト同シク他人カ囚人ノ逃走ヲ幫助シタル場合ノ規定ニシテ本條ヲ構成スルニハ左ノ二條件ヲ要スルモノトス

第一 被拘禁者ヲ逃走セシムル目的ナルコト

第二 器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシメタルコト

第一條件ニ付テハ別ニ説明ヲ要セス而シテ第二條件タル器具トハ總テ逃走ノ用ニ充ツルコトヲ得ヘキモノニシテ例ヘハ鋸、釘拔、梯子等ノ如キモノヲ云フモノトス然レモ之レ唯例示ニ過キスシテ其他如何ナル手段ニ因ルモ苟クモ逃走ヲ容

易ナラシメタルトキハ本罪ヲ構成スルモノトス即チ逃走シ得ル方法ヲ指示誘導スルカ如キ又時ニ逃走セシムルノ意思ヲ以テ戸扉ヲ開放シ置クカ如キ之レナリ而シテ此等逃走ヲ幫助シタルモノハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處スルモノトナシタリ

又第二項ニ於テハ逃走ヲ幫助スルニ付キ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ更ニ其情狀重キモノナルヲ以テ前條囚人ヲ奪取シタル場合ト同シク三月以上五年以下ノ懲役ニ處スルモノトナシタリ

第一百一條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ監守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ看守者又ハ護送者ノ被拘禁者ヲ逃走セシメタル罪ヲ規定シタルモノニシテ此等ノ人ハ囚人ヲ看守シ又ハ護送スルノ職務ヲ有スルモノナレハ特別ニ注意スヘキ義務アルニモ拘ハラス故ラニ其義務ニ背キテ逃走セシムルハ常人ノ刑ニ比シテ一層重カラサルヲ得サルナリ之レ本條ノ規定アル所以ナリ而シテ本條ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ二條件ヲ要スルモノトス

第一 被拘禁者ヲ看守シ又ハ護送スル者ナルコト

第二 其看守シ又ハ護送スル被拘禁者ヲ逃走セシメタルコト

被拘禁者ヲ看守護送ノ義務ヲ有スルモノハ司獄官警察官及憲兵卒等之レナリ而シテ此等ノモノニシテ其看守又ハ護送スル被拘禁者ヲ逃走セシムルコトヲ要スルモノナルカ故ニ此等ノ職責ナキ即チ看守又ハ護送セサル被拘禁者ヲ逃走セシムルモノ一己人トシテ所罰セラルハ格別本條ノ犯罪トシテハ所罰セラレサルモノトス故ニ被拘禁者ヲシテ自己ノ監護ヲ脱セシメタル場合ニ於テ始メテ本罪ヲ構成スルモノナリ從テ逃走セシメントシタル囚人ニシテ未タ其監護ヲ脱セサルトキハ未遂犯タルニ止マル可シ

次ニ舊刑法ハ第百五十條ニ於テ看守又ハ護送者懈怠ニ因リ逃走シタル場合モ亦之レヲ罰スルノ規定ヲナシタリト雖モ懈怠即チ不注意ニ出テタルモハ職務上ノ過失タル責任ハ免カルヘカラサルヘシト雖モ尙ホ刑罰ヲ科シテ其過失ヲ責ムルハ太甚タ酷ナルヲ以テ新法ハ斯ル規定ヲ廢止シタリ

第百二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ別ニ説明ヲ要セス

第七章 犯人藏匿及ヒ證據湮滅ノ罪

舊刑法ノ罪證湮滅ニ付キ規定スル所ハ他人ノ罪ヲ免カレシメンコトヲ圖リ其罪證トナルヘキ物件ヲ隱蔽シタル場合ニ止マルヲ以テ甚タ狹隘ニ失シ不都

合抄ナカラス蓋シ罪證ヲ湮滅スルハ其目的必スシモ被告人ノ利益ノ爲メニスルモノニ限ラサルノミナラス單ニ罪證トナルヘキ物件ヲ隱蔽シタル者トノミ規定シテ其他ノ事ニ及ハサルカ故ニ同シク罪證ヲ隱蔽スル行爲モ有形ノ物件ニアラサレハ之レヲ罰スルコトヲ得ヌ例ヘハ犯罪ノ場所ニ留存スル淋漓タル流血ヲ拭ヒ去ルカ如キ亦罪證ヲ湮滅スルモノナレモ所謂物件ニアラサルヲ以テ之レヲ不問ニ付スルノ外ナカルヘシ其他被告事件ニ關スル證據ヲ偽造變造スルカ如キ其果裁判權ノ執行ヲ妨害スルニ至ルハ敢テ證據ヲ湮滅スルト異ナル所ナキカ故ニ新法ニ於テハ亦之レ等ノ者ヲモ罰スルコト、ナシタリ

第百三條 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ一二年以下ノ懲役又ハ一二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ罪人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシムル者ノ罪ヲ定メタルモノニシテ本條ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ二條件ヲ要ス

- 第一 藏匿若クハ隱避セシムルノ行爲アルコト
 - 第二 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又拘禁中逃走シタルモノナルコト
- (一) 藏匿トハ犯人ニ對シテ隱匿ノ場所ヲ給與スルコトヲ云フ例ヘハ犯人ヲ自己ノ家宅内ニ潜伏セシメ又ハ衣類容貌等ヲ變セシメテ其發見ヲ妨タルカ如キ

行爲ヲ云フ隠避トハ犯人ノ潜伏セントスル行爲ヲ援助スルヲ云フ例ヘハ旅費ヲ與ヘテ逃走セシメ若クハ隠匿スルニ適當ナル場所又ハ方法ヲ指示スルカ如キ行爲ヲ云フ尤モ一私人ハ進テ公權ノ執行ヲ幫助スルノ義務ナキノミナラス爰ニ所謂藏匿又ハ隠避トハ何レモ積極的ノ行爲ヲ意味スルモノナルカ故ニ犯人ノ潜伏スルヲ知リナカラ之レヲ官ニ告發セサルカ如キハ本罪ヲ構成スルモノニアラス

(二) 犯罪人罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又拘禁中遁走シタル者ヲ藏匿隠避シタルモノナリ

以上二條件ノ外其者ハ以上ノ條件ノモノタルコトヲ知リ之レヲ藏匿若クハ隠避セシムルノ犯意ヲ要スルハ固ヨリ言フ俟タサル所ナリトス爰ニ注意スヘキハ外國ノ法律ヲ犯シタル犯人日本ニ遁カレ來リタルニ方リ犯人引渡條約ニヨリ其引渡ヲ求メラレ之レヲ搜索スル場合ニ其犯人ヲ藏匿又ハ隠避セシムルモ日本裁判所ノ行爲ヲ妨害シタルモノニアラスシテ行政上ノ處分ヲ妨ケタルニ過キサレハ本條ノ犯罪トナラサルコト之レナリ

第四百四條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造變造シ若クハ偽造變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ證憑湮滅ノ罪ニ付キ規定シタルモノニシテ舊刑法ハ其第五百二十二條ニ於テ罪證ヲ隠蔽スルノ罪トシテ規定セシモノナリ然ルニ舊法ハ前ニモ述ヘタル如ク犯人ヲシテ罪ヲ免カレシムル目的ニテ其罪トナルヘキ證據物件ヲ隠蔽シタル云々トアリテ被告人ノ利益ヲ目的トスル範圍ニ限リタルヲ以テ甚タ狹隘ニ失ス加之本條ノ罪ハ裁判權ヲ妨害スルニアルモノナレハ單ニ被告人ノ利益ノ爲メニスル場合ト否ラサル場合トニ拘ハラサルモノナルヲ以テ本條ハ廣ク刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ其證憑ヲ偽造變造シ若クハ其偽造變造シタル證憑ヲ使用シタル者ト修正シ被告人ノ利不利共ニ包含セシムルモノナリ而シテ本條ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ二條件ヲ要ス

第一 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑タルコト
第二 證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造變造シ若クハ其偽造變造シタル證憑ヲ使用シタルコト

(一) 他人カ被告トシテ訴追ヲ受ケタル事件ニ關スル證憑ナルカ故ニ若シ自己ノ被告事件ニ關スルモノナルトキハ罪トナラサルナリ而シテ證憑トハ該被告事件ノ事實ヲ證明スルノ材料トナルヘキ總テノモノヲ云フモノニシテ其事實トノ關係ニ於テハ直接タルト間接タルトヲ問ハサルモノトス故ニ證據ト云フ意義ヨリハ廣キ意味ヲ有スルモノトス
(二) 湮滅トハ證憑トナルヘキモノヲ滅失セシムルコトヲ云フ又偽造トハ真正

ナラサルモノヲ恰カモ真正ノモノ、如クニ製作スルヲ云ヒ變造トハ真正ノモノヲ變更スルヲ云フ而シテ偽造變造ニ付テハ自カラ之レヲ爲スカ又自カラ之レヲ爲サ、ルモ其偽造變造セラレタルモノヲ證憑トシテ行使スルモ亦本條ノ罪トナルヘキモノトス

第百五條 本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

釋義 本條ハ本章規定スル所ノ罪人藏匿及證憑湮滅ノ罪ヲ犯シタルモノニシテ若シ犯人又逃走者ノ親族ニシテ其者ノ利益ノ爲メナルトキハ之レヲ罰セサルモノトナシタリ蓋シ親族ノ間柄ナルトキハ特ニ親密ナル關係ヲ有シ常ニ休戚ヲ共ニスルモノナルヨリ其利益ヲ計ルハ人情ノ然ラシムル所ナルヲ以テ殆ント自己ノ罪證ヲ隱蔽スルト異ナルナキモノト見做ス可キヲ以テナリ舊刑法ニ於テモ亦本條ト同一ノ旨趣ニヨリ其第百五十三條ニ前二條ノ罪ヲ犯シタルモノハ犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セスト規定セリ

第八章 騷擾ノ罪

釋義 本章規定スル所ノ罪ハ舊刑法ノ所謂兇徒聚衆罪ニシテ夫ノ或事ヲ強制シ若クハ凶年ニ際シテ賑恤ヲ促サンカ爲メ多衆相集リテ官廳若クハ富豪ノ家ニ迫

ルカ如キ所爲ヲ云フモノトス然ルニ舊刑法ハ之等ノ所爲ニ對シ兇徒又ハ暴動ナル文詞ヲ用タルモ兇徒聚衆ト云ヘハ多衆ノ聚合ニ先チテ兇徒ノ存スルカ如ク解セラレ加之本罪タル良民ト雖モ多衆相集マリ暴行強迫等ヲ爲スニヨリテ成立スルモノナレハ兇徒ナル文詞ハ必竟蛇足ニ過キス又此等多衆ノ力ニヨリ官廳若クハ富豪ノ家ニ逼迫シ以テ都市ヲ騷擾シ平和ヲ害スルニ過キサルモノナレハ内亂罪ノ如キ擧兵若クハ之レト同様ナル暴擧暴動ニヨリ國內ヲ動搖セシムルカ如キ行動ト相異ナルモノトス故ニ之レヲ暴動ト稱スルハ穩當ナラサルヲ以テ新法ハ騷擾ノ罪トナシ又其所爲ヲ暴行強迫ト改メタル所以ナリ而シテ又内亂罪ト區別ヲナシタリ又舊刑法ハ其第百三十八條ニ於テ暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタルモノ、規定ヲ設ケタリト雖モ此等ハ暴動ニ乘シテ犯シタル普通ノ殺人罪若クハ放火罪ニシテ唯其情狀重キヲ加フニ過キサルモノナレハ特ニ一ケ條ヲ設クルノ必要ナキヲ以テ新法ハ之レヲ删除シタリ

第百六條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ

三 六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
附加隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ或ル目的ヲ達スル爲メ多衆聚合シテ暴行脅迫ヲナシタルモノハ之レヲ騷擾ノ罪トナシ之レヲ罰スルコトヲ規定シタルモノナリ而シテ其處分ニ付テハ(一)其首領タル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又禁錮ニ處シ(二)他人ヲ指揮シ又ハ他人ノ先導者トナリテ其勢ヲ援ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又禁錮ニ處シ(三)單ニ附加隨行シタル者ノ如キハ五十圓以下ノ罰金ニ處スルモノトナシタリ

舊刑法ハ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動云々ト云ヒ三ヶノ場合ヲ例示ヲナセリ新法ハ前ニ述ヘル理由ニヨリ暴動ヲ暴行脅迫ト改メ而シテ其例示ヲナサスト雖旧刑法ニ例示セルカ如キ場合ハ當然暴行脅迫ノ中ニ包含セラル、モノトス而シテ處分ニ付テハ新舊共ニ三階級ニ區別シ其刑ノ範圍ニ付キ擴張シタルニ過キス

次ニ本條ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ二條件ヲ要ス

- 第一 多衆聚合スルコト
 - 第二 暴行又ハ脅迫ヲナシタルコト
- 第一條件タル多衆聚合トハ讀如字多衆相嘯聚スルヲ云フモノナリ而シテ其人員

ハ制限ナキヲ以テ幾人以上聚合スレハ多衆ト云ヒ得ルヤ否ヤハ事實問題ニシテ裁判官ノ認定ニ任スルノ外ナキナリ

第二條件タル暴行脅迫トハ第一百二十二條ニ於テ説明シタルニヨリ爰ニ贅セス尤モ舊法ニ例示セル場合ノ如キ即チ或ル事項若クハ或ル處分ノ取消ヲ請願スル爲メ多人數相集リ當該官廳若クハ官吏ニ對シ又ハ凶年ニ際シ賑恤ヲ求ムル爲メ富豪ノ家ニ對シ暴行脅迫ヲナシ以テ官廳ニ喧鬧シ村市ヲ騷擾セシムルヲ云フモノニシテ而シテ其目的如何ハ本罪成立ノ要件ニハアラサルナリ故ニ如何ナル目的ニ出ツルモ妨ケナキモノトス之レ亦内亂罪ノ朝憲紊亂ヲ以テ目的トスルモノト異ナル一點ナリ

第一百七條 暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ或ル目的ヲ達スル爲メ多衆ヲ聚合シタルノミニテ未タ暴行脅迫ノ行爲アラサル以前ニ在リテ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサル場合ニハ其首魁タルモノハ三年以下ノ懲役又禁錮ニ處シ其他ハ五十圓以下ノ罰金ニ處スルモノトナシタリ故ニ若シ其説諭ヲ受ケテ其説諭

三回ニ至ラスシテ解散シタルトキハ罪トナラサルモノトス蓋シ本罪ノ所爲タル夫ノ國事犯ヲ企ツルカ如キ重大ナルモノニアラサルモ一旦既遂ニ至ルトキハ依テ生スル所ノ害亦大ナラスト云フヘカラス故ニ可成犯人ヲ誘導遷善シテ以テ大事ニ至ラサラシメントスルノ政策ニ外ナラサルナリ

即チ舊法ニハ………謀リ………トアルヲ以テ單ニ陰謀ノミヲ指シ豫備ノ所爲ヲ包含セサルカ如キ嫌アルヲ以テ新法ハ之レヲ修正シテ目的ヲ達スル爲メ多衆聚合シテ改メ以テ兩者ヲ包含セシムルコト、ナシ其他教唆者ニ付テハ總則ノ規定ヲ適用スルヲ以テ足ルカ故ニ之レヲ删除シタルモノトス

本條ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ二條件ヲ要ス

第一 多衆聚合シタルコト

第二 暴行脅迫ノ行爲前ナルコト

第三 當該公務員ノ解散ノ説諭ヲ受クルコト三回ニ至ルモ解散セサルコト

第一條件ハ前條ニ於テ説明シタルヲ以テ之レヲ略ス

第二條件タル暴行脅迫ノ行爲前トハ或目的ヲ達センカ爲メ暴行脅迫ヲ爲サントシテ多衆ヲ嘯聚スルモ未タ其暴行脅迫ヲ爲サル場合ニシテ換言セハ前條ノ既遂以前ノ行爲ナルコトヲ云フ故ニ其陰謀又ハ豫備ノ場合ニアリテハ勿論ナリトス

第三條件タル當該公務員トハ行政上官吏公吏即公安ニ關スル行爲ニ付キ説諭ヲ加フル職權又ハ義務アル官吏公吏ヲ云フモノトス即チ府縣知事郡區長警察官等

トス從テ各省參事官又ハ判檢事等ノ如キハ爰ニ所謂官吏ニ包含セラレサルモノトス

第九章 放火及ヒ失火ノ罪

第一百八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罪セス

本條ハ現在ニ人ノ住居ニ使用セラレツ、アリ又ハ人ノ住居ニ使用セラレサルモ其時ニ於テ人カ現在スル處ノ建造物、汽車、電車、船舶又ハ鑛坑ニ火ヲ放テテ燒燬シタル者ハ死刑又無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス可キヲ定ム

舊法ニ於テハ其建造物カ人ノ住居セサルモノナルキハ假令放火ノ當時其内ニ人カ現在スルモ尙人ノ住居セサル家屋トシテ處罰シ其危險ノ度ニ於テ人ノ住居家屋同一ナルニモ拘ハラズ之ヲ嚴罰セサルハ不權衡タルヲ免レサルヲ以テ新法ハ放火ノ當時現ニ人カ存在スルトキハ人カ住居スル家屋ト均シク處罰スルト爲

シ且新法ハ家屋船舶汽車ノミナラス電車鑛坑ニモ適用スルコト爲シタリ
 本條ノ罪ヲ構成スルニハ次ノ三原素ヲ以テ成ル即チ(一)火ヲ放チテ燒燬スルコ
 ト(二)其物體ハ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人カ現在スルコト(三)故意アルコトナリ
 (一) 火ヲ放チテ燒燬スル事

本法ハ單ニ火ヲ放テ云ニアルノミニシテ其方法ノ如何ヲ定メス故ニ苟モ犯人
 カ燒燬セント欲スル物件ニ對シ火力ニ依ル化學的作用ヲ起サシムルノ方法ヲ
 施シタルトキハ火ヲ放ツト言フヲ妨ケサルナリ

燒燬スルトハ其意如何換言スレハ燒燬ノ已遂未遂ノ區別如何、本罪ノ已遂未
 遂ニ付テハ從來學說區々ニシテ其所說一ナラサルモ余ノ信スル處ヲ以テスレ
 ハ家屋其他ノ物件ニ付テ其僅少部分ヲ燒燬セサルノミニテハ足レリト(雖凡)
 セス必ラス其物件ノ部分ヲ燒キ其物自身ノ形體ヲ失ハシムルヲ以テ已遂トス
 之ヲ人身ニ譬フレハ人ノ身體ニ負傷セシメタルノミヲ以テ殺人ノ已遂トセス
 其人自身ノ生命ヲ奪フヲ以テ殺人ノ已遂ト爲スカ如キナリ

(二) 其物體ハ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ當時人カ現在スルコト
 現ニ人ノ住居ニ使用シトハ放火ノ當時人カ住居ニ使用シツ、アル處ノ物件ナ
 ルトキハ其時ニ於テ人カ現在スルト否トヲ問ハサルノ意ナリ又當時人カ現在
 スルトハ假令平常人カ居住又存在セサルトキハ危險著シキヲ以テ之ヲ嚴罰ス
 ルコト爲シタルナリ

本條人トハ犯人以外ノ人ヲ言フナリ故ニ假令自己所有ノ物件ト雖凡自己以外
 ノ人ノ存在スルトキハ其制裁ヲ免ル、ヲ得サルナリ

(三) 故意アル事

放火モ亦他ノ犯罪ト均シク故意アルコトヲ要ス故ニ全ク家屋其他ノ物件ヲ燒燬
 スルノ意思ナク唯疎虞懈怠ノ爲ニ偶然ニ火災ヲ起シタル場合ハ勿論假令物件
 ニ火力ヲ加フルモ全ク其目的燒燬ニ非サルトキ即竊盜カ戸締リヲ燒キ切ラン
 トシテ量ラス家屋ニ延燒シタル如キ放火ノ責任ヲ負ハサルナリ

第百九條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セ
 サル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ
 有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役
 ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

本條ハ前條ノ物件ニ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人カ現在セサル處ノ建
 造物、汽車、電車、船舶又鑛坑ニ火ヲ放チテ燒燬シタルモノ、刑ヲ定ム
 前項ノ物件ニシテ自己ノ所有ニ係ルトキノ刑ヲ定ム
 舊法ハ放火ノ罪ヲ以テ私人ノ財産ヲ害スルノ點ヲ罰スルヲ目的ト爲シタルカ故

ニ自己所有ニ屬スルモノニ放火スルハ不問ニ附シタリシモ新法ハ私人ノ財産ヲ害スルヲ罰スルヲ目的トセスシテ社會ノ安寧ヲ害スルノ點ヲ罰スルヲ目的ト爲シタリ即靜謐ヲ害スルヲ罰ス故ニ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ罰スルト爲シタリ現ニ人ノ住居セストハ俗ニ所謂明家ニシテ平常ヨリ人ノ住居セサル家屋ヲ云フ又人ノ現ニ在ラサル建造物其他ノ物件ニ放火シタル所爲ヲ罰ス前條ノ如キ人ノ住居ニ供セラレツ、アル處ノ家屋等ニハ人ノ財産アリ又人カ現ニ存在スルトキハ財産ハ勿論人命ニ危險アルヲ以テ重ク罰スルノ必要アルモ本條ノ如キハ直接ニ是等ノ危險ナキヲ以テ其罰ヲ輕クシタリ

第一百十條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

釋 本條ハ山林田地ノ竹木穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物ニ火ヲ放テ燒燬シタルモノ、刑ヲ定ム

前項ノ物件ニシテ自己ノ所有ニ係ルトキト雖モ放火ノ爲メ公共ノ危難ヲ生ス可

キトキニ於ケル刑ヲ定ム其自己ノ物ヲ燒燬スルニ際シ他人ノ物ニ延燒シタルトキノ刑ヲ定ム

第一百十一條 第九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ**第一百八條**又ハ**第九條**第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

釋 本條ハ第九條第二項又ハ前條第二項ノ如キ總テ自己ノ物ヲ燒燬シ爲ニ**第一百八條**又**第九條**第一項ニ記載スル處ノ物件ニ延燒セシメタル者ノ刑ヲ定メタルモノニシテ始メノ罪ハ重カラサルモ其結果ニ至リ危害ノ増加シタルノ故ヲ以テ刑ヲ重クシタルモノナリ其第二項ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ之カ爲ニ前條第一項ノ物件ニ延燒シタル場合ノ刑ヲ定メタルモノニシテ其理由ハ前項ニ同シ

第一百十二條 **第八條**及**第九條**第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

釋 本條ハ未遂罪ノ場合ニモ處罰スルナリ

第一百十三條 **第八條**又ハ**第九條**第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ

以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

本條ハ放火ノ豫備ヲ罰スルノ法ニシテ就中第百八條又ハ第百九條第一項ノ如キ危險ノ大ナルモノハ豫備ノ場合ニモ處罰スルモノナリ

第百十四條 火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ鎮火ヲ妨害シタルモノ、罪ヲ定メタルモノニシテ其防害ノ方法ニ於テ鎮火用ノ物品即梯子ポンプ飛等ノ如キモノニシテ隱匿シ又ハ損壞シテ用キルコト能ハサルニ至ラシメ其他種々ノ方法ニ於テ鎮火ヲ妨害シタル場合ノ罪ナリ

第百十五條 第百九條第一項及ヒ第百十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

本條ハ第百九條第一項及第百十條第一項ニ記載シタルモノカ自己ノ所有

ニ係ルトキト雖モ差押ヲ受ケ物權ヲ設定シ又ハ人ニ貸與シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ刑ト同一ニ論ス可キヲ定ム抑差押ヲ受ケレハ訴訟關係ノ爲メ他人ヨリ民事訴訟法ノ規定ニ依リ差押ヲ受ケタルモノニ係ルトキ物權ヲ設定シトハ民法ノ規定ニ依ルトキ又ハ他人ニ貸與中ノ物件ニ係ルトキ若クハ自己占有中ト雖モ損害保險ニ附シアルトキ等ニ於テハ之ヲ燒燬スルトキハ其責任上他人ノ物ヲ害スルト同一ナルヲ以テ本條ノ規定アル所以ナリ

第百十六條 火ヲ失シテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シテ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

本條ハ過失ニ依リ火ヲ失シテ第百八條ニ記載シタルモノ又他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタルモノヲ燒燬シタルモノ、刑ヲ定メタリ即本條ノ過失トハ所謂疎虞懈怠ニ依リ過テ火災ヲ起シタルモノナリ故ニ不可抗力ニ依リ起リ

タル火災ニ疎虞懈怠ノ認ム可キナキトキハ本條ノ問フ所ニ非サルナリ
第一百七條 火藥、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第
 百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記
 載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ
 係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第一百條ニ記載シタル物
 ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ
 前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ
 本條ハ火藥、蒸氣、汽罐其他激發ス可キ物品ヲ破裂セシメテ本條記載ノ物品ヲ
 毀壞シタル者ハ故意ト過失トヲ區別シ放火失火ノ列ニ準シテ處斷ス可キヲ定メ
 タリ

第一百八條 瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出若クハ流出セシメ又
 ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財産ニ危險ヲ生セシ
 メタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷
 シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從

テ處斷ス

本條ハ瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏出シ若クハ流出セシメタルニ因ル罪ニシ
 テ瓦斯、電氣、蒸氣等文明ノ利器トシテ有用ノモノナルモ從テ其使用方法ニ
 シテ疎漏ナルトキハ人身ニ危險ナルヲ大ナリ故ニ之カ取締方法トシテ之ヲ漏出
 若クハ流出セシメタルモノヲ所罰スルナリ

第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第一百九條 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現
 在スル建造物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死
 刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

本條 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽
 車、電車又鑛坑ニ損害ヲ生セシメタルモノ、刑ヲ定ム
 舊法ニ於テハ溢水ノ手段ヲ堤防決潰水門毀壞ノ二者ニ制限シタルカ故ニ其他ノ
 方法ヲ以テ漲溢セシメタル者ヲ罰スルヲ得サルノ缺點アリ故ニ新法ハ之ヲ制限
 セス單ニ溢水セシメテト定メタリ故ニ其手段方法ノ如何ヲ問ハス其溢水ノ結果
 ニ依リ法律ニ定ムル處ノ物件ニ損害ヲ生セシメタル者ヲ處罰スルヲト爲シタリ

第二百十條 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り前項ノ例ニ依ル

本條ハ溢水セシメ現ニ人ノ住居ニ使用セス又人ノ現在セサル建造物ノ汽車、電車又鑛坑ニ損害ヲ生シ爲ニ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ヲ嚴罰スルヲ定ム

第二百十一條 水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ第百十四條ノ解義ト同一ナリ

第二百十二條 過失ニ因リ溢水セシメテ第百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第百二十條ニ記載シタル物ヲ浸

害シ因テ公共ノ危険ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ第百十六條ノ解義ト同一ナリ

第二百十三條 堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二

年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害トナル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ處ノ行爲ヲ爲シタルモノ、刑ヲ定ム

第十一章 往來ヲ妨害スル罪

第二百十四條 陸路、水路、又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以

下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

註 本條ハ陸路又水路ニシテ公共ノ用ニ供スルモノヲ損壞シ又壅塞シテ之カ爲ニ往來ノ妨害ヲ生セシメタルモノ、刑ヲ定ム

舊法ニハ道路其他ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル場合ノミヲ規定シ是等ヲ壅塞即道路ニ大木ヲ横ヘテ通行ヲ妨害シタル場合ニ罰スルヲ得サリシカ故ニ新法ハ損壞又壅塞ノ方法ニ依リ往來ノ妨害ヲ爲シタル行爲ヲ罰スルヲ得ル方法ニ改メタリ

本條犯罪ノ要素ハ(一)公用ノ陸路又水路タルコト(二)損壞又壅塞シタルコト(三)往來ノ妨害ヲ生セシメタルコト(四)往來ヲ妨害スルノ意思アルコト

(一) 公用ノ陸路又ハ水路タルコト
本條ハ本來天下ノ公道タル可キ通路ノ往來ヲ妨害スル處ノ行爲ヲ罰スル罪ニシテ個人ノ往來ニ供スル邸内ノ通路等ヲ除外シタルモノナリ然リト雖モ其所有ノ官有タルト公有タルト將タ私有タルトハ敢テ問フ所ニ非サルナリ唯其通路カ一般公衆ノ用ニ供セラル、モノナルトキハ公用トシテ本條ニ依ル可キモノトス

陸路又水路トアリ故ニ陸地ノ往來ニ付テハ土地橋梁共ニ本罪ノ目的ト爲ルヲ得水路ノ往來ニ付テハ河溝港ノ如キ舟筏ノ往來スル所ハ勿論公ノ渡船場ノ如キ往來ニ必要ナルモノモ亦本條ノ目的ト爲ルヲ得ルナリ

(二) 損壞又壅塞シタルコト
往來ヲ妨害スル處ノ手段ヲ指示シタルモノニテ損壞トハ物ノ物質ヲ毀損スル處ノ所爲ニシテ壅塞ト樹木ヲ伐採シテ道路ニ横タヘテ往來ヲ妨害スル如キ所爲ヲ云フ

(三) 往來ノ妨害ヲ生セシメタルコト
法文ニ所謂妨害ヲ生セシメタル云々トハ如何ナル意ナルカ此場合ニ於テ三個ノ說アリ

(イ) 公道ハ水路ヲ問ハス往來運搬ノ必要具タルカ故ニ苟モ之ヲ損壞壅塞スルモ非ハ直ニ以テ往來妨害ノ所爲アリト云フ說

(ロ) 公道ヲ損壞壅塞スルモ實際的之カ爲ニ人馬船楫ノ往來ヲ阻害セシ處ノ結果アルコト非サレハ以テ妨害シタリト言フ可ラスト云フ說

(ハ) 公道ヲ損壞壅塞セルモ尙之ニ依リ以テ實際人馬船楫ノ通路ニ阻害ノ結果ヲ見ス然リト雖モ已ニ損壞壅塞ノ行爲アル上ハ依テ以テ本罪ヲ成立ストノ說ト

然シテ余ハ(ハ)說ヲ左袒スルモノナリ(イ)說ノ如キハ其損壞壅塞ノ尠少ニシ

テ未タ以テ往來ノ妨害ヲ見ル能ハサル場合ニ至ラサルナリ(口)説ハ實際ノ阻
害ヲ以テ度ト爲シタルモ斯クテハ公道タル可キ處ノ性質ヲ度外視スルニ到ル
何トナレハ已ニ社會公共ノ用ニ供スル處ノ通路ヲ損壞壅塞シテ通行ニ妨害ス
可キ度ニ到ラサルキハ以テ公道ハ通行シ得可キモノタルノ性質ヲ失ヒ往來ハ
之レカ爲ニ阻害セラレタルト明ナリ何ソ事實上ニ於テ人馬船楫ノ通行セント
スルニ接シ阻害セラレ、ヲ待ツノ必要アラサラン故ニ(ハ)説ノ如ク通行シ得
サル度迄損壞壅塞シタル時ヲ以テ往來ノ妨害ヲ生セシメタルト爲スヲ相當ナ
リト思料ス

(四) 往來ヲ妨害スルノ意思アルト

本條ハ特ニ往來ヲ妨害スルノ意アルヲ要ス單ニ損壞ノ如キ意ノミニテハ不十
分ナリトス何トナレハ之ヲ損壞スルモ私ニ道路又橋梁等ヲ修繕センカ爲ニ一
時之ヲ損壞シタル如キハ往來ヲ妨害セント欲スルノ意思アラサレハ本罪ヲ構
成セサルナリ

第二百二十五條 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以
テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上
ノ有期懲役ニ處ス
燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ

危險ヲ生セシメタル者亦同シ

本條ハ鐵道又其標識ヲ損壞シ又其他ノ方法ヲ以テ汽車又電車ノ往來ノ危
險ヲ生セシメタルモノ、刑ヲ定ム

燈臺又浮標ヲ損壞若クハ其他ノ方法ヲ以テ船舶往來ノ危險ヲ生セシメタルモノ
モ前項ト同一ニ處分スルコトヲ定ム

舊法ニ於テハ汽車ノ往來ヲ妨害スル方法ヲ鐵道及其標識ヲ損壞シ又危險ナル障
礙云々規定シ其以外ニ危險アルトヲ想像セス故ニ新法ニハ其ノ他ノ方法云々ノ
法文ヲ加ヘ其處罰ス可キ妨害ノ手段即詐欺ノ標識ヲ設ケ大石ヲ軌道ノ中間ニ投
シタル如キ行爲ヲ罰スルヲ得ルト爲シタリ又船舶ニ付テハ其他航海ノ安寧云
云アルノミニテ河川航行ノ安寧ヲ保ツ處ノ規定ナカリシヲ以テ新法ニハ單ニ其
他ノ方法ヲ以テ船舶ノ往來云々ト改メ湖海河川何レヲ問ハス往來ノ危險ヲ生セ
シメタルヲ罰スルヲ得ル處ノ法文ニ改メタリ

第二百二十六條 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壞シ

タル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル艦船ヲ覆没又ハ破毀シタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期

懲役ニ處ス

本條ハ人ノ現ニ在ル所ノ汽車、電車又艦船ヲ顛覆々沒破壞シタルモノ、罪ヲ定ム

第二百二十七條 第二百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車電車ノ顛覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

本條ハ第二百二十五條ノ罪即鐵道又其標識ヲ損壞又其他ノ方法ヲ以テ汽車又電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメ是カ爲ニ汽車、電車ノ顛覆破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者ハ前第二百二十六條ノ例ニ照シテ處斷スルモノナリ

第二百二十八條 第二百二十四條第一項、第二百五條及ヒ第二百二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ第二百二十四條第一項、第二百五條及ヒ第二百二十六條第一項、第二項ノ罪ハ未遂ノ場合ニモ處斷スヘキヲ定ム

第二百二十九條 過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ汽車、電車ノ顛覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ第二百二十五條、第二百二十六條ノ罪ノ行爲カ過失ニ出テタルトキノ刑ヲ定ム

其業務ニ從事スルモノカ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ其罪重ク即本項ノ如ク處罰スルナリ第二百二十五條、第二百二十六條ノ場合ハ素ヨリ有意ニテ犯シタルトキニ罰スル法文アリ若シ過失ナルトキハ其情大ニ宥メ可キアリ故ニ本條ハ特ニ刑ヲ輕クシ又其情狀最輕キモノ、爲ニ罰金刑ヲ定メタリ

第十二章 住居ヲ侵ス罪

吾人ノ住居ハ吾人ノ城廓ニシテ故ナリ他人ノ侵入ヲ許ス可キモノニアラス帝國憲法ニ曰日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其許諾ナクシテ住所ニ侵入セラル、トナシト是吾人住居ノ侵ス可ラサルヲ認メタルモノナリ然ルニ憲法ハ國家ト人民トノ權義ノ分界ヲ定メタルモノニシテ國家ト雖モ猥リニ人民ノ家宅ノ侵ス可ラサルヲ規定シタルニ過キサル可シト雖モ吾人相互間ニ於ケル家宅不可侵ノ法律ノ如キモ此等憲法ノ保障ヲ應用シタル處ノ輓近歐洲學者ノ所謂家宅侵入ノ所爲ハ其目的多クハ人ノ身體財產ニ對シ害惡ヲ加ヘントスルノ豫備

タルト多キヲ以テ特ニ私人ノ身體財産ノ保護ノ必要ノ爲ニ此法律ヲ設定ス可シトノ新思想ヲ採用シタルモノナリ

第二百二十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

釋義 本條ハ正統ノ理由ナク人ノ住居シ又ハ人ノ看守シタル邸宅建造物又船舶内ニ侵入シ又ハ退去ノ請求ヲ受ケテ退去セサル者ニ對スル刑ヲ定ム舊法ニ於テハ侵入ノ當時ヨリ正統ノ理由ナク侵入シタルモノヲ罰スルニ止マリ最初正統ノ理由アリテ他人ヲ訪問シ後チ退去ノ請求ヲ受クルモ故ナク退去セサルモノヲ罰スルノ法文ナク又船舶ノ如キハ人ノ住居ニ均シキニモ拘ハラズ是ニ侵入スルモノヲ罰スルノ法文ナキ等缺點寡ナシトセス故ニ新法ハ是等ノ所爲ニ對スル法文ヲ設ケタリ

本條ノ罪ノ成立ハ第二正當ノ事由ナキ事第二法律カ規定シタル場所タル事第三侵入若クハ不退去ノ所爲アルトノ三原素ヲ要ス

(一) 正當事由ナキ事

正當事由ナクトハ法文ノ所謂故ナク云々ノ意ニシテ法律命令カ特ニ許容シタルニ非サル場合其他人事百般ノ交渉上他人ノ邸宅ヲ訪問スル如キハ素ヨリ正

當ノ事由アルモノタリ然シテ法律命令カ許容シタル場合ノ外如何ナル場合ヲ以テ正當ト爲スカ否ハ一ツニ事實裁判官ノ認定ニ一任スルノミ

(二) 法律カ規定シタル場所タル事

法律カ規定シタル場所トハ人ノ住居又ハ看守シタル(イ)邸宅(ロ)建造物又ハ(ハ)船舶タル可シ故ニ侵入ノ場所カ此物體以外ナルトキハ本條ノ犯罪ヲ構成セサルナリ

抑人ノ住居又看守シタル(イ)邸宅トハ人カ現ニ住居シ又看守スル處ノ邸宅ハ勿論侵入ノ當時住居人不在ナルカ看守者ノアラサル場合ト雖モ尚人ノ住居若クハ看守シタル邸宅タル可キナリ然シテ法律ハ單ニ住居若クハ看守トアルヲ以テ侵入シタル邸宅ハ何人ノ所有タルカ否ハ敢テ問フトヲ要セス又法律ハ單ニ邸宅トアルヲ以テ必ラス家屋タルヲ要セス牆壁ヲ廻ラシタル處ノ邸宅ハ總テ此法文中ニ包含シタルモノナリトス

(ロ) 建造物トハ人カ住居スル處ノ邸宅以外ノ建物即學校博物場劇場官衙等ナリトス若是等建造物ト雖モ人ノ看守アルトヲ要ス是吾刑法ハ人ノ身體財産ヲ保護セントノ精神ニ依ルカ故ナリ

(ハ) 船舶モ尚人ノ住居ニ均シキモノニシテ人ノ財産アリ秘密アリ妄ニ侵入ヲ許ス可キ場所ニ非サルカ故ナリ

(三) 侵入若クハ不退去ノ所爲アルト

侵入ノ所爲ニ付テハ其方法ノ如何ヲ問フヲ要セス唯ニ其身體カ邸宅若クハ建物内ニ入りタルヲ以テ足レリ然シテ新法ハ不除去云々ノ法文ヲ加ヘタルヲ以テ始メ正當ノ理由ニ依リ侵入シタルモ後チ退去ス可キ旨家人ノ請求ヲ受クルモ之ヲ退去セサルトキハ不正ニ侵入シ居ルモノト做シテ本條ノ制裁ヲ加フルナリ

建造物ノ内部ニ入ラスシテ屋根ノ上ニ上リタルキハ侵入ト云フ可キカ裁判例ニ依レハ此所爲モ尙侵入ト云フ可シ何トナレハ經界線ヲ越ヘテ已ニ禁制ノ場所ニ進入シタルカ故ナリ

新法ハ侵入ノ行ハレタル事情ニ依リテ刑ヲ重クシタリ

(一) 夜間ナルキ

本法ハ晝夜ノ區別ニ付テ明ナル規定ナシ唯刑事訴訟法ニ依リ日出前日没後ハ家宅搜索云々爲ス可ラスト云ヒテ暗ニ夜間トハ日出前日没後アルヲ認メタルカ如シ今外國ノ法律ヲ按スルニ佛獨兩國ハ時季ニ依リ區別ヲ設ケ佛國ノ如キハ四月一日ヨリ九月三十日迄ハ午前四時ヨリ午後九時迄十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ハ午前六時ヨリ午後六時迄ヲ晝間ト爲シ獨逸ノ如キハ四月一日ヨリ九月三十日迄ハ午前四時ヨリ午後九時迄十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ハ午前六時ヨリ午後九時迄ヲ晝間トシ英國ノ如キハ法律ニ一定ノ時間ヲ設ケス唯朝夕人顔ノ識別シ得ル間ヲ以テ晝間トシ其他ヲ夜トシテ區別セリ然シ

テ吾法典之ヲ定メス唯ニ刑事訴訟法アルモ是ヲ以テ罪ヲ斷スルノ具ト爲ス可キニ非サレハ吾法律ニ於テハ此點ハ承審官ノ判定ニ一任シタルモノト見ルヲ正當ノ解釋ト爲スノ外ナキナリ

然シテ法律ハ夜間ノ侵入ヲ重クシタルハ晝間何人モ起キテ業ヲ採リ居ル時ナレハ他人ノ不正ニ侵入スルモノアルモ之ヲ防クニ容ク犯人モ犯行ノ目的ヲ達スルニ難ク之ニ反シテ夜間ハ人ニ安眠ス可キ時ナレハ侵入ヲ防止スルニ難ク犯人ハ犯行ノ目的ヲ達スルニ容易ナリ故ニ法律ハ晝夜ノ別ニ依リ刑ヲ區別シタリ

(二) 門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又鎖鑰ヲ開キタルトキ

門戸牆壁ノ如キハ人ノ侵入ヲ防ク爲ニ設ケタルモノナルニ之ヲ踰越損壞シテ侵入シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ侵入シタルハ其惡意ノ度一層強ク罪情重キヲ以テ刑ヲ重クシタリ

(三) 兇器ヲ携帯シタルトキ

兇器トハ人ヲ殺傷スルニ堪ユ可キモノ、謂ナリ抑侵入ノ所爲ハ他ノ犯罪ノ階梯タルニ過キサレハ之ヲ携帯スルキハ犯罪ヲ犯スニ容クシテ之ヲ防クニ難ク且危害甚タシキヲ以テ法律ハ刑ヲ重クシタリ

(四) 暴行又脅迫ヲ爲シタルキ

暴行トハ有形即腕力ニ依リ人ノ身體ニ害ヲ加ヘ脅迫トハ無形即言語ニ依リ住

人若クハ看守人ヲ威迫シテ侵入スル所爲ヲ云フ斯ル所爲アルモノハ其決心強ク其罪ノ情重シ故ニ法律ハ刑ヲ重クシタリ

(五) 二人以上ナル者
犯人ノ數多ケレハ其罪犯シ容ク被害者ノ之ヲ防クニ難キヲ以テ危險大ナリ故ニ法律ハ刑ヲ重クシタリ

第三百三十一條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

本條ハ正統ノ理由ナク皇居禁苑離宮行在所又皇陵内ニ侵入シタルモノ、刑ヲ定ム

本條ノ場所ハ所謂神聖ニシテ侵ス可ラサル貴重ノ場所ナルヲ以テ通常ノ場所ヨリ刑ヲ重クシタリ

第三百三十二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十三章 秘密ヲ侵ス罪

第三百三十三條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年

以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ正當ノ理由ナク人ノ信書其他秘密書類ヲ開披シタルモノ、刑ヲ定ム

信書ノ秘密ハ帝國憲法ノ保障スル所ナリト雖モ本法ニ此規定ナキハ其實ヲ全クスルヲ能ハサルヲ以テ新法ハ本條ノ規定ヲ設ケ之ヲ開披シタルモノ、罪ヲ設ケ併テ信書ニ非サルモ開披ニ依リ害ノ生ス可キ秘密書類ヲ開披シタルモノ、罪ヲ設ケタリ

故ナクトハ所謂正統ノ理由ナクト云フ意ニシテ犯罪搜索ノ爲メ司法官ノ押收ニ係ル場合等ノ如キ法律ノ規定ニ依リ開披スル時ヲ除キタルモノナリ

第三百三十四條 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ハ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

本條ハ醫師、產婆、藥劑師、辯護士、公證人、神職、僧侶等自分ノ職業ニ依リテ委託ヲ受ケタル事ニ因リテ知ル事ヲ得ル可キ人ノ秘密ヲ世間ニ漏告シタルモノ、刑ヲ定ム但是等ノ者ト雖モ官署ニ對シテ陳述スルハ處罰スル處ニ非スト爲シタリ故ニ此處ニハ故ナクト明文セリ

本條ニ揭ケタルモノ身分上若クハ職業上ノ爲ニ他ヨリ秘密ノ委託ヲ受クルコトアリ然ルニ之ヲ漏告スルハ委託者ノ委託ニ背キ自己ノ職責ヲ空クスルモノナレハ其依頼者ヲ保護セン爲ニ本條ノ刑ヲ設ケタリ然リト雖モ民刑裁判所其他官署ニ向ヒテ取調ノ爲ニ陳述スルハ國家ニ對スル義務ナレハ委託者ニ對スル義務ヲ捨テ、陳述スルヲ相當トスルヲ以テ本條ノ刑ヲ除キタル所以ナリ

第三百二十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ親告罪ノ一ト爲シ被害者ノ告訴ヲ待ツテ審理スル事ト爲シタリ

第十四章 阿片煙ニ關スル罪

阿片煙ハ是ヲ吸食スルトキハ人身ニ害アルハ勿論一度是ヲ吸食シ其味ヲ知ルトキハ終ニ之ヲ忘ル、能ハスシテ慣性ト爲リ容易ニ之ヲ廢スル能ハス之カ爲ニ産ヲ傾ケ身ヲ亡ホシ延テ國家ヲ廢滅セシムルニ到ルヲ以テ政府ハ法ヲ設ケ刑ヲ科シ未然ニ其害ヲ防カントス

舊法ニ於テハ阿片煙ニ關スル罪ハ有期徒刑若クハ輕懲役ニ處シタリシモ他ノ健康ヲ害スル罪ニ比シ其過重ナルノ感アリ故ニ新法ニハ是レカ刑ヲ輕クシタリ

第三百三十六條 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ外國ヨリ帝國領内ニ持込ミ帝國領内ニテ製造シ又之ヲ帝國内ニテ賣捌スルモノ、刑ヲ定ム

阿片煙吸食ハ一身一國ヲ害スルコト曩ニ述タリ然ルニ若シ之ヲ輸入製造販賣等ヲ爲スモノアルトキハ世人モ遂ニ知ラス之ヲ吸食スルノ媒介ト爲ルヲ無シト謂フ可カラズ故ニ豫メ本條ヲ設ケ未前ニ防カントシタルナリ

第三百三十七條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スルニ用フル器具ヲ外國ヨリ帝國内ニ持込ミ國內ニテ製作シ又ハ之ヲ賣捌スルモノ、刑ヲ定ム
前條ハ阿片煙自體ヲ輸入製造販賣スル處ノ罪ナレモ本條ハ之ヲ吸食スルニ用フ

ル器具ヲ輸入製造販賣スルモノ、罪ナリ故ニ前條ヨリ其刑ヲ輕クシタリ

第二百二十八條 稅關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

釋義 稅關即開港場ニ於テ輸出入ノ物品ヲ検査監督スル役所ニ在勤スル官吏等ニ於テ阿片煙又之レヲ吸食スルニ用フル道具ヲ帝國内ニ輸入シ又之ヲ輸入セントスルモノアルトキ之ヲ許可シタルモノ、刑ヲ定ム

阿片煙又其吸食用器具ヲ輸入セントスルモノアルトキハ之ヲ告發シ監督官吏タルノ職務ヲ盡ス可キ等ナルニ自ラ之ヲ輸入シ又之ヲ輸入スル者アルヲ咎メス許シテ輸入セシメタルトキハ官吏職務空廢ノ罪アリ故ニ本條ハ一層刑ヲ重クシテ處罰スルコト、爲シタリ

法文ニハ單ニ許シタル云々アリテ公然許可シタル時ノミ罰スル如クナルモ假令公然ニ非スシテ之ヲ默許シタル場合ニモ尙本條ニ依リ處分スルトト爲ス可シ

第二百二十九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六

月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

釋義 阿片煙ヲ吸食スルハ通常帝國風ノ住居家ノ如キ場所ニテ吸食スルモノニ非スシテ一種ノ房屋ヲ造リ特種ノ方法ヲ以テ快ヲ貪ルモノナリト聞ク依テ本條ハ是等ノ準備ヲ整ヘ人ニ貸與シテ利益ヲ圖リタルモノ、刑ヲ定メ且阿片煙ヲ自ラ吸食シタルモノ、刑ヲ定ム

阿片煙ヲ吸食スルトキハ其一身ノ健康ヲ害シ生命ヲ傷フモ敢テ他人ヲ害スルトナシ凡テ法律ハ他人ニ對シテ非行アリタル場合ニ罰スルモノニシテ自分ノ身體財產ニ對シテ非行アリタル場合ニ罰ス可キモノニ非サルナリ然ルニ阿片煙吸食ニ限リ之ヲ罰ス可キ法律ヲ制定スルモノハ蓋シ一人之ヲ吸食スルトキハ多數ノ人ニ蔓延シ禍實遂ニ除キ難キニ至ル可シ故ニ通常ノ法理ニ依ラス特ニ之レカ刑ヲ設ケタリ

第四百十條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

釋義 阿片煙又阿片煙ヲ吸食ノ器具ヲ所持シタルモノ、刑ヲ定ム
本條所有トハ自分ニ所有權アリテ之ヲ占有スルト他人ノ所有物ヲ受寄シテ之ヲ所持スルトト問ハス凡テ之ヲ占有スルモノ、謂ナリ
吸食ノ器具ヲ所持スルトキハ何時之ヲ使用スル哉モ計リ難キカ故ニ法律ハ豫メ

之ヲ防ク爲ニ斯ク規定シタリ

第四百十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十五章 飲料水ニ關スル罪

飲料ノ淨水ニハ一人ニ屬スルモノト公衆ニ屬スルモノトノ別アリ然ルニ舊法第二篇第七章衛生ニ關スル罪第二節飲料水飲食物ニ關スル罪ニハ一般ノ健康ヲ害スル罪トシテ規定シタルカ故ニ一人ノ健康ヲ害ス可キ私人ニ屬スル淨水ヲ害スルモ必罰シ得サルヤノ疑アリ然シテ私人ニ屬スルト公衆ニ關スルト何レモ其健康ヲ害ス可キモノナルヲ以テ共ニ之ヲ處罰シ唯ニ其害ノ廣狹ニ依リ刑ニ差等ヲ設ケタリ

第四百十二條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

人ノ飲料ト爲ス可キ淨水ニ泥土塵埃等ヲ投入シテ之ヲ汚穢シ飲料ト爲スコト能ハサル様ニ爲シタルモノ、刑ヲ定ム
本條ハ人ノ飲料云々アリ故ニ人ノ飲料ニ爲サ、ル水即牧場用或物洗用ノ水ヲ汚

穢ナラシムルモ本條ノ問フ所ニ非サルナリ

第四百十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

水道ニ依リ公衆ニ供給スル飲料ト爲ス可キ淨水又其水ヲ得ル處ノ水源ヲ泥土塵埃其他不潔物ヲ投入シテ其水ヲ汚穢ナラシメ之レカ爲ニ使用スルノ出來ヌ様ニ爲シタルモノ、刑ヲ定ム
水道ノ水ヲ害シタル所爲ハ通常私人ノ飲料水ヲ害シタルニ比スレハ其害重大ナルカ故ニ前條ニ比シテ刑ヲ重クシタリ

第四百十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタルモノ、刑ヲ定ム

本條ハ淨水ニ混入シタル處ノ物件自體カ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物品ナルヲ以テ唯投入ノ一事ヲ以テ罪ト爲シ其水ノ變質如何ヲ問ハサルナリ

第四百十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者

ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ前三條ノ犯罪ノ結果ニ依リ人カ死傷ニ至リタルトキノ刑ヲ定ム即死傷ニ至リタルトキハ前三條ノ罪ト其傷害ノ罪ト比較シテ重キ方ニ依リ處斷ス可キナリ

第四百四十六條

水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

本條ハ公衆ニ供給スル處ノ水道ノ淨水又其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル罪ヲ定ム

本條ノ如キ公衆用ノ水道ヲ害スルハ私人用ノ水ヲ害スルニ比スレハ其害重大ナリ故ニ曩ノ條ニ比シテ其刑ヲ重クシタリ又其水ヲ飲料ト爲シタルモノガ本條ノ所爲アルカ爲ニ死亡シタルトキハ一層重キ刑ヲ科ス可キヲ規定シタリ

第四百四十七條

公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公衆ノ飲料ニ供スル淨水道ヲ損壞シ又壅塞シテ飲料ノ爲メニ適當ニ疏通

スルヲ妨ケタルモノ、刑ヲ定ム

公衆ノ飲料ニ供スル淨水道ヲ損壞又壅塞スルノ害ハ飲料水自體ヲ害シ若クハ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ混入シタルト其害差等ナキヲ以テ新法ニハ之ヲ罰スルヲト爲シタリ

第十六章 通貨偽造ノ罪

舊法ニ於テハ貨幣偽造ニ科スルノ刑ハ其偽造已ニ成リテ之ヲ行使シタルモノト偽造已ニ成ルモ未タ之ヲ行使セサルモノトヲ別チ劃然刑ニ輕重ヲ設ケタリシモ之ヲ精細ニ研究スルトキハ行使シタルモノハ常ニ情狀重ク被害多シト爲ス可ラス之ニ反シテ行使セサルモノ常ニ被害少ナク情狀輕シト單ニ論斷スルヲ能ハサルカ如シ何トナレハ已行使ノモノハ偽造貨幣已ニ社會ニ通用シ取引ニ措雜ナラシメ一般ノ信用ヲ害スルヲ重大ナルモ未行爲ノモノハ未タ被害是ニ及ハス單ニ政府ノ製造權ヲ盜ミタルニ過キサルカ如シ然リト雖モ他ノ方面ヨリ觀察スルトキハ手工ヲ以テ僅ニ一二ノ貨幣ヲ偽造シテ行使シタルモノト器械力ニ依リテ多數ノ貨幣ヲ偽造シ終リ何時ニテモ使用シ得ルノ地位ニ在ルキハ未行使ノ者ト雖モ社會ノ被害及危險大ナリト謂フ可シ故ニ改正法ニ於テハ單ニ行使ノ如何ニ依リ刑ヲ區別スルヲ廢シ行使ノ目的ニ依リ偽造シタルモノハ已行使

未行使ヲ問ハス何レモ處罰スルコト爲シタリ
 又舊法ニ於テハ金銀貨及紙幣ヲ偽造シタルモノト銅貨ヲ偽造シタルモノトヲ區別シ刑ニ輕重ヲ設ケタリシモ是亦單ニ金屬等ノ性質ノミヲ以テ一概ニ刑ノ輕重ヲ區別スルハ不當ナルヲ以テ新法ニ於テハ此區別ヲ廢シタリ
 又舊法ニ於テハ偽造變造ニ依リ著シク刑ニ輕重ヲ設ケタリシモ常ニ是ノミヲ以テ輕重ヲ區別スルハ不當ナルカ如シ何トナレハ偽造ハ其模様ニ少シク注意スレハ凡ソ眞僞ヲ判別シ得ルモ變造ニ至リテハ其基本ハ即正貨ナルヲ以テ正否ノ判別ニ困難ニシテ所謂被害大ナルカ如シ故ニ新法ハ此區別ヲ廢シタリ
 抑貨幣ヲ偽造スル所爲ハ元來何レノ邦國ト雖モ法律ヲ設ケ峻嚴ナル刑罰ヲ加ヘサルナシ按スルニ古代ニ於テハ貨幣鑄造權ハ主權者ノ大權ナリト爲シタルカ爲メ之ヲ偽造スルノ所爲ハ大權ヲ侵害スルノ罪ト爲シ且當時鑄造法未タ幼稚ニシテ精密ナラサリシヲ以テ容易ニ偽造スルヲ得タルカ故ニ之ヲ防ク爲メニ斯ク極刑ニ處シタリシナラン
 然ルニ近來ニ至リ貨幣ヲ鑄造スルノ權ハ君主ノ大權ニ非スシテ各國政府ニ於テ公益ヲ維持セン爲ニ政府自ラ之ヲ保有スルニ過キサルヘシトノ說ヲ採リ爲ニ爾來漸ク刑ヲ寬ニ爲シタルモノニシテ帝國葉煙草專賣法ノ如ク政府ノ一ツノ特權ノ如ク爲シタリ然リ而シテ貨幣偽造變造ノ所爲ハ法理上如何ナル性質ヲ有スル犯罪ナル乎ト謂フニ學者ノ說ニ依レハ貨幣ノ偽造ハ詐欺ノ幫助アル處ノ盜罪ナ

リトシ或場合ニハ貨幣ノ偽造變造ハ詐欺取財ナリト謂フ蓋シ偽造貨幣ノ政府發行ノモノト價額分量均一ナラサルカ眞貨ノ量ヲ奪フ如キハ詐欺取財ナリトス然ルニ古來何レノ邦國ニ於ケルモ之ヲ別種ノ犯罪ト爲シ盜罪詐欺取財ヨリ一層重キ刑罰ヲ科スル所以ノモノハ貨幣ハ社會ノ流通物ニシテ日々幾十百人ノ手ニ轉輾スルモノナレハ偽造變造ノ貨幣ヲ行使スルトキハ其害ノ及フ所通常ノ盜罪詐欺取財トシテ特定ノ己人ニ對スルヨリ最濶ク其被害ハ實ニ社會公衆ニ及フニ至ル可シ何トナレハ偽造變造ノ貨幣カ社會ニ現ハル、其ハ取引ノ際一ニ之ヲ點檢セサル可ラサルノ煩雜ヲ來スノミナラス大ニ經濟社會一般ノ信用ヲ紊亂スルニ至ルヘシ是此犯罪ヲ信用ヲ害スル罪トシテ特別ノ刑ヲ規定セル所以ナリ

第一百四十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

使用スル積リニテ日本帝國内ニ通用スル所ノ貨幣即金貨銀貨銅貨白銅貨政府發行ノ紙幣又ハ日本銀行發行ノ兌換券ヲ偽造變造シタルモノ、刑ヲ定ム

本條犯罪成立ノ要素ヲ擧クレハ(一)行使ノ目的ヲ以テ偽造變造シタルヲ(二)内國ニ於テ通用ノ寶貨タルコトノ二要素ヲ要ス行使ノ目的ヲ以テ偽造變造シタルコト

(一) 法文ニ行使ノ目的ヲ以テ云々ト規定アルカ故ニ寶貨ヲ偽造變造スルモ或美術研究ノ爲メニシ或化學研究ノ爲ニスルモノハ本條ノ犯罪トナラスシテ所謂偽造變造スル處ノ寶貨ヲシテ社會ニ通用セシムルノ目的ニテ偽造變造ヲ爲シタルヲ要ス

(二) 内國ニ於テ通用ノ寶貨タルコト

偽造變造ヲ爲シタル寶貨ハ法律ノ力ヲ以テ強制シテ之ヲ通用セシメ世人カ其授受ヲ拒ムヲ得サルモノタルヲ要ス彼古金銀ノ如キ今日通用ノ効力ナク金銀ノ地金タルニ過キサレモノハ假令比較價額ニ依リ流通スルモ是唯通用ニ非スシテ交換事業タルニ過キサレハ是ヲ以テ通用ノ寶貨ト謂フヲ得サルナリ故ニ是等ヲ偽造變造スルモノアルモ本條ヲ以テ處罰スルヲ得サルナリ此所爲ハ或場合ニハ詐欺盜賊ノ罪ヲ構成スルヲアルノミ

本條偽造トハ其原料トシテ正貨ヲ用フルト他ノ材料ヲ用フルト問ハス寶貨ニ酷似シタルモノヲ製造スルヲ謂ヒ變造トハ正貨ノ實貨ヲ減殺シ或劣等ノ貨幣ヲ以テ其實質ヲ變スルコトナク詐僞ノ工作ヲ施シ原價ヨリ高價ナル同一種類ノ寶貨ノ外觀ヲ裝ハシムルヲ謂フ故ニ偽造ハ政府ノ寶貨製造權ヲ侵犯スル所爲ニシ

テ變造ハ寶貨ヲ新造スルニ非スシテ正貨ノ命價ヲ増減スルニ過キサレハ之レカ製造權ヲ犯シタルニ非スシテ其情狀最重キ詐欺ノ所爲ナリ以上ノ說明ニ依レハ偽造トハ假令ハ五厘銅貨ノ文字ヲ改竄シ貳拾錢ト爲シ銀鍍ヲ爲シテ貳拾錢銀貨ヲ製作スルカ如キヲ謂ヒ變造トハ金銀貨ヲ飾ニ懸ケ磨擦シテ金粉ヲ取り量目ヲ減シ又化學的作用ヲ以テ金貨ノ金質ヲ溶解シ金貨ヲ奪取スルヲ謂フ

第四百九條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

帝國內ニ於テ習慣上流通スル所ノ外國ノ金銀貨等ヲ行使スルノ目的ヲ以テ偽造變造シタル處分ノ法ヲ定ム

本條ニ規定スル處ノ貨幣ハ前條ト異ナリ習慣上内國ニテ流通スル處ノ外國貨幣ニシテ法律ノ力ニ依リ強制ニテ通用セシムル處ノモノニ非サルナリ然シテ外國ノ金銀貨等ヲ偽造變造スルモ吾政府ハ直接ノ被害アルヲナク主ニ外國政府ヲ害スルノ行爲タルニ過キ然シテ我國民ニシテ外國政府ヲ害スルノ行爲アルモ一般

ニ吾政府ハ不問ニ附スルニモ拘ハラステニ貨幣ノ偽造變造ニ限リ犯罪トシテ規定シタルモノハ敢テ外國政府ノ爲ニシタルニ非ス假令外國通用ノ寶貨ト雖モ吾政府カ認メテ内國ニ流通默許シタルモハ吾寶貨ト均シク信用ヲ維持シ社會ノ安寧ヲ量ラサル可ラサルカ爲ナリ然シテ本條ノ刑カ前條ニ比シテ輕キ所以ノモノハ吾政府直接ノ被害者ニ非サルノミナラス流通ノ高モ亦内國ノ寶貨ヨリ僅少ナル可ク隨テ被害寡ナキニ依ルナラン

第五十條 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ行使スルノ目的ヲ以テ偽造變造ニ係ル處ノ貨幣又銀行券ヲ受取リタルモノ、刑ヲ定ム

本條收受トハ其名義ノ如何ヲ問ハス故ニ賣買交換等合意ニ出ルト盜取詐取ニ依ルトヲ問ハス苟モ正貨ニ非サルヲ知リ他日行使スルノ目的ヲ以テ之ヲ自分ノ占有ニ歸セシムルヲ云フ故ニ正貨ニ非サルヲ知リ受取ルモ之ヲ使用スルノ積リニ非スシテ單ニ地金トシテ受取リタルモノハ本條ノ問ハサル所ナリ

第五十一條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五十二條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其偽造

又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス

本條ハ貨幣紙幣又銀行券ヲ正幣ナリト思料シテ受取リ爾後正貨ニ非サルヲ知リナカラ之ヲ使用シ又使用スルノ積リニテ之ヲ人ニ與ヘタルモノ、刑ヲ定ム然シテ其名價即使用シタル金ノ價額ノ三倍以下ノ罰金又科料ニ處スヘキナリ但三倍以下タルモ其最少額ハ金壹圓以下タルヲ得サルナリ

第五十三條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ貨幣等ヲ偽造變造ノ用ニ供スル目的ニテ其器械又原料等ヲ準備シタルモノ、刑ヲ定ム
本條準備トアルヲ以テ所謂偽造變造ニ着手セサル場合ノ規定ナリ蓋シ純然タル豫備ニ止マリ目的ノ行爲ニ着手セサルモノハ刑法ニ於テ特ニ明文アルモノ、外處罰セサルナリ然ルニ貨幣偽造變造ハ豫備ニ着手スルヤ其危險已ニ大ナルヲ以テ犯罪ヲ未前ニ防カン爲ニ特例ヲ設ケタリ

第十七章 文書偽造ノ罪

舊法ニハ官文書ノ偽造變造ト私文書ノ偽造變造ト各節ヲ異ニシ官印偽造ハ別ニ節ヲ設ケタルニ拘ハラズ私印ノ偽造私書ノ偽造ハ同節中ニ混入シ加之通常ノ官文書ノ一種タル免狀鑑札ノ偽造變造ト通常ノ文書ノ一種タル疾病證書ノ偽造變造トヲ官私文書ノ偽造變造ニ關スル節以外ニ別ニ一節ヲ設ケタル等其編纂ノ體裁極メテ秩序ヲ失シタリシモ凡ソ文書偽造ノ罪ハ官私ノ區別ニ依リ罪ノ性質種類ニ依リ罪ノ輕重ヲ定ム可キヲ相當ト爲スカ故ニ新法ニハ之ヲ改メタリ舊法ニ於テハ公益私益ニ依リ犯罪ヲ區別セシヲ以テ官文書毀棄ノ罪ヲ公益ヲ害スル罪中ニ規定シタルモ毀棄ト偽造ハ大ニ其趣ヲ異ニスルノミナラス新法ニ於テハ公益私益ニ依リ分ツコトヲ廢シタリ

舊法ニ於テハ文書偽造罪ノ成立ハ偽印ノ使用若シハ眞印ノ盜捺ヲ必要トセザリシモ凡文書偽造ノ罪タルヤ害ノ生シ得ヘキ事ヲ成立ノ要素ト爲スカ故ニ害ノ生シ得ヘカラサルノ偽造ハ所謂不能犯ニシテ處罰ス可キモノニ非サル可シ今法律カ官私文書ノ偽造ヲ社會ニ害アリトシテ處罰スルモノハ斯ル文書ニ依リ社會ヲ欺キ以テ之ヲ害スルニ依ル然シテ社會カ官私文書トシテ信用ヲ措クモノハ官私文書ニ官私ノ印章捺捺アリテ猥リニ他人カ作成シ能ハサルカ故ナリ若シ是等ノ書類ニシテ印章ナキ時ハ何人モ直ニ作成シ得ル處ノ一片ノ反古紙タ

ルニ過キササルナリ故ニ新法ニハ官私ノ文書ヲ問ハス文書ノ偽造罪ニハ偽造シタル印章ヲ使用シ又眞印ヲ不正ニ使用シタルコトヲ犯罪成立ノ要素ト爲シ又變造罪ニハ印章ノ捺捺シタル所ノ文書ヲ變造シタルコトヲ要スルト爲シタリ

舊法ニハ詔書ハ偽造變造成ルヤ假令行使セサルモ直ニ其所爲ヲ罪ト爲シタリシモ他ノ文書ニ至リテハ偽造變造已ニ成ルモ之レヲ行使セサルハ罪トシテ處罰スルコトナカリシナリ是偽造變造成立スルモ行使セサレハ社會ハ未タ害ヲ受ケスト思料シタルカ故ナラン然ルニ新法ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ偽造變造スルヤ未タ行爲ヲ爲サ、ルモ罪トシテ處罰スルコトナレリ是偽造變造已ニ成ルハ何時使用スルモ自由ナルヲ以テ社會ハ已ニ危險ニ瀕スルノ害ヲ受ケタルノミナラス早晚實地使用スルハ豫期シ得ヘキコトナルヲ以テ行使ヲ待タズ偽造變造ノミヲ以テ直ニ處罰スルコトニ改メタリ

凡ソ文書ナルモノハ或事實思想ヲ外見ニ發表スル處ノ機關ニシテ文書偽造トハ文書ニ依リ證明セント欲スル處ノ眞實ヲ偽リ以テ他人ヲ害スル處ノ所爲ナリト解スルヲ穩當ナリトス

依之文書偽造罪ヲ組成スル處ノ要素ハ(一)文書ヲ以テ眞實ヲ僞ハルコト(二)其文書ハ證明セント欲スル處ノ事實ニ係ルコト(三)惡意即不正ノ用ニ供スルノ意思アルコト(四)害ノ生シ得クハ生シ得ヘキコト(五)僞印ノ使用若クハ眞印ヲ不正ニ使用シタルコトノ各要素ノ具備スルコトヲ要ス

(一) 文書ヲ以テ眞實ヲ偽ハル
 本罪ハ必ス文書ヲ以テ事實ヲ偽ハルヲ要ス事實ヲ偽ハルトハ事實以外ノ事
 ヲ文書ニ記載シ即無實ノ事ヲ捏造スルヲ云フ例ハ貸借ノ事實ナキニ借用金證
 書ヲ偽造シ人カ或事ヲ委任セサルニ委任シタル如ク記載スルハ偽造ナリ増減
 變換ハ金員受領證書ノ金高ヲ改メタルカ如シ尙詳言スレハ偽造ハ事實ナキコ
 トヲ新ニ記シテ證書ヲ作成シ變造ハ已ニ成レル處ノ證書ノ必要ナル文字ヲ增
 減スル場合ナリ斯ク解説スルハ一見疑義ナキカ如クナルモ其各文書ニ付テ
 實際ノ幾分ヲ適用ニ至テハ種々ノ困難ナル場合ヲ生スルコト多クアリ依テ先
 ツ文書トハ如何ナルモノナル哉ヲ解説セントス
 文書トハ文字ヲ以テ記載シタル所ノ總テノ記録ニシテ或事實又思想ヲ表示ス
 ヘキモノナリ然ラハ文書トハ單ニ文字ヲ以テ記載スルニ止マラス山林ノ地理
 ヲ明ニスル處ノ繪圖面又ハ電信ノ符合ノ如キ其他形體ヲ以テ記載スル處ノ暗
 號ノ如キモ總テ人ノ思想ヲ表示スル爲ニ記載セラレタルモノ則證書ト爲リ得
 ヘキモノハ悉ク本罪ノ目的ト爲ル處ノ文書タル可シ然ルニ是ニモ亦例外ナキ
 能ハス即作成者ニシテ事實ヲ偽ルノ書證ト爲ス可キノ意思ナク單ニ古物又美
 術的ニ止マル事アリ此場合ニハ以テ本罪ノ目的ト爲ルヲナシ例ハ藩主ノ墨付
 辨慶ノ書翰ト云フ如キ元來事實表示ノ爲メニ作成サレタルモノナルモ今ハ已
 ニ美術的ト爲リ作成者モ美術的ニ依リ作成シタルモノナレハ本罪ノ目的トナ

ラサルカ如シ然ラハ鐵道ノ荷物預リ切符ヲ偽造スル處爲ハ如何即是等ハ第何
 號ノ文字ノ彫刻アルノミニシテ權利義務ニ關スル文字ナリ之ヲ稱シテ文書ト
 謂フヲ得ス故ニ是等ノ切符ヲ偽造スルノ所爲ハ文書偽造罪ト言フヲ得サルナ
 リ
 又甲者乙者ニ金員ヲ借用シ期限ニ至リ之ヲ返金シ債權ノ證書ノ返戻ヲ受ケ之
 ヲ破棄シテ打捨タル場合ニ於テ乙者ハ是證書ヲ拾ヒ取り完全ニ修飾シ貸金ヲ
 請求スルコトアリ此場合ニハ更ニ新證書ヲ作成スルニ非サレハ所謂事實ヲ偽
 ハルニ非サルカ故ニ偽造文書罪トシテ罰スルヲ得ス是恰モ返金濟ノ證書ヲ以
 テ再ヒ請求スルト同一ナレハ文書偽造ニ非サルナリ然レハ是ニ類似シタル實
 例ニシテ古證文ノ片々ヲ利用シ金高借用ノ旨及年月日又ハ署名等ヲ切り抜キ
 一ノ新證書ヲ作成スルハ眞ノ事實ヲ偽ハル所爲ナレハ文書偽造罪ト爲スニ十
 分ナリトス
 無實ノ事ヲ電報ニテ通信スルハ文書偽造罪ナルカ人民カ電信局ニ依頼シタル
 片ハ其依頼書ノ記載カ無實ナル片ハ其書面ノ自體カ偽造ノ文書ナリ若シ電信
 局ノ技手自ラ無實ノ事ヲ返信シタル片ハ受信局ニテ筆記シタル所ノ文書カ偽
 造ノ文書トナルナリ又電信局ノ技手ト雖他他人ノ依頼ナキニ依頼アルカ如ク
 頼信紙ニ眞實ニ非サルヲ認メタル片ハ其文書カ偽造文書ト爲ルナリ實際ニ
 於テ金錢ノ貸借アル片債主カ負債主ノ名義ヲ以テ貸金ヲ證明スヘキ證書ヲ作

成シタルハ事實ヲ偽ハラサレハ文書偽造ニ非サルナリ又文書ヲ作成スルキ作成者ハ眞實ニ違フト知り作成シタルモ却リテ其眞實カ證書記載ノ事實ニ違ハサルキハ文書偽造罪ナシトス

例ハ甲ハ乙ニ金壹萬圓ヲ與フルノ遺言證書ヲ造リ死亡セリ然ルニ乙ハ其事實ヲ知ラスシテ自ラ壹萬圓ノ贈遺證書ヲ作成シタルカ如此場合ニハ乙ノ所爲ハ眞實ニ偶中シ其偽造カ眞實ニ違ハサルカ故ニ文書ノ偽造ヲ構成セサルモノトスルナリ

(二) 其文書ハ證明セント欲スル處ノ事實ニ係ル

總テ偽造ノ文書トシテ處罰シ又文書ノ變造トシテ其文書カ眞實ニ違ヒ且其事實カ證明セント欲スル所ノ主要ナル事實ニ關スル場合タルヲ要ス故ニ貸金ノ事實ニ關シテハ貸借ノ旨ヲ證明シ賣買ノ事實ナレハ賣買ノ旨ヲ證明シ即其主タル目的ニ就テ眞實ニ違フヲ要ス故ニ證書中ニテ權利關係ニ不必要ナル文字ヲ變造スルモ變造罪ニ依リ問フノ必要ナキナリ例ハ貸金證書ノ文中私財政困難ニ付借用云々其財政ノ困難云々ヲ加入スルモ證書ノ權利自體ニ關係ナキヲ以テ變造ノ罪ニ問フコトナキナリ

要スルニ文書變造罪ニハ苟モ之ニ依リ裁判上證據ト爲ル可キ物件ヲ偽造變造スルモノ即眞實ニ違フ處ノ新文書ヲ作成スルカ若クハ已成ノ文書ニ依リ之レ

カ證據ノ目的トスル處ノ主要ノ點ニ付變造シタルモノヲ處罰スルニ過キス是眞實ニ反スル架空ノ事實ニ依リ裁判上請求ノ材料ト爲シ若クハ抗辯ノ理由トシテ社會ノ安寧ヲ害スルカ故ナリトス

(三) 不正ノ用ニ供スルノ意思アル

過失罪ヲ除クノ外犯罪行為ニ惡意ヲ要スルハ言ヲ缺タス然ルニ文書偽造罪ニ言フ所ノ惡意トハ所謂不正ノ用ニ供スルノ意アルコトヲ要ス是處ニ文書ヲ偽造スルモ害ノ生スルコトナク又己レヲ利スルコトモ非サルヘキナリ要スルニ不正ノ用ニ供スル意ヲ以テ他人ヲ害シ又ハ自己若クハ他人ヲ利益シ又ハ損害ヲ免ルル目的ニテ爲スコトヲ要ス但利害トハ金錢上ノ關係ノミナラス名譽ニ關スル場合モ亦豫想スルコトヲ要スルナリ

(四) 害ノ生シ若クハ生シ得ヘキ事

犯人惡意アリテ偽造變造スルモ到底害ノ生シ得サル場合ニハ所謂不能犯ニシテ偽造變造罪ヲ構成セス今法律カ文書偽造罪ヲ處罰スルモノハ虛偽ノ文書ヲ造リ其文書ニ依リ社會ヲ欺キ他ヲ害スルニ依ルヘシ故ニ其文書カ害ノ生シ若クハ生シ得ヘカラサルモノナルキハ之ヲ罰スルコトナカルヘシ

無効ノ事ヲ偽造シタルキ即司法事務ニ關スル裁判ヲ行政官ノ名ヲ以テ偽造シタルキノ如キ或人ヨリ無キ處ノ人ノ名ヲ以テ私文書ヲ偽造シタルキノ如キ是等ハ權限以外ニシテ無効ナル行為ナルト全ク無キ人ノ行為ヲ偽造スルヲ得サ

ルニ依リ無効ナリ法律上無効ナル證書ハ之ヲ偽造スルモ所謂害ノ生シ得ヘキ
事實非サルヲ以テ文書偽造罪ヲ構成セサルナリ或無罪ト爲スノ危険アルカ
如クナルモ其危険ノ爲メニ効力ナキ文書ヲ造リテ偽造罪ヲ爲ストセハ法律ノ
運用上誤謬ヲ來ス其例皆乏シカラサルヘシ

(五) 偽印ノ使用若クハ眞印ヲ不正ニ使用シタルコト此要素ヲ要スヘキ理由ハ改
正事由ニ詳述シタリ

新法ニ不正ニ使用云々ノ法文アリ是舊法ニ印影ノ盗用ト同一ノ義ナルヘシ故
ニ印影ノ眞正ナルモノヲ窃ニ押捺シ印影ハ元ノ儘ニ存シ置ク場合眞印ヲ押シ
タル處ノ文書ノ印影ヲ切り抜キ之ヲ窃ニ貼附スル場合又化學作用等ノ働キニ
依リ眞印ヲ寫シ取ル場合等ヲ想像シタルノ法文ナリトス

第一百五十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使
用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若
クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期
又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ

變造シタル者亦同シ

使用即役立ルノ目的ニテ眞印ニ偽セ作リタル御璽(天皇陛下ノ御印)國璽
(日本帝國ノ印)若クハ天皇陛下ノ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽セ作リ又
ハ使用スル目的ニテ御璽國璽若クハ天皇陛下ノ御名ヲ不正ニ使用シテ詔書其他
ノ文書ヲ偽セ作リタルモノ、刑ヲ定ム使用スルノ目的ニテ前項ノ各印ヲ押捺シ
又御名ヲ署シタル文書ノ文字ヲ増減變換シタルモノ、刑モ偽造ト同一ニ處スヘ
キヲ定ム

本條ハ官印官文書中ノ最貴重ナルモノ御璽トハ 天皇陛下ノ御印ニシテ法律勅
令ノ原本勅任官任命ノ辭令書及奏任官任命ノ奏薦書ニ押用スルモノ國璽トハ日
本帝國ノ印章ニシテ國書條約批准外國派遣官吏委任狀在留各國領事證認狀及總
テ勳章ノ勳記等ニ押用スル印章ナリ然シテ詔書トハ天皇親ヲ作成シ賜フ所ノ宸
翰勅書等ノ如キ文書ニシテ其他ノ文書トハ所謂天皇カ國家ノ主權者トシテ作成
シ賜フ所ノ凡テノ文書即チ法律勅令ハ勿論公文式ニ依リ御璽國璽ヲ押用ス可キ
總テノ文書ノ總稱ナリ其官文書中ニ於テ御璽國璽ヲ押用ス可キ文書ハ國家主權
者ノ行爲ヲ證明スヘキ文書ナレハ是ヲ偽造スルハ主權者ヲ害スル行爲ニシテ其
害最大ナレハ法律ハ官文書中ヨリ區別シテ一層刑ヲ重クシタリ
増減變換ノ罪ニ付テハ詔書ハ御璽國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル原本ヲ増減

變換シタルトキニ非サレハ犯罪ヲ構成セス此場合ニハ前項偽造ノ刑ト同一ニ論ス可キヲ規定シタリ

第一百五十五條

行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ
前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ使用スル積リニテ偽セ作リタル公務所公務員ノ印ヲ使用シテ官文書又ハ公文書ヲ偽造シタルモノ、使用スル目的ニテ公務所若ハ公務員ノ印章署

名ヲ不正ニ使用シテ官文書又公文書ヲ偽セ作リタルモノ、刑ヲ定ム
使用スル目的ニテ前項ノ文書ヲ増減變換シタルモノモ官文書ヲ偽造シタルモノト同一ニ論ス可キヲ規定シタリ

前二項ノ外公務所公務員ノ作ル可キ官文書公文書ヲ偽セ作リ又官文書公文書ヲ増減變換シタルモノ、刑ヲ定ム
本條官文書トハ詔書ヲ始メ官吏カ法律命令ノ規定ニ依リ職務ヲ以テ作成スル所ノ文書ナリ之ヲ大別スレハ(一)政治上ノ文書即御璽國璽ヲ押用ス可キ詔書其他外交文書公使ノ信認狀法律勅令ノ原本等ノ如キ文書ナリ(二)爲政上ノ文書即行政官廳ニ於テ國ノ行政事務ノ爲ニ作ル處ノ閣令省令府縣令ヲ始メ行政事務ノ爲ニ作成スル戶籍簿登記簿會計出納ノ帳簿等ノ如キ簿冊其他免狀鑑札往復文書ノ如キナリ(三)裁判上ノ文書即民事刑事ノ裁判書及調書其他司法權ノ活動ニ依リ作成スル處ノ文書ナリ(四)契約上ノ文書即人民相互私約上ニ付テ確認ヲ與フルモノニシテ公證人カ作成スル公正證書等ノ如キ是ナリ是等ノ文書ハ各其關係事項ニ付テハ十分ノ信憑力アル處ノ文書ナリ然ルニ之ヲ偽造變造スルハ害ノ生スル最モ大ナルカ故ニ法律ハ凡テ之ヲ處罰スヘキモノトシタリ偽造變造ノ文書ニシテ官文書ナルヤ私文書ナルヤ一見判明セサルモノアリ即郵便局ノ貯金通帳若クハ爲換券ノ如キハ單ニ人民ノ便益ヲ圖リ是レカ委託ニ依リ取扱ヒタル預リ金通帳又ハ遞送金ノ證券トシテ交付シタルモノナレハ官文書ニ非ストノ説アリ

第十七章 文書偽造ノ罪

余ノ考ニテハ遞信省今日ノ官制ニ依レハ遞信省ハ公益事業トシテ取扱ヒ居ルモノナレハ是レ總テ國ノ行政事務ト認メサルヲ得ス然ラハ貯金通帳爲替券等ノ如キ官文書ト謂フニ難カラサル可シ若シ是等ヲシテ官文書ニ非スト言ハ、郵便電信其他貯金爲替ニ關スル遞信省令ノ如キモ官文書ニ非スト極論セサル可ラサルニ至ルヘシ

私人カ官廳ニ提出シタル所ノ書類ニ對シ官廳ニ於テ與印又證明ヲ爲シタルモノハ奧書證明ヲ爲シタル部分ノミ官文書タルカ其書類全部カ官文書ト爲ルカ此場合ニハ其始メハ私人カ作成シタル書類ト雖モ已ニ官廳ニ提出シ官廳カ奧書證明ヲ爲シタルトキハ其書類全部カ官吏カ作成シタル所ノ文書ト一體ヲ爲シ其性質ニ於テ區別スルヲ能ハサルカ故ニ効力ニ於テモ全部官吏カ作成シタルト區別スル處ナシ故ニ全体ノ文書カ官文書ト爲ルモノト解釋スルニ妨ケナカルヘシ

現任官ニアラサル人ノ名ヲ以テ偽造スルハ如何此問題ニハ區別シテ論セサル可ラス其偽造ノ日附カ任官中ニ非サルハ其人ハ吾々通常ノ人ト異ナラス然ラハ通常ノ人カ官署ノ長官ナリトシテ文書ヲ作成スルモ素ヨリ法律ノ問ハサル兒戲ニ均シクシテ罪トナラス若シ其日附カ在職中ノ日附ナルハ外見上有効ノ裝ヲ爲シ人ヲ欺キ得ヘキカ故ニ偽造官文書トシテ罰セサル可ラサルナリ

外國ノ官文書詳言スレバ外國ノ官吏作成シタル所ノ文書ヲ偽造變造スルハ帝國刑法ニ於テ官文書トシテ處罰スヘキカ余ノ考ニテハ凡ソ物件ニ付テ天然自然ノ

モノハ國ノ内外ヲ問ハス法律上ニ於テ同一ニ論ス可キモ事體天然ニ非スシテ所謂人爲ノモノ即人爲的ニ於テ定メタル處ノ等差上ヨリ來ル所ノ特別事項ニ付テハ國ノ内外ヲ區別シテ論セサル可ラサルヘシ即君主皇族官吏等ハ其國ニ於テ認メタル所ノ事項ニシテ是等特別ノ制度ハ國際法上ニ於テ吾邦ノ君主皇族官吏ト同一視ス可シトノ明文ノ存在セサル限リハ外國ニ於ケル區別ヲ以テ直ニ吾國ニ適用スル能ハサルナリ故ニ是等ノ明文ナキハ吾國ニテハ通常私人ノ文書ニ付テ論ス可キモノナリトス

第百五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ

文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルト
 キハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

官吏公吏カ職務上ニ關係アル書類ヲ使用スルノ目的ニテ偽セノ文書ヲ作り又ハ不正ニ文字ヲ加ヘ減シ又ハ變ヘタルモノハ印章ノ有ルト無キトヲ別チ前二條ノ例ニ依リテ罰スルモノナリ

本條ハ官吏カ職務上自分ニ干與ス可キ書類ニ付テ事實ヲ偽リ作成シタル場合ノ罪ナリ例ハ登記官吏カ當事者ノ請求ナキニ請求アリタルカ如ク賣買抵當等ノ登記ヲ爲シ請求ナキニ漫リニ登記ヲ抹消變更シタルカ如キ其登記ハ官吏ハ自己ノ職權ニ於テ記載スヘキモノナルモ其記載事項カ事實ヲ詐ルヲ以テ之ヲ罰スルモ

ノナリ然シテ本條職務ニ關シタルカ故ニ其人ハ官吏ナル場合ト雖モ自分ハ職務上ニ關係ナキ權限違即檢事カ造リタル裁判書行政官カ作リタル判決書ノ如キ書類ナルモハ偽造變造スルモ素ヨリ本條ヲ以テ問フ所ニ非サルナリ

第一百五十七條

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ公務員ヲ欺キテ戶籍簿登記簿其他權利義務ニ關スル公正證書其他免狀、鑑札又ハ證券等ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタルモノ、刑ヲ定ム
舊法ニ於テハ官吏公吏ヲ欺キ不實ノ登記ヲ爲サシメ又ハ虚偽ノ登記ヲ爲サシメタル必要ニ對シテ罰スルノ明文ナキ爲ニ或無罪ナリトシ或官吏ヲ器械ニ供シ即自ラ官文書ヲ偽造セスシテ詐僞ノ陳述或方法ヲ以テ官吏ヲ欺キ依テ以テ虚偽ノ證書ヲ作ラシメタルモノナレハ均シク官文書偽造ナリト爲シ議論交々出テ以テ

世人ヲ迷ハシム然ルニ其行爲タルヤ害ノ及フ所自ラ官文書ヲ偽造スルト大差ナキカ故ニ新法ハ明文ヲ設ケ是等ノ處爲ヲ罰スルト爲シタリ
本條ノ器械說ノ如キ舊法ニ於テハ一時大審院ノ認ムル所ト爲シ有罪ニ決シタルノ判決例アリシモ爾後之ヲ變シ法ニ明文ナシトシテ無罪ト爲シタリシモ斯ル社會ノ危害タル行爲ヲ無罪トスルハ穩當ナラサルヲ以テ新法ハ一ツノ罪名ヲ設ケタリ

第一百五十八條

前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ第一百五十四條ヨリ第一百五十七條迄ニ記載シタル文書即偽造變造ノ文書タルヲ知リナカラ之ヲ使用シタル者ハ詔書ト官文書ト私文書トヲ區別シ其文書ヲ偽造變造ヲ爲シ若クハ眞實ニ無キトノ記載ヲ爲シタルモノト同一ニ罰スルノ法ヲ設ケタリ
舊法ニ於テハ官私文書ノ偽造行使者ヲ罰スルノミニシテ其偽造變造ノ行使ニ干

與セス唯知情ノ行使者ヲ罰セザリシモ新法ニハ是ヲ罰スルヲト爲シタリ是行爲タルヤ均シク害ノ生シ若クハ害ノ生シ得ヘキ事ナルヲ以テ處罰スルヲ正當ト思料セシカ故ナリ

第一百五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ
前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

釋 本條ハ使用スルノ目的ニテ偽セ作リタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務ニ關係タル文書ヲ偽造シ又ハ使用スル目的ニテ他人ノ眞印署名ヲ不

正ニ使用シテ權利義務ニ關スル文書ヲ偽セ作リタル者等ノ刑ヲ定ム
本條ハ私文書ノ偽造變造ニ關スル規定ニシテ法文ノ權利義務トハ如何ナル意義ナルカ換言スレハ財産上ノ權利義務ニ限ルカ公權上私權上ノ權利義務モ共ニ包含スルカ法文ノ記スル所單ニ權利義務ト規定シ如何ナル權利義務ナルカ區別セサルヲ以テ公權私權財産權名譽權ナルヲ問ハス苟モ權利義務ニ關係スル證書ハ總テ本條ノ想像スル所ナル可シ

第六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

釋 免許ノ醫師タルモノニ於テ公務所ニ提出スル所ノ診斷書若クハ死亡書ニ詐リノ記載ヲ爲シタルモノ、罪ヲ定ム
舊法ニハ疾病證書偽造罪トシテ一節ヲ設ケタリシモ文書中特ニ疾病證書ノミ區分シテ節ヲ設クルノ必要ナキヲ以テ新法ハ之ヲ改メ單ニ文書偽造罪中ニ編入シタリ且舊法ニハ公務ヲ免ル可キ爲メ云々ト其偽造ノ目的ヲ制限シタリシモ斯ク目的ヲ指定スルハ他ノ目的ニテ偽造シタル場合ニ罰スルヲ得サルノ欠點ヲ生スヘシ又死亡證書ノ偽造ノ如キ其害亦疾病證書ノ偽造ヨリ甚シキカ故ニ此偽造ノ處爲モ罰スルヲト爲シタリ

舊法ニハ通常人ニ於テ醫師ノ氏名ヲ用キ是等ノ證書ヲ偽造シタル場合ヲ罰シタルモ新法ニ醫師ニ於テ官廳公署ニ提出ス可キ書面タルヲ知リ偽造シタル場合ノミ罰スルト爲シタリ

本條ハ醫師其職務ニ依リ之ヲ作ル場合ニ於テ偽リノ文書ヲ作りタルモノナレハ幾分カ刑ヲ重クシタリ是職務ニ信用アルモノカ却テ詐リノ書面ヲ造リ社會ノ信用ヲ害スルカ故ナリトス

第六十一條 前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ第五十九條第六十條ニ記シタル所ノ文書又圖畫ヲ行使シタル者ハ其變造又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス可キヲ定ム

第十八章 有價證券偽造ノ罪

舊法ニハ有價證券ノ性質タル所ノ公債證書ヲ官文書ノ偽造トシ又私文書偽造中ニ有價證券ノ偽造ヲ編入シタリシモ是等ハ通常ノ文書ト性質ヲ異ニスルヲ以テ新法ハ特ニ有價證券ノ偽造罪ナル一章ヲ設ケ其性質ナルモノヲ凡テ編入

シ且舊法ニハ他人カ偽造變造ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シタルモノヲ罰スルノ明文ナキハ缺點ナルヲ以テ新法ニハ之ヲ罰スルノ明文ヲ設ケタリ

第六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

行使スル目的ニテ政府ノ發行ニ係ル公債證書會社カ資本金ニ對シ發シタル株金券金錢物品ノ手形切手其他裏書ヲ以テ處有權ヲ移轉シ又ハ金額ト引替得ル處ノ證券ヲ偽造變造シ若クハ詐僞ノ裏書ヲ爲シタルモノ、罰ヲ定ム

公債證書株券ノ手形切手等ハ凡テ裏書ヲ以テ世間ニ流通スル處ノ證券ニシテ殆ント貨幣ニ均シキ効力アルモノナレハ是等ノ物品ヲ偽造變造ノ處爲アルキハ社會ノ危險言フ可ラス故ニ法律ハ之ヲ罰スルノ必要アリ故ニ此正條ヲ設ケタルナリ

第六十三條 偽造、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ

若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ偽造變造ニ係ル處ノ有價證券タル事實ヲ知リテ故ラニ之ヲ行使シ又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券タル事ヲ知リテ之ヲ行使シ又行使ノ積リニテ他人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ノ罪ヲ定メタリ

第十九章 印章偽造ノ罪

舊法ニハ印章ノ偽造罪ヲ官印ノ偽造私印ノ偽造ノ二節ニ分チ一ツヲ重罪ト爲シ一ツヲ輕罪ト爲シタリシモ均シク印章偽造罪ヲ二節ニスヘキ必要ナキヲ以テ新法ハ此區別ヲ廢シ官印私印共同節ニ規定シ單ニ刑ニ輕重ヲ設ケタリ舊法ハ印影ノ不正使用即盜用ハ印類ヲ偽造シテ之ヲ使用スルニ比シテ被害少ナシト思惟シ刑ヲ減シタリシモ深ク之ヲ研究スレハ單ニ斯ク論スル能サル事實アリ何トナレハ偽造ノ場合ニハ其形狀精粗等精細ニ調査スルキハ其眞偽ノ知レ難キニ非サルモ盜用ノ場合ニハ元來眞物ヲ押用シタルモノナレハ其不正使用タルノ事實ヲ發見スルニ困難ナリ故ニ何レモ同一ノ刑ニ處スルヲ相當トシ新法ニハ之ヲ同一ニ罰スルト爲シタリ
本章ハ御璽國璽ヲ始メ凡テ官廳公署官吏公吏ノ印章等ノ如キ官印ヨリ人民一般

ノ印章署名ノ偽造及是等ヲ不正ニ使用シタルモノ、刑ヲ規定セリ是官印ハ國家公權ニ關スル處ノ印章ニシテ重大ナル信用ヲ有スルモノナリ夫ノ官廳ノ作成ニ係ル總テノ文書ニ特別ノ信憑力アルモノハ此印章ノ押捺リテ正直ナル官吏作成セシ故ナリ若シ官文書ト雖モ此印章ノ押捺ナク且官吏カ作成セサルハ斯ク重大ナル信用アラサルナリ就中官印ヲ偽造スルハ其危險重大ナルヲ以テ是ヲ偽造スル所ノ所爲ニ對シテハ法律ハ他ノ印章偽造罪ヨリ一層刑ヲ重クシタリ印章ノ偽造ハ印類ノ偽造ト印影ノ偽造トノ別アリ彼印類ヲ偽造スルモ未タ之ヲ使用セサルキハ實害ナキニ似タリ然レモ偽造己ニ成ルキハ何時之ヲ使用スルモ充分ナル位置ニアルヲ以テ社會ハ己ニ危險ニ瀕シタリ故ニ法律ハ偽造ノミヲ以テ本刑ヲ科スルコト、セリ然シテ印影ノ偽造即寫眞ニ取リ石版ニ摺リ筆ヲ以テ記シタル等ノ如キモ行使ノ目的ヲ以テ作成スルキハ所謂偽造タルヲ免レサルモノトスルナリ

第六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

使用ノ目的ニテ御璽國璽又ハ陛下ノ御名ヲ偽造シタルモノノ罪ヲ定ム

御璽國璽又御名ヲ不正ニ使用シタル者モ前項ト同一處罰スルヲ定メタリ
 舊法ニ於テハ御璽國璽ハ單ニ偽造スルノミヲ以テ直ニ犯罪トシ其偽造ノ目的ノ
 如何ヲ問ハサリシモ新法ハ行使ノ目的ヲ以テスル時ノミヲ罰スルコト、シタリ
 舊法ニハ御璽國璽又御名ヲ不正ニ使用シタルモノヲ罰スルノ正條ナカリシモ新
 法ハ之ヲ罰スルコト爲シ明文ヲ設ケタリ

御璽國璽ハ何レモ國家主權者ノ行爲ヲ證明スル處ノ印章ナルカ故ニ之ヲ偽造シ
 又不正ニ使用スル處爲ハ所謂主權ヲ害スルノ處爲ニシテ其害最モ大ナリトス依
 之法律ハ重キ刑ヲ科スルコト爲シタリ
 然レモ御璽ハ恐レ多クモ 皇上ニ對シ奉ル處ノ罪ニシテ例ハ詔書ヲ偽造セント
 スル場合法律勅令又ハ勅任官ノ辭令等ヲ偽造セントスル場合又外國トノ交渉文
 書ニ押用セントスル場合ナレハ斯ル行爲ヲ爲スモノ恐クハ之レナカル可シ然レ
 モ古史ヲ案スルモ古來絶テ無シト謂フ可ラス彼天皇ノ密書ト唱ヘ云々ノ行爲
 ナ爲シタル處ノ事例アレハ法律上之レヲ度外視スル能ハサルヘシ

第六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若
 クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
 公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽
 造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル

者亦同シ

使用スル目的ヲ以テ公務所又公務員ノ印章署名ヲ偽造シタルモノ、刑ヲ
 定ム

公務所又公務員ノ印章署名ヲ不正ニ使用シタルモノ、刑ヲ定ム

第六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル
 者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
 公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號
 ナ使用シタル者亦同シ

使用スル積リニテ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ノ刑ヲ定ム

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又之ヲ偽造シタル處ノ公務所ノ記號タルヲ知リテ
 使用シタル者ノ刑ヲ定ム

記號トハ農商務省各府縣等ニ於テ產物ニ對シ其公務所ノ製造ヲ標示スル爲メ所
 謂物品ノ精品佳良タルヲ證スルノ記シナリ是政府カ物品ノ品質ヲ證明スル爲メ
 ニ使用スル處ノモノナリ其他記號ハ船舶若クハ車輛等ニ政府檢査濟ノ證トシテ
 檢印スルニ用フル處ノ烙印モアリ此記號等ハ政府ニ於テ徵稅實行ノ便宜ノ爲ニ
 爲スモノニシテ所謂脫稅ヲ防ク爲ニスルモノナリ是等ハ總テ官印ニ均シキモノ

ナレハ公務所自ラノ印章ニ比スレハ其害少ナキカ故ニ印章ノ偽造ト區別シテ刑ヲ輕クシタリ

第六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

使用スルノ目的ニテ他人ノ印章署名ヲ偽造シタル者ノ罪ヲ定ム
他人ノ印章署名ヲ不正ニ使用シタルモノモ尚同一ノ刑ニ處スルコト、爲シタリ現今吾官印ノ體裁ニ付テハ別ニ法令等ノ規定非サルモ自然ニ一定ヲ爲シ通例官廳ノ名ヲ彫刻スルコト爲リタリ例ハ大藏省ハ大藏省之印大審院ハ大審院之印又官吏ノ印ナレハ内務大臣之印大審院長之印タルカ如ク其用フル所モ亦凡ソ一定セサルヲ以テ若シ之ニ反シテ偽造ヲ爲スモ容易ク發見スルヲ得ルモ私印ニ付テハ其印章ノ彫刻一定セスシテ種類極メテ多クシテ或ハ實印アリ認印アリ商家ニハ店印アリ仕切判アリ是等ハ何レモ私印トシテ押用スルモノナレハ其眞僞ノ調査困難ヲ極ムルカ故ニ是等ヲ偽造スルモノハ總テ本條ニ依リ處罰ス可キナリ私印ノ偽造ニ付テ實地ノ適用ニ至リ疑問アリ

(一) 偽造セル處ノ印章カ實地ト類似セル片例ハ眞印ニハ某之印トアルニ僞印

ニハ單ニ某ト刻シ眞印ハ圓形ナルニ僞印ハ方形ナルニ是等ハ私印ノ偽造ト爲スカ否此場合ニモ尙僞印ノ罪ヲ成立ス可シ何トナレハ眞實本人ノ印章ナラサルニ本人ノ印章ナリトシテ使用スルハ眞實ヲ變更スルカ故ナリ然シテ變ニモ述ヘタルカ如ク官印ニハ凡ソ一定ノ彫刻アルモ私印ニハ一定ノ彫刻ナキカ故ニ世人ハ之ヲ調査スルニ難シ故ニ印章偽造罪ニ付テハ眞印ニ模擬シ害ヲ生スルニ足ル可キ處爲ニ付テハ偽造ノ罪ノ成立ニ十分ナリトス
(二) 自分ノ印章ヲ偽造スル場合例ハ自己ノ實印ニ類似セル印章ヲ用キ金錢借用證券ヲ造リ債主ニ渡シ置キ異日債權者ノ請求アルハ自分ノ印章ニ非スト陳辯スルカ如シ此場合ニハ偽造罪ニ非ス何トナレハ法文ニ他人ノ印章云々トアルヲ以テ此處爲ヲシテ詐欺盜ノ罪アリト爲スモ私印偽造ノ罪アリト爲ス可ラサルナリ

第六十八條 第六十四條第二項、第六十五條第二項、第六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十章 偽證ノ罪

偽證者ヲ罰スルハ證人タルノ宣誓ニ背キ裁判官ヲ欺キ裁判權ノ神聖ヲ瀆シ以テ不當ナル裁判ヲ爲サシメ以テ社會ヲ害スルカ故ナリ是ニ依リ之ヲ觀レハ

信用ヲ害スル所ノ罪ト言ハンヨリ寧ロ裁判權ヲ害スルノ罪ト言フヲ適當ナリト謂フ可シ是外國ノ多數ノ刑法ニハ誣告罪ト共ニ裁判權ニ對スル罪ト爲シタル所以ナリ

偽證罪成立ノ要素ハ(一)宣誓シテ供述シタルヲ(二)眞實ニ反スルヲ(三)惡意アルヲノ三要素ヲ以テ成立スヘシ

(一) 宣誓シテ供述シタルヲ

凡ソ裁判官カ或人ヲ證人トシテ法廷ニ於テ證言ヲ聽クニハ民刑訴訟法ノ規定ニ依リ先ツ以テ式ノ如ク宣誓ヲ爲サシメ然ル後陳述セシムルノ手續ナリ故ニ宣誓ヲ爲サシメスシテ供述セシメタル證人ノ申立ハ證言タルノ効力ナク單ニ事實ノ參考人タルノ効力アルノミ參考人ノ陳述ニ付テハ假令眞實ニ違フ所ノ申立アルモ偽證罪アリトシテ罰ス可ラス定式ノ宣誓ヲ爲シ適法ノ證人トシテ申立タル證言ニ虛偽ノ申立アルハ於テ偽證罪アリトシテ處罰スルノミ是證言ニハ法律上確的ノ證據力アルヲ以テ裁判所ハ之ニ欺カル、ノ危險アルカ故ナリ

若シ證人ト爲ル可キ資格ナキモノ宣誓シテ偽證シタルハモ尙處罰スヘキカ證人カ偽證ノ申立ヲ爲シタルハ之ヲ罰スル所以ハ證人ハ誠實ニ陳述ス可キ宣誓ヲ爲シタルモノナレハ裁判官ハ其證言ニ信ヲ措クヘシ然ルニ其證人カ不實ノ申立ヲ爲スハ爲ニ裁判ヲ誤ルノ恐アリ依之證人タルノ資格ヲ有セサルモ

ノ即被告人ノ雇人若クハ親族ノ如キモノカ是等ノ關係ヲ蔽フテ宣誓シ裁判官ハ之ヲ知ラサリシ場合ニ偽證ヲ爲シタルハ罰セサル可カラズ是宣誓シタル證人ノ申立ハ裁判官信ヲ措クハ厚ク從テ公益ヲ害スルヲ大ナレハナリ

(二) 眞實ニ反スル事

已ニ偽證罪ノ名アル上ハ其申立カ眞實ニ反スルハ非サレハ罰ス可ラサルハ事理ノ見易キ所ナリ然シテ其陳述ハ積極的ナルト消極的ナルト將タ不知ナルトヲ問ハス何レモ證言ト謂ツ可シ果シテ證言スル以上ハ之ヲ詐ルトキハ爲ニ反對ノ裁判ヲ下スト無キヲ保ス可ラス故ニ三者何レモ偽證ノ罪ノ成立スルモノト同カル可キナリ

證人カ訟廷ニ於テ訊問ヲ受クルモ何事モ答辨セサルハ如何此場合ニハ證言ヲ拒ムモノトシテ處罰ス可キモノトス

證人タル可キ者證言スルニ際シ宣誓スルヲ拒ムハ如何是所謂證言ヲ拒ムモノナリ故ニ證言ヲ拒ムモノトシテ處罰スヘシ

不實ノ證言ヲ一度ニ陳述スルモ後ニ之ヲ取消スヲ得ルカ證言ハ一度ヒ發言スレハ責任ヲ生シ犯罪ハ直ニ成立スヘキヲ以テ後ノ變更ハ前ノ責任ヲ抹殺スル能ハサルナリ

證言中ノ或一部カ眞實ニ反スルモ其事柄カ事件ノ中心ニ非サルト否トニ依リ有罪無罪ノ別アリ例ハ貸金催促事件ニ付被告ハ借ラス或原告ハ貸シタリト云

フ如キ事ハ事件ノ燒點ナルヲ以テ之ヲ僞ルキハ犯罪トナル可キモ其僞證ノ點カ事件ノ主要點ニ非サルキハ僞證罪ノ構成セス今日一ノ事件ニ付原告カ富人ナルヲ貧ツシト云ヒ被告ハ貧シキヲ富メリト云フモ僞證罪ヲ構成セス是事件ノ主要點ニ非サルカ故ナリ然ルニ其如何ナル點カ主要ナルカ否ヤ豫メ規定スル能ハス如何トナレハ同一種ノ申立ニシテ事件ノ關係ニ依リ主要ナルヘキト否トノ別アルカ故ナリ例ハ晝夜ノ區別ニ付テ犯罪ノ時ヲ證スルニ其事件カ毆打等ノ事件ナレハ別ニ害ヲ生セサルモ邸宅ノ侵入罪ノ如キ晝夜ノ別ニ依リ刑ニ輕重ヲ生スヘキ事件ナルキハ主要ノ點トナルカ如シ故ニ其陳述カ主要ノ點ナルカ否ハ各事件ニ付判定スルヲ要スルヲナリトス

(三) 惡意アルコト

惡意ハ詐欺罪ニ要スル處ノ一般ノ原素ナリ然シテ本罪ニ付テ要スル處ノ惡意ヲ詳言スレハ所謂裁判ヲ誤ラシムル處ノ意思換言スレハ當事者ノ一方ヲ利シ或ハ害スルノ意アルヲ要ス故ニ其事不實ナルモ裁判ヲ爲スノ點ニ關係セサル事實ナルキハ僞證罪ナキノミナラス證人ハ斯クアルト信シテ陳述シタルキハ假令其事事實ト相違スルモ本罪ヲ構成セサルナリ

證人ト爲ル可キモノ眞實ヲ陳述スルキハ訴追ノ自己ニ及ハンヲ恐レ爲ニ僞證シタルキハ如何

證人カ眞實ヲ陳述スルキハ自己ノ財産上ニ損害ヲ及ホシ或自ラ刑事ノ訴追ヲ

受クルノ恐レアル場合ニ於テ之ヲ蔽ハン爲ニ詐欺ノ陳述ヲ爲スハ僞證ノ罪アリトシテ罰スルヲ得ス是現ニ犯罪アルモノト雖モ裁判上ニ於テ其事實ヲ陳述スルノ義務ナク所謂辯護權トシテ自己ノ利益ヲ主張スルヲ得ヘシ況ンヤ實際犯罪ナキモノニシテ或嫌疑ノ吾身ニ繫ランヲ恐レ僞證ノ陳述ヲ爲ス等自己ノ利益ヲ保護セントスルモノナルトキハ虛疑ノ陳述ヲ爲スモノアルモ人ヲ利シ或ハ害セントノ惡意ナキノミナラス又裁判ノ神聖ヲ害セントスルノ意思アルモノニ非スシテ專ラ自己ノ利益ヲ圖ルノ切ナルヨリ虛僞ノ陳述ヲ爲スニ過キサレハ其陳述カ偶然ニモ他人ノ利益ト爲ルコトアルモ證人ノ豫期スル處ニ非サレハ所謂惡意アリトシテ罰スルヲ得サル可シ然リト雖モ其陳述ニシテ強テ自己ノ犯罪ヲ蔽ハン爲ニ翻テ他人ヲ害スルノ陳述アルキハ之ヲ不問ニ附ス可ラス例ハ自己ノ犯セル處爲ニ付他人カ嫌疑ヲ受ケ訊問セラレツ、アルキ自己ニ對スル訴追ヲ逃レン爲ニ被告人カ犯シタルニ相違ナシト陳述スルカ如キハ自己ノ利益ヲ量ルニ止マラス他人ヲ陷害セントスルモノナレハ僞證罪アリトスルナリ

第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛僞ノ陳述ヲ爲シ

タルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

司法裁判所行政裁判所又ハ其他ノ裁判所ニ於テ宣誓シテ僞ツテ述ヘサル

旨ヲ申立タル處ノ證人カ虛偽ノ申立ヲ爲シタルトキノ罪ヲ定ム
 舊法ニ於テハ偽證ヲ爲シタル裁判所ニ依リ刑ヲ區別セシモ新法ハ斯ル區別ヲ廢
 シ何レノ場所ニ於ケルモ同一ノ刑ニ處スルコト爲シタリ是偽證罪ハ裁判ノ神聖
 ヲ誤ラシムル處ノ處爲ヲ罰スルモノナレハ苟モ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルハ其裁
 判所カ民刑即司法裁判所ナルト若クハ行政裁判所ナルトニ依リ刑ニ區別アルノ
 理由ナキカ故ナリ

舊法ニ於テハ被告ヲ曲庇スルト陷害スルト其目的ニ依リ刑ニ輕重アリシモ新法
 ハ是ニ依リ刑ヲ區別スルヲ廢シタリ是曲庇陷害共ニ社會ニ害毒ヲ爲スト何レヲ
 重トシ何レヲ輕トスルヤ豫メ期シ難シ是等ハ承審官ノ認定ニ依リ刑ノ範圍内ニ
 於テ適應ノ刑期ヲ定メシムルヲ可トスルノミナラス舊法ノ如ク偽證ノ目的ヲ定
 ムルハ法定以外ノ目的ニテ偽證スル場合ニ於テ之ヲ處罰スルコト能ハサルノ
 不都合ヲ生ス可シ故ニ新法ハ其區別ヲ廢シタリ
 舊法ハ重罪輕罪違警罪ノ區別ニ依リ偽證罪ノ刑ヲ區別シ且其法文ノ用語穩當ヲ
 欠キ學者間ノ議論アリシモ新法ハ此區別ヲ廢シ而シテ刑期ノ範圍ヲ擴張シ承審
 官ヲシテ罪刑適應ノ裁判ヲ爲ストヲ得セシメタリ
 舊法ハ偽證ノ爲ニ被告人處罰セラルルハ偽證者ヲ反座スルノ法ナリシモ新法
 ハ此方法ヲ改メタリ是古昔刑罰ヲ復讎主義ニ採リシ時代ノ遺弊ニシテ今ヤ法理
 ノ進歩セル時ニ當リ用フ可キ方法ノモノニ非サルコト喋々ヲ要セサルカ故ナリ

本條言フ所ノ宣誓ハ即良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス何事ヲモ附加セ
 サル旨誓ヒタルモノナレハ若シ之ニ背キタルハ誓ニ背キ裁判官ヲ欺キ社會ヲ
 害スルカ故ニ本條ノ處罰アリ法文ニ裁判所ニ於テ云々アルモ訴訟ノ手續中或場
 合ニ於テ證人ヲ裁判所ニ召喚セスシテ判事自ラ證人ノ所在ニ就テ訊問シタル場
 合ト雖モ宣誓シテ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルハ均シク偽證罪アリトス可シ本條ハ
 單ニ普通ノ場合ヲ想像シタル法文ト解スルヲ可トスヘシ

**第一百七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確
 定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除
 スルコトヲ得**

偽證ヲ爲シタルモノ其事件ノ裁判ノ確定前ニ自ラ偽證ヲ爲シタルコトヲ
 申出タルハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得ルヲ規定シタリ
 一度ヒ偽證ヲ爲シタルモノハ其犯罪ハ其時ニ成立スルカ故ニ之レカ偽證タルコ
 トヲ自首スルモ全ク罪ナカリシモノト爲スヲ得然レモ其事件ノ裁判カ確定前
 ニ於テ自首スルハ裁判ノ誤リヲ遂ク恐レナキカ故ニ法律ハ可及的自首ヲ獎
 勵シ正確ノ裁判ヲ爲サンコトヲ欲スルカ故ニ本條特ニ減輕ノ法ヲ設ケタリ

第一百七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虛偽ノ

鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

鑑定人又通事ト爲リタルモノ宣誓シテ偽リノ鑑定通事ヲ爲シタルモ他ノ偽證罪ト同一ノ刑ニ處スル事ヲ定メタリ
舊法ニハ裁判所ニ呼出サレタルモノ云々トアリシモ新法ハ此法文ヲ廢シタリ是裁判所ノ以外ノ場所ニテ誤リノ鑑定通事ヲ爲スルハ裁判所ニ於テスルト其害ニ區別ナキカ故ナルヘシ

第二十一章 誣告ノ罪

第七十二條 人ナシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第六十九條ノ例ニ同シ

他人ニ刑事處分又ハ懲戒處分ヲ受ケサスル目的ニテ眞實ニ非サルヲ告誣告發又ハ申告ヲ爲シタルモノ、刑ヲ定ム
舊法ニ於テハ刑事上ノ犯罪ト爲ルヘキ事實ヲ捏造シテ人ニ刑ヲ受ケシメンカ爲メ相當官吏ニ告誣告發シタルモノヲ罰スルノ法アリシモ懲戒處分ヲ受ケシムルノ目的ニテ其長官ニ申告シタルモノヲ罰スルノ規定ナカリシモ刑事裁判ト懲戒裁判トハ制裁ノ寬嚴アルモ均シク人ヲ陷害スル處爲タルヲ區別スル處ナキニ

一方ヲ罰セサルハ不權衡ナルノ嫌アルヲ以テ新法ニハ此明文ヲ加ヘ共ニ處罰スルヲ爲シタリ

本條誣告罪構成ノ原素ハ(一)告誣告發又申告ヲ爲シタルヲ(二)告誣告發若クハ申告カ事實ニ違フヲ(三)惡意即人ヲ陷害スルノ目的ニテ爲シタルヲ要ス

(一) 告誣告發又申告ヲ爲シタルヲ
告誣告發ハ刑事訴訟法ニ明記スル如ク書類ヲ以テスルト言語ニ依ルト區別スル處ナシト雖モ其告誣告發ハ法律上有効ニテ受ク可キ權限アル處ノ官吏ニ爲サ、レハ本條ニ依リ處罰スルコトナシ然シテ申告ノ手續ニ付テハ別ニ法律アラサルモ兎モ角其人ヲ處分ス可キ上官ニ爲サ、レハ是亦本條ノ處罰ヲ受クルヲナシトス

(二) 告誣告發若クハ申告カ事實ニ違フヲ
其誣フル所ノ眞實ニ違ハサレハ罪トナラス元來吾々人民ハ告誣告發ヲ爲スノ權利ヲ有スルノミナラス或ル場合ニ於テハ告發ヲ爲スノ義務ヲ有ス故ニ誣フルハ素ヨリ當然ナル可キモ不實ノ事ヲ誣ヘテ人ヲ害スルハ法律ノ許サ、ル所ナリ

(三) 惡意即人ヲ陷害スルノ目的ニテ爲シタルヲ
不實ノ事ヲ誣フルモ告誣告發人ニ於テ不實ノ事ト思ハスシテ眞實ナリト思惟シタルモハ所謂過失タルカ故ニ法律ハ之ヲ罰セサルノミナラス不實ノ事ナル

モ其訴フル所必ラス人ヲ陷害スルノ意思詳言スレハ法律規則ニ制裁アル處ノ事ニ依リ他人ニ此罰ヲ受ケシメントシテ訴ヘサレハ罪トナラス故ニ他人カ青樓ニ流連スルヲ誣告スルモ素ヨリ罪トナラサルナリ唯道德上ノ罪アルヘシ

第七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

誣告ヲ爲シタルト雖其事件ノ裁判確定前誣告者ニ於テ其誣告タリシ旨ヲ自白シタルモ其刑ヲ減免スルコトヲ得ルヲ規定シタリ
行政廳ニテ懲戒處分ヲ爲ス可キ事件ニ付テ其處分ノ濟マサル前ハ誣告者自白シタルモ亦減免スル旨ヲ規定シタリ

舊法ニハ被告人ノ推問ヲ始メタルモ自首ヲ許サ、リシモ新法ニハ之ヲ裁判確定前ト改メ被告ニ對スル罪ノ確定セサル中ハ自首スレハ刑ヲ減免スルヲ得ルモノト爲シ法律ハ其効果ヲ僞證ノ場合ト同一ナラシメタリ

第二十二章 猥褻姦淫及重婚ノ罪

舊法ニハ社會ノ風俗ヲ害スル處ノ罪即公然猥褻ノ處業ヲ爲シタル罪ヲ第二篇第六章ニ規定シ一私人ニ對スル猥褻姦淫重婚ノ罪ヲ第三篇第一章ニ規定シ

其公罪私罪ヲ分チシモ新法ニ於テハ已ニ公罪私罪ノ別ヲ廢シタル上ハ直接ノ被害者カ社會ナルト一私人ナルト區別スルノ必要ナキヲ以テ共ニ之ヲ本節中ニ規定シタリ

第七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

衆人ノ目撃シ得ル處ニテ見ルニ耐ヘサル淫事ニ關スル事ヲ爲シタルモノ、罪ヲ定ム

本條ノ罪ヲ構成スルニハ(一)猥褻ノ所行タルコト(二)公然ニ之ヲ爲シタルコト(三)公然ニ爲スノ意思アルコトノ要素ヲ具備スルコトヲ要ス

(一) 猥褻ノ處行タルコト

猥褻トハ淫事ニ關シタル處ノ見ルニ耐ヘサル醜行ヲ云フ然シテ如何ナル行爲カ淫事ニ關スル醜行タルヤ哉否ハ一般ノ習慣ヲ標準トシテ定ム可キ理想上ノ問題ナリトス故ニ昨ハ猥褻行爲ト認メタリシコトモ今ハ却リテ然ラサルコトアリ又今ハ猥褻行爲ナリト爲スモ昨ハ猥褻ニ非スト言ヒシコトアリ要スルニ猥褻トハ時ト場所トニ依リ變遷スルモノナルカ故ナリ

(二) 公然ニ之ヲ爲シタルコト
本條ハ一般ノ風俗ヲ害スル處ノ罪ニシテ其行爲ハ必ラス公然ナルコトヲ要スル

ト共ニ其行爲ハ姦通ノ如キ淫事ト異ナルヲ以テ男女相待ツニ非サルモ男ヨリ男ニ對シ女ヨリ女ニ對シタル場合ニ於テモ尙犯罪トナルナリ彼姦ノ如キ猥褻ノ處業タルノミナラス猥褻ハ人ニ對セスシテ自身一己ニシテ之ヲ爲シ又獸類ニ對シテ之ヲ行フモ本條ノ間フ所ト爲ルナリ然シテ公然トハ絶對ト相對トアリ道路ノ如キ場所自ラノ性質上公然ノ場所ト稱ス可キ所ニ於テハ假令人ノ目撃セサルモ公然ト稱ス可クモ之ニ反シテ室内ノ如キハ場所自ラノ性質上ハ公然ニ非サルカ故ニ之ヲ他人ノ目撃スルト否トニ依リ公然ナルト然ラサルトノ別アリ要スルニ場所自ラカ性質上公然ノ場所ナレハ絶對ニ公然トシ又場所ノ自ラカ性質上公然ニ非サルハ相對ニ依リ公然トナル可キナリ依之汽車汽船等ノ如キモ道路ト同シク絶對ノ場所ナリトス

然シテ法律カ公然タルヲ要スルハ元來淫事ニ關スル行爲ハ必スシモ不徳ノ行爲ニ非サルカ故ニ隱カニ之ヲ爲スハ人事ノ常ニシテ法律ノ間フ所ニ非サルモ公然ニ此行爲ヲ爲スハ社會ノ公德ヲ害スルカ故ニ法律ハ之ヲ處罰スルヲ爲シタリ

(三) 公然ニ爲シタルト

公然ノ場所タルヲ知リ此行爲アルキニ限り法律ハ之ヲ罰スヘシ故ニ他人ノ目ヲ遮キル爲ニ備ヘアルモノカ偶然撤去シアルヲ知ラスシテ偶人目ニ觸レタル如キハ問フ處ニ非サルナリ

第一百七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ

又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

猥褻ノ文書圖畫其他ノ物品ヲ他人ノ目ニ觸ル、處ニ陳列シ又ハ是等ノ物ヲ頒布若クハ販賣スルモノ、刑ヲ定ム

本條公然ノ陳列ハ其目的販賣ナルト人ノ縦覽ニ供スルト否トヲ問ハス單ニ人ノ目撃シ得ル場所ニ陳列スルトキハ之ニ依リテ處罰スヘシ

法律ハ陳列販賣ニ限ル故ニ貸貸贈與ハ法律ノ明文以外ナリト信ス

第一百七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ

猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

十三歳ヨリ少ナル男女ニ對シ猥褻ノ處行ヲ爲シタルモノ若クハ十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ處行ヲ爲シタルモノ、刑ヲ定ム

本條ノ罪ヲ構成スルニハ(一)猥褻ノ行ヲ爲シタルト(二)十二歳未滿ノ男女ニ對シテ爲シタルカ又十二歳以上ノ男女ニ對シテ暴行脅迫ヲ以テ爲シタルトヲ具備

スルヲ要ス

(一) 猥褻ノ處業ヲ爲シタルト
猥褻ノ處行ノ何タルハ前已ニ述タリ然シテ本條ノ猥褻罪ヲ構成スルニハ必ラ
ス特定ノ被害者アルヲ要ス

(二) 十二歳未満ノ男女ニ對シテ爲シタルカ又十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅
迫ヲ以テ爲シタルト

暴行トハ有形ノ所爲ニシテ之ヲ詳言スレハ腕力ニ依リ他人ニ迫ルヲ云ヒ脅迫
トハ無形ニシテ詳言スレハ言語ヲ以テ他人ニ迫ルヲ云フ

前項ハ暴行脅迫ノ處爲ヲ以テ犯罪トナリ后項ハ暴行脅迫ナクシテ犯罪トナルナ
リ是レ十三歳以下ノ幼者ハ未タ身體ノ發達十分ナラサルノミナラス淫事ノ何事
タルモ知ラサルカ故ニ暴行脅迫ナラサルモ被害甚シ之ニ反シ十三歳以上ノ者ニ
對シテハ單ニ社會ノ通義ニ反スルト言フ迄ニシテ其被害ノ度甚タシカラサルカ
故ナリ

第七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫

シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三
歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

暴行又脅迫ヲ加ヘ婦女ノ意ニ反シテ交媾シタル者ハ強姦ノ犯罪アリトシ

其刑ヲ定ム十三歳以下ノ幼稚ナル女ヲ姦淫シタル者ハ假令暴行脅迫ニ依リ爲サ
ルモ前項ト同一ノ刑ニ處スル旨ヲ規定シタリ

舊法ニハ暴行脅迫ノ處爲アリテ姦淫シタルモノ又十二歳未満ノ幼者ニ對シ若ク
ハ犯人ニ於テ藥酒等ヲ用キ人ヲ昏睡又精神ヲ措亂セシメ以テ姦淫シタルモノ等
ヲ強姦罪ト爲シタリシモ法文ニ於テ藥酒等ヲ用キ云々ト記スルキハ犯人ノ處爲
ニ基カサル昏睡又精神ノ措亂ニ乘シ姦淫シタル如キ其實際ヲ言ヘハ犯者カ強姦
シタル處ノ場合ニ讓ラサル害悪タルニモ拘ハラス之ヲ不問ニ附セサル可ラサル
ノ不都合ヲ生スルカ故ニ新法ハ之ヲ改メ其場合ヲ限ラサルト爲シタリ

本條強姦トハ婦女ノ意ニ反シ暴力ヲ用キテ爲シタル不正ノ交媾ナリ依之犯罪構
成ノ原素ハ(一)不正ニ姦淫シタルト(二)暴行脅迫ヲ以テシタルト(三)婦女ニ對
シタルトノミナリ

(一) 不正ニ姦淫シタルト

交媾ノ處爲ハ強姦罪ニ欠ク可ラサル處爲ニシテ其交媾タル必ス不正ナルヲ要
ス故ニ夫カ妻ニ對シ暴行ヲ用フルモノ決シテ強姦罪ニ非サルナリ娼婦ニ對シ
テハ如何人身ノ自由ヲ賣ルモノニ非ス又天理上爲ス可ラサル行爲ニ係ルノミ
ナラス法律ハ婦女ノ品行業體ニ依リ區別スルモノニ非ス依之是等ニ對スルモ
一般ノ強姦罪成立ス可シ婚姻成約ノ婦女ニ對シテハ如何假令成約濟ノ婦女ト
雖厄末タ以テ夫妻ト稱ス可ラサルカ故ニ其交媾ヤ必ラス不正タルヲ免レス然

ラハ此等ニ對シテ暴行等ノ處爲アルキハ強姦罪成立ス可シ
(二) 暴行脅迫ヲ以テシタルト

暴行脅迫ハ強姦罪ニ最必要ノ條件ナリ然シテ其暴行脅迫ハ必ラス直接ニ其婦女ノ身體ニ對スルヲ必要ナリトス彼強姦ヲ爲サン爲メニ婦女ヲ看護スル者ニ對シテ爲シタル暴行ハ婦女ノ身體ニ對スルノ暴行ニ非サレハ本條ノ問フ所ニアラサルナリ強姦罪ヲ成立セシムル處ノ暴行トハ果シテ如何ナル處爲チ云フカ福氏ノ說ニ依レハ第一強姦タリト申立ル者カ終始間斷ナク抵抗ヲ爲シタルトヲ要ス若シ抵抗止ムキハ承諾アリト爲スカ故ナリ第二婦女ト強姦人ト力ニ差違アルヲ要ス是抵抗シ得ル餘地アルモ是ヲ用ヒサリシハ承諾アリト推測ス第三婦女ノ救助ヲ叫ビタルヲ要ス是發聲アルキハ他人カ救助スル道アル場合ニ發聲セサリシハ承諾アリト推測ス第四其抵抗ノ證アルヲ要ス此證據ナキ時ハ抵抗シタリト見ル能ハス以上ノ事實確的ナラサレハ以テ強姦罪ヲ成立セシム可キ暴行アリト推測スルヲ得サルナリ然シテ我國法律ニ於テハ事實ヲ判斷ス可キ證據ノ取押ハ裁判官ヲ抱束セス一ツニ必證ニ一任セリト雖モ法理ノ精細ナル今尙ホ以上ノ說ノ如キ以テ法官カ判斷ヲ爲スノ磁針ト爲ス可キ力アリト思考ス

(三) 婦女ニ對シタルト

強姦ノ客體ハ必ラス婦女ナラサル可ラス客體カ男子ナルキハ猥褻ノ處爲アル

ノミナリトス

強姦罪ノ已遂未遂ハ何ニ依リテ區別ス可キカ
學稅種々アリ

(一) 強姦罪ニ未遂ナシ若シ犯人暴行ヲ爲スモ交媾ヲ爲サルキハ猥褻ノ處爲アルノミ猥褻ノ處爲トハ情慾ヲ遂ケン爲ニ爲シタルト否トヲ區別セス唯淫事ニ關シタル一般ノ醜行ヲ云フ此猥褻ノ度一步ヲ進ムキハ直ニ強姦ノ已遂ト爲ルカ故ナリ

(二) 強姦罪モ尙未遂ノ場合アリ抑犯人ノ目的ハ婦女ニ對シ情慾ヲ遂クルニ在リ故ニ暴行ヲ爲スニ始リ情慾ヲ遂クルニ終ル依之犯人未タ情慾ヲ遂ケサルキハ没入ノ處爲アルモ尙已遂トスルヲ得サルナリ

(三) 強姦罪ノ性質タル婦女ノ身體ヲ汚シ節操ヲ破ルニアリテ犯人カ情慾ヲ遂クルト否トハ犯罪成立ノ段階ト爲ス可ラス故ニ強姦ヲ爲サントシテ暴行脅迫ヲ爲スニ始リ没入ヲ以テ已遂ナリトス若シ未タ没入アラサルキハ茲ニ始メテ未遂ナリトス

以上ノ諸說中余ハ第三說ヲ左擔ス

第一說ハ猥褻ト強姦トノ罪質ノ區別ヲ誤リタル爲メ此誤謬ヲ來シタルモノナリ別ニ論難ヲ要セス

第二說ハ犯罪ノ成立ヲ一ツニ犯人ノ目的ニノミ着目シ本罪處罰ノ目的ヲ研究セ

サルカ爲ニ來シタル誤謬ニシテ論者ト雖モ本罪ノ處罰ノ目的ヲ研究スレハ思ヒ半ニ過キン
 然ルルハ強姦罪ノ性質ハ何レニアルカ暴行脅迫ヲ以テ婦女ノ貞操ヲ破リタルノ處爲ヲ罰スルノ罪ナリトス
 強姦罪ノ性質已ニ明了ナルルハ余カ第三説ヲ左擔スルノ理由亦明了ナル可シ何トナレハ強姦罪ヲシテ婦女ノ節操ヲ破リタルニ在リトスレハ犯人没入ノ處爲タルヤ已ニ節操ヲ破リタリ犯人ノ情慾ヲ遂クルト否トヲ問ハサルナリ是余カ第三説ヲ左擔スル所以ナリ

第一百七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

前條ノ暴行脅迫ヲ以テ犯罪成立ノ要素ト爲シタル本條ハ其手段ニシテ暴行脅迫ナラサル場合即藥酒等ヲ用キ婦女ヲ昏睡又精神錯亂セシメ淫事ヲ行ヒタルトキ若クハ犯人ニ於テ此處爲ヲ施サス婦女自ラ飲酒シテ熟睡シ若クハ疾病ノ爲メ婦女カ知覺ヲ喪失シタルニ乘シテ行ヒタル場合ノ如キヲ以テ罪ト爲スナリ即婦女ニ於テ抗拒不能ニ乘シ姦淫シタルトキ本條ノ主眼トスル例ナリ

第一百七十九條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

前二條ノ罪ハ未遂ノ場合ニモ處分ス可キヲ定メタリ

第一百八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

猥褻又姦淫ノ罪ハ被害者ノ訴ヲ待テ處斷スルヲ定ム
 舊法ニ於テハ告訴權アルモノハ被害者又其親屬トアリシモ新法ハ此明文ヲ省キタリ是法理上被害者ニ非サルモノカ告訴ヲ爲ス可キ道理非サルカ故ナリ
 本條ハ親告罪ノ一ニシテ被害者ノ告訴アルニ非サレハ其罪ヲ論セスト規定シタリ凡猥褻姦淫罪ノ如キハ被害者ノ名譽節操ヲ害スルカ故ニ處罰ス可キモノナリ然ルニ猥褻ノ之ヲ訴追スルルハ被害者ヲ保護セントシテ却リテ反對ノ結果ヲ生ス換言スレハ暗所ノ恥ヲ明所ニ露シ恥辱ノ上塗ヲ爲スカ如キ場合ナシト謂フ可ラス故ニ名譽ヲ重スルモノハ事ノ可及的社會ニ告白サレサランヲ望ムナル可シ是レ法律ガ公訴權ノ發動ヲ被害者ノ任意ニ係ラシメタル所以ナリ

第一百八十一條 第一百七十六條乃至第一百七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

強姦罪ヲ犯シ之レカ爲ニ人ヲ死傷ニ致シタルモノ、刑ヲ定ム
 單純ナル強姦ハ被害者ノ親告ヲ待ツテ論ス可キモノト規定シ其理由ハ已ニ之ヲ述タリ然ルニ本條ニ於テ強姦ヲ原因トシテ被害者ヲ死傷ニ致シタルルハ親告ヲ待タス處斷スルモノト爲シタリ抑強姦罪タルヤ被害者ハ之ヲ社會ニ對シ可及的

秘密ニ爲サンコヲ希望スルカ故ニ親告罪ト爲シタリ然ルニ強姦ノ爲ニ微少ナル創傷ヲ爲シタルカ爲メ告訴ヲ待タス直チニ此犯罪ヲ處斷スルハ強姦罪ニ親告ヲ要スト立法者カ規定シタル處ノ注意ハ殆ント所ヲ失フニ至ラサル哉ノ疑アリ茲ニ記シテ後説ヲ待ツ

第百八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

釋義 利得ヲ爲スノ目的ヲ以テ常ニ淫行ノ慣習ナキ婦女ヲ勸メ誘ヒ姦淫ヲ爲サシメタルモノ、刑ヲ定ム

舊法ニ於テハ被害者十六歳未滿タルヲ要セシモ新法ハ獨逸法ニ則リ被勸誘者ノ年齢ニ依リ區別スルコトヲ廢シタリ然シテ如何ナル場合ト雖モ婦女ヲ勸誘媒介シテ姦淫セシメタル如キハ常ニ風俗壞亂ノ點ニ於テ區別スヘキ理由ナキモ其婦女ニシテ淫行ノ常習ノ有無ハ以テ婦女ヲ害スルノ點ニ於テ均一ニ論斷シ之ヲ一般ニ處罰スルハ忍フ能ハサルヲ以テ新法ハ唯營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ニ付テ勸誘媒介シタルモノ、ミヲ罰スルコト爲シタリ

本條ノ罪ヲ構成スル原素ハ(一)勸誘者ハ營利ノ目的ヲ以テ爲ス(二)婦女ハ淫行ノ常習ナキモノナルコト(三)姦淫シタルコトヲ要ス

(一) 勸誘者ハ營利ノ目的ヲ以テ爲シタルコト

勸誘者營利ノ目的ヲ以テセスシテ下婢カ主人ノ令嬢ニ他ノ男ヲ媒合シタルノミナルカ如キ之ヲ罪ト爲サス若シ是等ヲモ罰スルトセハ第二百二十八條及第二百二十九條等ノ罪ヲ親告罪ト規定シタル處ノ立法者ノ注意ヲ沒滅スルニ至ルヘシ故ニ本條主眼トスル處ハ勸誘者ニ於テ已レノ利益ヲ得ルヲ目的トシ他人ヲ勸誘スルハ幾十人ノ被害ヲ生スルモ計リ難ク實ニ社會ヲ害スル大ナルカ故ニ之ヲ罰スルコト爲シタリ是本條ニハ利益ヲ得ルヲ目的トスルノ點ヲ必要ナリトスル所ナリ

勸誘者トハ淫行ヲ爲サシメントコトヲ決意セシメタル總テノ行爲ヲ云フ法文單ニ勸誘トノミアリテ其手段方法ヲ明記セサルカ故ニ言語文書舉動何レニ依ルモ總テ淫行ヲ爲サント決意セシメタル行爲ニシテ其行爲タル單ニ房屋ヲ給シ待合茶屋ニ導ク等總テ誘導ノ行爲アルヲ云フ故ニ男女二人ノ依頼ニ應シ房屋ヲ給與スル如キハ勸誘ニ非サレハ罪トナラサルナリ

(二) 婦女ハ淫行ノ常習ナキモノナルコト

常習ナキ婦女ヲ勸誘姦淫ヲ爲サシムルハ婦女ノ將來ヲ誤ラシムルカ故ニ之ヲ罰スルモノナリ故ニ若シ其婦女ニシテ淫賣婦ノ如キモノナルハ已ニ節操ヲ破リタル所ノ背德者タルヲ免レサルモノナレハ之ヲ勸誘スルモ罪トシテ問フ所ニ非サルナリ

(三) 姦淫シタルヲ

媒合者ニ於テ勸誘シタルモノモ婦女ニ姦淫ノ行爲ナキ時ハ罪トナラサルナリ
第八十三條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ
處ス其相姦シタル者亦同シ
前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シ
タルトキハ告訴ノ效ナシ

夫アル處ノ婦カ他ノ男子ト姦通シタル時ニ罰ス可キ刑ヲ定ム其相姦シタル
男モ姦婦ト均シク罰スルヲ定ム

前項ノ罪ハ本夫ノ訴ヲ待ツテ訴追ス可キモノトシタリ但本夫カ前ニ婦ノ姦通ヲ
縱容シタルトキハ是ヲ告訴スルノ權ナシトス

有夫ノ婦カ他ノ男子ト交媾スルハ其貞操ヲ破ルノミナラス他ノ血統ヲ混淆シ一
家ノ秩序ヲ亂ルノ患ヒアリ故ニ法律ハ本條ノ刑ヲ設ケタリ

依之本條ノ犯罪ノ要素ハ(一)犯罪ノ主體ハ有夫ノ婦タルヲ(二)姦通アルヲ(三)
意思アルヲ(四)本夫ノ告訴アルヲナリ

(一) 犯罪ノ主體ハ有夫ノ婦タルヲ

姦通罪ノ主體タル可キハ有夫ノ婦タルヲ要ス故ニ結婚カ方式ニ從ヒテ行ハ
レタル婦ニ非サレハ素ヨリ本犯ヲ構成セサルナリ或地方ニ行ハル、内縁ノ婦

詳言スレハ近隣認メテ夫婦ト爲スノミニテ戸籍上夫婦タラサル者ハ本罪ノ主
體ト爲ラサルナリ

(二) 姦通アルヲ

姦通トハ不正ノ交媾ヲ云故ニ對手者ハ本夫以外ノ男タルヲ要ス然シテ男タル
以上ハ其年齡知識等ノ比較ヨリ單ニ女子ノミニ情慾ヲ充ス場合ト雖モ尙本罪
アリトス

(三) 意思アルヲ

姦通モ亦犯者ニ意思アルヲ要ス故ニ婦カ熟眠中姦セララル、カ暗夜本夫ト信シ
テ他ノ男ト姦淫スル如キハ本罪ヲ構成セサルナリ此場合ニ於テハ男亦姦通罪
ナシトス是姦通ハ婦ニ姦通アルトキノミ成立スルカ故ナリ然ラハ無罪タルカ
否此場合ニハ所謂強姦罪成立スルモノト想像ス可シ

(四) 本夫ノ告訴アルヲ

告訴ヲ待テ其罪ヲ論スルハ第二百三十一條ニ於テ詳述セシ所ト同一ノ精神ニ
依ルモノニシテ法律ハ本條ニ於テモ被害者タル本夫ノ利益ヲ保護センカ爲ニ
公訴權ノ發動ヲ本夫ノ判斷ニ委スルヲ爲シタリ

法律ハ本條ニ於テ本夫ノ告訴ヲ待ツテ公訴權發動スルヲ爲シタル所以ハ所
謂夫ノ名譽ヲ維持シ併テ家族間ノ關係ヲ害セサラノヲ欲シテナリ然ルモ
自然ノ結果トシテ若シ本夫先ニ姦通ヲ縱容シ自ラ名譽ヲ傷ケタル行爲アルモ

ハ茲ニ被害者タルノ理由ナキカ故ニ其犯罪ハ成立セサルモノト爲シタリ
 告訴ノ權能ハ本夫ニ屬ス故ニ本夫自ラニ非ザレハ告訴ヲ爲シ又ハ之ヲ取下ク
 ルト能ハス故ニ姦通後離婚ノ事實アルハ告訴權ヲ失フニ至ルヘシ何トナレ
 ハ夫ニ告訴權アルハ夫タルカ故ナリ然ルニ離婚後ニ於テ夫々告訴權アリトス
 レハ復讐權ヲ本夫ニ與ヘタルカ如キ感念ヲ生スルニ至ルヘシ
 告訴ハ裁判確定ニ至ル迄維持サル、ヲ要ス故ニ確定前ニ於テ本夫告訴ヲ取下
 クルハ公訴權消滅シ隨テ裁判モ取消サル、ニ至ル可シ
 本條ノ親告罪ハ夫カ婦ニ對シテ有スル權能ナルカ故ニ告訴ノ取下ハ延テ相姦
 者ニ及フト雖凡之ニ反シ相姦者ニ對スル取下ル本條ノ告訴ニ對シ何等ノ効果
 モ及ハサルナリ裁判確定前夫又婦カ死去シタルハ如何夫死去スルモ己ニ訴
 ヲ爲シタル後ナルハ其訴カ消滅セス或人論シテ曰夫カ死去スルハ告訴ヲ
 消滅ス何トナレハ夫カ生存スルハ或ハ告訴ヲ取下ル哉モ知ル可ラスト余ハ
 之ニ同意スル能ハス何トナレハ權利ノ拋棄ハ明ニ爲サル、ヲ要ス夫死去スル
 モ明ナル拋棄ナキ上ハ告訴ハ維持サル、ヲ相當トス若シ婦ノ死去スルハ婦
 ニ對スルノミナラス姦夫ニ對スル公訴モ消滅スト論スルモノアリ其理由ヲ聞
 クニ婦死去スルハ姦通ノ證據ヲ擧クル能ハサルカ故ナリト然シテ余ハ是ニ
 同意スル能ハス何トナレハ婦ノ死去ノ爲ニ證據ノ擧否ハ審理上ノ事ナリ判官
 ノ心證上ノ事ナリ公訴權ノ滅否ニ關係スルトニ非サルナリ婦死去ノ爲ニ證據

ノ擧ラサルハ證據ノ不十分ヲ以テ無罪ト爲ス可キノミヲ以テ公訴權消滅ス
 ルノ理アラサルナリ
 本條相姦者モ亦同シノ明文アリ是何ノ謂ナルカ相姦者トハ姦夫ノ事ナル可シ
 姦夫ハ姦婦ト共ニ罪ヲ犯シタルニ非サルカ共ニ犯シタルハ總則ノ所謂共犯
 タリ正犯タリ從犯ニ非サルナリ之ヲ共ニ共犯トセハ別ニ明文ヲ要セサルナリ
 然ルニ茲ニ規定アルモノハ姦罪ハ所謂節操ヲ破ルノ罪ニシテ姦夫ヲ以テ其共
 犯人ト認メス共犯トハ其犯罪ニ加與シタルモノニシテ之ニ相對スルモノニ非
 サルカ故ナリ盜罪ノ被盜者賣淫ノ買淫者ノ如ク何レモ相對シタルモノハ共犯
 ト謂フヲ得サルモノナリ故ニ立法者ニ於テ此明文ヲ設ケサルハ姦夫ヲ罰ス
 ルヲ得サルナリ何トナレハ姦夫ハ被盜者買淫者ノ如ク犯罪者ト相對スルモノ
 ナレハ法理上罪トスルヲ得サルカ故ナリ

**第百八十四條 配遇者アル者重テ婚姻ヲ爲シタルトキハ一
 年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ**

釋義 配偶者アルモノ再ヒ婚姻ヲ爲シタル時ノ刑ヲ定ム
 本條ノ罪ハ有夫姦ノ罪ト殆ント相類似タル故ニ古昔之ヲ姦通罪ト混同シ處罰セ
 シモ近來法理ノ進歩ト共ニ之ヲ姦通罪ヨリ分離シ一個ノ犯罪ト爲シタリ抑本罪
 ハ一夫ノ一婦ノ制ヲ破リ前婚未タ解除サレサルニ當リ再ヒ法律ノ規定シタル方

法ニ依リ他ノ男子又女子ト婚姻ヲ爲シタルノ罪ナリ故ニ姦通罪ト全ク異リ男子女子ト雖モ共ニ本條ノ主體ト爲ルヲ得ルナリ

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第百八十五條

偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

偶然ノ事ニ依リテ其輸贏ヲ決シ財物ヲ以テ博戲又賭事ヲ爲シタルモノ、刑ヲ定ム但一時ノ快樂ヲ爲ニ爲ス所ノ物品ヲ賭シタルモノハ本條ノ例外ナリトス

舊法ニ於テハ技藝ノ優劣若クハ巧拙ニ依リテ勝敗ヲ決スル處ノ相撲圍碁將碁競馬「ホートレース」ノ如キモノト全ク偶然ノ事ニ依リ其輸贏ヲ決スル所ノ骨子骨牌ヲ以テスルトヲ論セス苟モ財物ヲ賭シテ勝敗ヲ決スルモノハ畢ク罰スルノ法タリシモ彼相撲圍碁將碁等ハ原其技ノ巧拙ニ依リ豫メ決定スルモノニシテ時ニ或意外ノ結果タルモ是以テ平當ノ事ニ非ス彼骨子骨牌ヲ用ヒ勝負ヲ争フニ至リテハ全ク偶然ノ事ノミ彼是同一ニ論ス可キモノニ非ス然シテ泰西諸國多クハ偶然ノ事ニ依リ勝敗ヲ決スル場合ノミヲ罰シ他ハ之ヲ罰セサルノミナラス佛國ノ

如キハ偶然ノ事ニ依リ勝敗ヲ決スルモ凡テ之ヲ罰セス唯是等ノ者ノ爲ニ房屋料ヲ受ケテ利益ヲ圖ルモノ所謂賭場ヲ開張シタルモノ、ミヲ罰スル事ト爲セリ依之新法ニハ全ク偶然ノ事ニ依リ輸贏ヲ決シ博戲ヲ爲シ及賭事ヲ爲シタル者ノミヲ罰スルヲト爲シタリ

又舊法ニハ賭博罪ハ現行犯ノ場合ニ非サレハ處罰セザリシモ法律ハ賭博ヲ以テ風俗ヲ害シ惡事慣習ヲ養成スル處爲トシ是ヲ處罰スヘキモノト規定シタル上ハ其發覺ノ場合ノ如何ニ依リ罪ノ有無ヲ決ス可キ理由アラサルヲ以テ新法ハ此區別ヲ廢シ現行非現行共ニ之ヲ罰スル事ト爲シタリ

本條ニ於テ賭博ヲ罰スル所以ハ蓋シ勝負事ハ利慾ト娛樂トノ爲ニ人情ノ至リテ嗜好スルモノナレハ一度之ヲ試ムル哉勝ツモ止メス負クルモ止メス一勝一敗時ト財トヲ吝マス遂ニハ家ヲ破リ産ヲ傾ケ正業ヲ忘レ其身ノ方向ヲ失シ其結果他人ヲ害シ犯罪ノ種子ヲ爲スニ至リ彼竊盜鬪争等ノ多クハ是等ノ行爲ヨリ原因スルモノナリ故ニ法律ハ未タ習慣ノ進マサルニ際シ未然ニ防カシメ直ニ之ヲ罰シ以テ社會ノ安全ヲ保タントス但勝負事ヲ爲スモ全ク一時ノ娛樂ニ供スヘキ物品ヲ賭スルモノ所謂酒席ニ於テ一杯ノ酒ヲ以テ敗者ニ飲マシムル如キハ本條處罰ノ目的ニ非サルヲ以テ之ヲ問ハサルナリ

博戲賭事ノ勝負事ハ必ス二人以上相集合スルニ非サレハ之ヲ犯スヲ得サルナリ其二人以上相集リ勝負事ヲ爲スモ互ニ財物ヲ賭スルニ非サレハ賭事ト謂フヲ

得ス例ハ明日雨降レハ何々ヲ與ヘント云フ事ヲ人ト約スルカ單ニ降雨ニ依リテ一方カ利スルノミナルヲ以テ賭博ト云フヲ得ス賭博トハ双方互ニ利益ヲ僥倖スルヲ望ム場合ヲ限ルモノナリ

第百八十六條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

賭博場ヲ開帳シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

博戲賭事等ヲ平常ノ業トスルモノ、刑ヲ定ム

博戲場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利益ヲ圖リタルモノ、刑ヲ定ム

本條ノ罪ヲ犯シタル者ニ對シテハ再犯ノ例ヲ適用シテ處斷スルヲ規定ス

本條ノ犯罪ハ前條ニ比シテ較其行爲ニ習慣ヲ生シ是等ノ處爲ヲ常業ト爲スモノ

處分方ヲ定メタリ故ニ前條ハ罰金ニ止メシモ本條ハ體刑ヲ附シタリ

博戲場ノ開張博徒ノ結合等ハ此行爲ヲ社會ニ擴張スルノ媒介ト爲リ徒ニ良民カ

之ニ感染スルノ發働力ヲ引起スモノナリ故ニ是等ノ行爲ヲ以テ利ヲ圖ルモノハ

嚴ニ取締ルノ必要アリ故ニ是等ノ處爲ニ對シテ前項ヨリ其刑ヲ重クシタリ

第百八十七條 富籤ヲ發賣シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三

千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

政府ノ許可ヲ得スシテ富籤ヲ發賣シ又富籤發賣ノ取次ヲ爲シタルモノ、刑ヲ定ム

本條ノ罪モ再犯ノ例ヲ適用スヘキヲ定ム

舊法ニ於テハ富籤ハ絶體ニ禁制シタルモ其目的カ殖産興業若クハ貧院救育院等

設立ノ如キ有益ノ事業ノ爲ニハ強テ禁制スルノ必要ナキヲ以テ新法ニハ場合ニ

依リ政府ニ於テ之ヲ免許ス可キ事アルヲ想像シ政府ノ免許ヲ得スシテ此業ヲ爲

シタルモノ、ミヲ罰スル事ト爲シタリ

富籤ハ賭博ト差違アリ富籤ハ籤ヲ以テ當リヲ定ムルモ賭博ハ籤ニ限ラス如何ナ

ルノ方法ヲ以テモ行フヲ得又賭博ハ二人以上集レハ之ヲ行フヲ得ルモ富籤ハ多

數集合セサレハ行フ能ハス組織ニ付テ差違アリ射伴ノ方法ニ於テ差違アリ故ニ

富籤ハ其害ノ及フ處賭博ヨリ廣シ隨テ重ク處罰スルノ必要アリ故ニ新法ハ賭博

ニ比シテ富籤ノ刑ヲ重クシタリ

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第百八十八條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行為アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

神祠佛堂墓所其他禮拜堂ニ對シ公然ト不敬ノ處爲アルモノ、刑ヲ定ム

佛ノ說教又禮拜ヲ妨害シタルモノ、刑ヲ定ム
本條ハ神佛其他人ノ尊敬歸依スル處ノモノニ對スル不敬罪ト信教ノ自由ヲ妨害スルトノ罪ナリ然シテ法文ニ神祠佛堂墓所禮拜所トアリテ恰モ其建造物ヲ指シタルカ如クナルモ熟ラ考フルニ全ク建造物ヲ指シタルニ非スシテ是ニ安置スル處ノ神體佛體ニ對シ其尊嚴功德ヲ汚瀆スル處ノ不敬罪タルニ過キサル可シ抑神體佛體ハ人ノ尊敬信仰スル處ノモノナリ然ルニ是ニ對シ不敬ナレハ取りモ直サス人ノ信仰ヲ害シ社會ノ美風ヲ亂ルカ故ニ法律ハ是等ノ徒ヲ處罰スルト

爲シタル所以ナリ然シテ其不敬タル必ス公然ナルヲ要ス若シ公然ナラスシテ隱密ナルモ本條ノ問フ所ニ非サルナリ

本條已ニ神體佛體ニ對スル罪ナリト解スル上ハ其神體佛體ハ強テ建造物内ニ安置セラル、ヲ要セス苟モ人ノ尊敬ス可キ神佛ナルモ路傍ニ安置スル濡佛ニ對スルモ尚本條處爲アルモハ犯罪ヲ構成ス可キモノナリト信ス然レモ明文ニ神祠佛堂云々アルカ故ニ尙モ公然認メラレタル處ノ禮拜所タルヲ要ス單ニ一人カ自己ノ迷信ヨリ私ニ注連繩ヲ施シタル樹木ノ如キハ基ヨリ本罪ヲ構成セサルナリ

本案單ニ說教又禮拜ヲ妨害スルトアリテ其手段ヲ限ラス然レモ言語又動作ニ依リ現在其場所ニ於テ妨害ノ處爲アルヲ要ス彼ノ說教中騷擾シテ聽聞ヲ妨クルカ如キヲ言フナル可シ故ニ現在ニ非スシテ刑行ノ文書等ヲ以テ擴ク辯難攻撃スルハ本條ノ問フ所ニ非サルナリ

第百八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ私ニ人ノ墳墓ヲ發掘シタル者ノ刑ヲ定ム
人ノ墳墓ハ死屍ヲ葬リタル處ニシテ其人ノ屍ニ對シ尊崇スル處タルニ之ヲ發掘スルハ其人ヲ侮辱スルモノナレハ之ヲ處罰スル所以ナリ但改葬其ノ他公益上必要ノ事アリテ政府ノ特許ヲ以テ發掘スレハ本條ノ問フ所ニ非サルナリ

第九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタル者三年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ人ノ死體遺骨又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ毀テ或棄テ又ハ領得シタル者ノ刑ヲ定ム

人ノ死體ハ靈魂ノ寓スル所ナルヲ以テ之ヲ葬ムルニ禮ヲ以テスルハ人道ノ常ナリ然ルニ之ヲ葬ラス毀損遺棄若クハ領得スルハ死者ヲ侮辱シ併テ人ノ道義ニ悖リ宗教上ノ感情ヲ害スルヲ以テ法律ハ之ヲ處罰スル事ト爲シタリ

本條毀棄ハ要意アリテ爲シタルヲ要ス故ニ醫師カ官許ヲ得テ病理研究ノ爲メ死體ヲ解剖スル如キハ本條ノ問フ所ニ非サルナリ

又本條死屍ヲ云々アルヲ以テ死者ハ必ス死屍ト知リテ犯シタルヲ要ス故ニ生人ト思料シ之ヲ切リタルニ意外ニモ已ニ死シタルモノナルキハ本條ノ問フ所ニ非ルナリ

殺人罪ヲ犯シタルモノ其罪跡ヲ蔽ハン爲メ之ヲ遺棄シタルキハ如何本條ノ處罰ハ生者ニ對スル行爲ヲ罰スルノ規定ヲ延長シタルモノナレハ竊盜犯カ竊取シタル物件ヲ毀棄シタルト均シク死體毀棄ノ處爲ハ殺人カ其生者ニ對スル殺害ノ處爲中ニ包含セラレ敢テ再ヒ本條ノ問フ所トナラサル可シト信ス

第九十一條 第九十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ

棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ第九十九條即墳墓發掘ノ罪ヲ犯シ之カ爲ニ本條記載スル處ノ罪ヲ犯シタルモノ、刑ヲ定メタルモノニシテ單ニ第九十九條ノ處爲タルヨリ其情狀重キモノナレハ其刑ヲ重クシタルナリ

第九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

變死ノ死體ハ相當官吏ノ檢視ヲ受ケテ後葬ル可キナリ然ルニ其手續ヲ經スシテ葬ルハ公益ヲ害スルモノナリ故ニ之ヲ處罰ス

第二十五章 瀆職ノ罪

舊法ニ於テハ其第九章ニ於テ官吏タルノ資格ニ依ル犯罪ヲ規定シ即官吏公益ヲ害スル罪官吏人民ニ對スル罪官吏財産ニ對スル罪ノ三節アリシモ新法ハ公益ヲ害スル罪財産ニ對スル罪ヲ削除シタリ是現今ノ制度ニ於テハ法律規則ハ官報ニ掲載スルヲ公公式ト爲スカ故ニ法律規則施行ヲ妨害スル等ノ如キ一般官吏ノ犯ス能ハサルト爲リ或官報局ノ官吏ハ之ヲ犯スヲ得ルトスルモ是等ハ懲

戒處分ノ法アルヨリ一般法律ヲ以テ處分スルノ必要ナキニ至リシナリ又官吏地方騷擾ノ時ニ當リ之ヲ鎮撫スヘキノ職ニアルモノ故意ニ之ヲ爲サル等ハ或暴動ノ共犯人タルヲアリ若シ故意ニ非スシテ職務ノ怠リニ出ツルトキハ其責任ニ付テハ懲戒ノ處分ニ依ルヘキモノニシテ一般ノ刑法ノ歸責ニ依リ處分スルコト能ハサルモノナリ又官吏タルモノ規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタルカ如キモ之ヲ遵守セサルモ懲戒處分ノ法アリ故ニ新法ニハ一般ノ刑法ニ依リ此行爲ヲ罰スルヲ廢シタリ

舊法ノ監守盜ノ如キ新法ニハ元來普通ノ竊盜ニ於ケル刑ノ範圍ヲ擴張シタルヲ以テ裁判官ニ於テ官吏ニ此行爲アルモ尙其犯罪當時ニ於ケル情狀ニ依リ相當ノ權衡ヲ量リ處分セシムルハ罪刑ノ權衡ヲ失スル恐レナキヲ以テ新法ハ此明文ヲ廢シタリ舊法ニハ豫審判事檢察官等身體財產ニ對スル犯人アルニ當リ速ニ保護ノ處分ヲ爲サルノ罪アリシモ豫審判事檢察官ハ司法警察官吏ニシテ直接ニ人民保護ノ職權ニ非ス又警察官ハ人民保護ノ職ニアルモ是唯其職務曠廢ノ責アルノミ是ヲ以テ一般ノ刑法ノ處分ニ委任スルハ相當ナラサルヲ以テ新法ハ總テ之ヲ廢シタリ

舊法ニハ裁判官檢察官故ナク訴ヲ受理セス又遷延シテ審理セサルノ罪アリシモ現今ニ於テハ裁判官懲戒法ノ設ケアリ故ナク訴ヲ受理セス又遷延シテ審理セサル等過誤ト然ラサルト問ハス總テ之ニ依リ裁判スルノ法アリ檢察官ハ公訴提

起實行者ニシテ訴ヲ受理セス又審理セサルノ事實アルヲナシ故ニ新法ハ總テ之ヲ廢シタリ

第九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第九十四條 公務員タルモノ自分ノ職務權限ヲ濫リニ用キテ人民ニ爲ス可キ義務ナキコトヲ行ハシメ又行フ可キ權利ノ妨害ヲ爲シタルモノ、罪ヲ定ム
本條ハ公務員カ自分ノ役目ヲ利用シ人民ノ權利ヲ蹂躪スルノ行爲ヲ罰スルモノニテ之ヲ例フレハ地方長官カ自己ノ出入ノ際ニ於テ強テ人民ヲシテ送迎セシメ自己ノ手荷物ヲ負荷セシムルカ如キ人民ニ爲ス可キ義務ナキヲ行ハシメ又警察官カ漫リニ事ニ托シテ往來通行ヲ禁スルカ如キ人ノ通行權ヲ妨害シタルカ如キ不法ノ行爲ヲ云フナリ

第九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
第九十五條 裁判官檢察官警察官又是等ノ職務ヲ行ヒ若クハ補助スル處ノ役人カ自分

職務權限ヲ濫用シテ一般ノ人ヲ逮捕監禁ヲ爲シタル時ノ刑ヲ定ム
帝國憲法上ノ保障ニ依リ人ハ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ漫リニ逮捕監禁セラ
ル、ナシ是人權ヲ重シスルカ故ナリ

不法ニ人ヲ監禁スル行爲ハ官吏ノ處爲ニ係ルト一私人ニ係ル行爲トノ別アリテ
本條ニ規定スルハ官吏カ職權ヲ濫用シテ爲シタル行爲ニ付テ規定シタル犯罪ナ
リ其構成ノ要素ハ(一)犯罪ノ主體ハ裁判官檢察官警察官又ハ此等ノ職務ヲ行ヒ
若クハ補助スルモノタルヲ(二)規則ヲ遵守セサルヲ(三)逮捕監禁シタルヲ
(一) 犯罪ノ主體ノ裁判官檢察官警察官又ハ是等ノ職務ヲ行ヒ若クハ補助スル
モノタルヲ

本條ハ此等ノ身分アルモノカ職權ヲ濫用シテ犯シタルヲ要ス故ニ主體タル
ヘキ是等ノ官吏タラサル可ラス是等ノ職務ヲ行ヒ若クハ補助スルモノトハ刑
事訴訟法ニ其身分明記シタリ讀者參考アリテ可ナリ

(二) 規則ヲ遵守セサルヲ
法律上人ヲ逮捕監禁スルヲ許シタル場合ハ刑事訴訟法ニ明記アリテ拘引狀若
クハ拘留狀ヲ執行シ得ヘキ場合ノ規定アリ今此規則ニ依ラスシテ私擅ニ拘引
拘留爲シタルヲ要スルナリ

(三) 逮捕監禁ノ事實アルヲ
本條ハ逮捕監禁ノ結果ニ付テ處罰スルモノナレハ此事實アルヲ最必要ナリト

ス

第九十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助ス
ル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又
ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ
處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁
者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

裁判官檢察官警察官又此等ノ職務ヲ行ヒ若クハ是等ノ職務ヲ補助スルモ
ノ又囚人監守人懲治人ノ看守若クハ護送ノ職ニ在ルモノカ刑事被告人囚人監守
人又懲治人ニ對シテ暴行又陵虐ノ處爲ヲ爲シタル場合ノ刑ヲ定ム
本條ハ如何ナル處爲カ暴行又陵虐ノ處爲タルカハ法律ニ豫メ規定セサルモ苟モ外
形ノ處爲ヲ以テ苛酷忍ヒ耐ヘ難キ行ヲ爲スヲ云フナル可シ例ハ往時ノ斷獄ニ行
ハレシ如キ刑事被告人ヲ取調フルニ際シ強テ陳述セシムル爲メ毆打拷責シ寒中
衣服ヲ屏去シ若クハ脊ニ水ヲ灌キ婦人ニ對シテハ習慣上忍フ可カラサル行爲ヲ
爲ス如キ所謂拷訊ノ所爲ハ勿論護送ノ途中漫リニ疾走セシメ總テ人情忍フ可ラ
サル行爲ハ悉ク陵虐中ニ包含セラル、モノナリト信ス

第九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

前條則チ暴行凌虐ノ處爲アリシカ爲メ人ヲ死傷ニ致シタル場合ノ刑ヲ定ム此場合ニハ傷害罪ニ比較シ重キ方ニ依リ處斷スヘキヲ規定ス
傷害罪ト比較シ重キ方ニ依リ處罰スヘキハ單ニ通例ノ場合ノ規定ニシテ若シ是等ノ役人カ己レ職權ヲ利用シ始メヨリ是等ノ人ヲ殺サントノ惡意ヲ以テ此處爲アリシカ爲ニ死傷セシメタルハ基ヨリ殺人罪ノ本條ニ依リ處罰ス可キハ當然ナリトス

第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ

又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス

公務員タルモノ又仲裁人等己レノ職務ニ關スル事ニ付テ賄賂其他財産上ノ利益ヲ得又之ヲ要求シ或之ヲ得ルコトヲ約束シタルモノ、刑ヲ定ム

前項ノ所爲タル爲メ職務上ニ付キ不正ノ行爲ヲ爲シ又相當ノ爲ス可キ行爲ヲ施サ、ル者ノ刑ヲ定ム

前項ノ爲ニ已ニ收受シタル賄賂ハ之ヲ官へ沒收ス若シ之ヲ沒收スルコト出來サルトキハ之ヲ政府ハ追徵スルナリ

舊法ニ於テハ收賄者ノ資格ニ依リ刑ヲ區別セシモ抑收賄罪ハ至公至正ノ官職ニ在リテ之ヲ收受シ官職ヲ零賣シ不義ノ利ヲ圖ルヲ罰スルモノナレハ之ヲ得タル官吏カ行政官ナルト司法官ナルトノ爲ニ刑ニ輕重ヲ生ス可キ理ナクシテ刑ノ輕重ハ所謂犯情ノ如何ニ依ルモノナリ加之新法ノ主義トシテ刑ノ範圍ヲ擴張シタルヲ以テ是ニ依リ犯情相當ノ刑ヲ科スルハ承審官ノ明斷ニアルヲ以テ新法ハ是等ノ區別ヲ廢シタリ

舊法ニ於テハ收賄罪ノ加重情狀トシテ是等ノ官吏カ職務執行中不正ノ行爲ヲ爲シタル場合ノミ處罰スルノ規定ナリシモ官吏瀆職ノ處爲アルハ敢テ積極ノ行爲ノミニアラズ消極ノ行爲モ亦瀆職タルヲ免レサルヘシ故ニ新法ハ積極消極ノ場合共ニ處罰スル事ト爲シタリ

法律ノ規定ニ依リ成立スル處ノ議會ノ議員又ハ或事件ニ付仲裁ヲ委囑セラレタル處ノ仲裁人ノ如キハ職務ヲ嚴正ニ遵守シ偏頗ノ處置ヲ爲スコトナク正統ニ勤務ス可キ義務アルモノナルニ却リテ其職權ヲ利用シテ不正ノ利ヲ圖リ若クハ不正ノ行爲ヲ爲シ又正統ノ行爲ヲ爲サ、ル等ノ如キハ其職務ヲ瀆シ以テ社會ヲ害ス

ル「官吏カ之ヲ爲スト撰ムコナキヲ以テ敢テ不問ニ附ス可ラス然ルニ舊法ニ此規定ナキハ缺點タルヲ免レサリシカ故ニ新法ニハ之ヲ罰スルノ明文ヲ設ケタリ公務員又ハ仲裁人ニアリテ職務ニ關シ賄賂ヲ收受ス可キコトヲ約シ又ハ之ヲ收受スルハ假令之カ爲ニ枉法ノ事ヲ爲サ、ルモ其官職ヲ利用シ不義ノ利益ヲ量ルニ至リテハ官職ノ神聖ヲ瀆シ社會ヲ害スルモノニシテ其淺劣名狀ス可ラサルナリ例ハ會計官吏物品購買ニ際シ商人ヨリ物品ノ贈與ヲ受クルコトアリトセンカ購買入札執行ノ際其商人ノ入札カ偶廉價ニシテ落札シタル如キ素ヨリ官吏ニ於テ何等枉法ノ事ナキモ尙本條ノ犯罪ヲ成立スルモノト爲ス可シ法律ハ單ニ賄賂トノミアリテ其詳細ヲ明記セサルモ夫ノ金圓又物品ヲ以テスル財產上ノ事ハ勿論或官職ヲ與ヘント約シ或女色ヲ以テスル等苟モ人ノ慾心ヲ充ス可キ事ハ所謂賄賂ノ語中ニ包含ス可キモノナルヘシト信ス

第九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

公務員又ハ仲裁人ニ對シ賄賂其他財産上ノ利益ヲ贈與提供又ハ約束シタルモノ、刑ヲ定ム

舊法ニハ官吏等ニ賄賂ヲ贈リタルモノ等ヲ罰スルノ明文ナカリシモ之ヲ全ク不問ニ附シ去ルハ權衡ヲ失スルノ恐アリ故ニ新法ニハ是等處爲ヲ罰スルノ明文ヲ設ケタルナリ

第二十六章 殺人ノ罪

舊法ニ於テハ毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ豫謀ノ有無ヲ問ハス總テ謀殺罪ト爲シタリ蓋シ毒殺ノ處爲タル其手段方法ニ於テ極惡卑劣ナルノミナラス之ヲ犯スニ易ク防クニ難クシテ之ヲ施スルハ目的以外ノ人ト雖厄誤食スルノ恐アリ且犯跡ヲ殘ス事モ他ノ犯罪ニ比シテ微少ナルカ故ニ社會ノ危險一層甚タシキヲ以テ常ニ其刑ヲ重ク處罰シタリ然ルニ其犯時ノ處爲カ極惡ナルカ爲ニ重刑ヲ科スルハ別ニ論難セサルモ毒殺罪ニ限リ犯情ノ如何ヲ問ハス單ニ毒殺タルノ故ヲ以テ常ニ重刑ニ科スルノミナラス豫謀ナキ處ノ處爲ナルモ豫謀アリシモノトシテ論スルハ法理日進ノ今日ニ於テ設理ノ法タルヲ免レサル可シ然シテ近世裁判醫學ナル處ノ一派ノ科學ハ大ニ其研究ノ功ヲ奏シ此種ノ犯罪ノ形跡ヲ知ル容易ニシテ搜索上敢テ困難ヲ感セサルニ至レリ故ニ新法ニ於テハ此區別ヲ廢シタリ

舊法ニ於テハ人ヲ殺スノ意ニ出テ、詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致シタルモノ

ヲ謀故殺ヲ以テ論セシモ詐稱誘導ノ處爲素ヨリ加害者ノ處爲ナルカ故ニ通常殺人犯ノ處爲ト手段方法ニ於テ敢テ區別スル理由ナキヲ以テ新法ハ此區別ヲ廢シタリ

舊法ニハ誤殺ノ罪ヲ設ケタリシモ犯人ニ於テ已ニ殺意アリテ其行爲ヲ實行シタル上ハ其結果目的トスル人ヲ誤ルモ均シク故殺人犯ヲ構成スルコトハ疑ナキヲ以テ新法ハ此無用ノ法文ヲ廢シタリ

第百九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

有意ニテ人ヲ殺シタルモノ、刑ヲ定ム

殺人罪ハ有意ニテ他人ノ生命ヲ不正ニ奪フ處爲ニ對スル罪ナリ依之本條犯罪構成ノ原素ハ(一)被害者ノ生存スル處ノ人ナルコト(二)不正ニ人ヲ殺スコト(三)人ヲ殺スノ意思アルコトノ三要素ヲ要スルナリ

(一) 被害者ハ生存スル處ノ人ナルコト
本罪ノ物件タルヘキ必要條件ナリ若シ被害者ハ曩ニ死去シタル處ノ人ナルカ胎兒ノ如キ未タ法律上ヨリ解釋シテ人ト爲ス能ハサル處ノモノナルトキハ本罪ハ構成スルコトナキナリ
病已ニ革マリ死ニ瀕シタル者ニ對シテハ本罪成立ス可キ乎如何人ノ生死ハ人

智ヲ以テ豫メ知ル處ノモノニ非ス假令死ニ瀕スルノ人ト雖モ偶然回生セサルコトナシト期ス可ラス或ハ死ニ瀕スル人ハ之ヲ殺スコトアルモ法律ノ問フ所ニ非ストセハ遂ニハ人ヲ殺スモ法律ハ之ヲ罰スルコト能ハスト論スルニ至ラン何トナレハ凡ソ人生死無カラシ生命ニ長短アルモ早晚死ハ免レサル可シ早晚死ス可キモノナレハ之ヲ殺スモ唯死ノ界ニ向テ長短アルノミト言ハサル可ラサルニ至ル豈ニ斯ノ如キ不道理アラシヤ故ニ假令眼前死ニ瀕スルモ尙呼吸ノ存スル間ニ於テ之ヲ殺ストキハ本條ノ問フ所トナルヤ疑ヲ容ル、餘地ナカルヘキナリ

人ノ胎内ヨリ分娩スルモ若シ人體ヲ備ヘサル處ノ怪物ナルキハ之ヲ殺スモ本條ノ問フ處トナラサル乎昔法學ノ未タ進歩セサルトキハ假令人體ヨリ出產スルモ其モノニシテ人體ヲ備ヘサルモノナルキハ之ヲ殺スモ不問ニ附スヘシトノ區別ヲ設ケタリシモ近世科學ノ發達ト共ニ一般學者ノ說ニ於テハ斯ル區別ヲ認メスシテ假リニモ人類ヨリ出產シ生活機能ヲ備ヘタルモノハ常ニ之ヲ人ト爲シ之ヲ殺ストキハ殺人罪アリト爲スニ至レリ

(二) 不正人ヲ殺スト
殺人罪ハ所謂權利ナクシテ人ノ生命ヲ奪フ罪ニシテ不正ナル此行爲カ死亡ノ結果ヲ生スルヲ要ス故ニ人ヲ殺スモ其權利タル場合ニハ罪トナラス例ヘハ正當防衛ニ依リ人ヲ殺シ死刑執行ノ職ニアル官吏カ人ヲ殺シタル如キハ殺人罪

ナシトス然シテ如何ニ殺意アリテ事ヲ爲ス目的トスル人カ死亡ノ結果ヲ生セサルトキハ本條罪ヲ構成セサルナリ

致傷ノ後チ被害者治療ヲ怠リタルカ爲ニ死亡シタルモ如何言フ換ヘテ言ハハ人ニ傷ヲ加ヘタルモハ絶對ニ加害者ニ於テ被害者ノ死亡ニ付テ責任アルカ如何此問題ニ付テハ場合ヲ分ツテ解説セサル可カラス或被害者カ創傷ノ治療ヲ怠リシハ死亡ノ直接ノ近因ニシテ加害者ノ處爲ハ遠因タルカ如キノ感アルモ抑被害者ノ治療ノ如何ハ本罪ノ構成ニ關係スルモノニ非ス加害者カ一旦致命傷ヲ與ヘタル時ハ被害者ノ治療ノ不十分ナルヲ口實トシテ己レノ責任ヲ免ル、能ハサルハ至當ノ道理ナリ然リト雖モ其創傷タルヤ致命傷ニ非サルニ被害者ニ於テ故ヲニ不攝生ヲ成シ所謂醫ノ命ニ反對シ相當ノ手當ヲ施サ、リシ爲ニ招キタル所ノ死亡ハ加害者ノ負擔ス可キ責任ニ歸ス可ラサルナリ此場合ニハ殺人未遂罪タル可キノミナリ故ニ殺人罪アル場合ニ於テハ其傷ハ致命傷ナルカ否ヲ詳細ニ調査スルヲ要ス是加害者ノ責任ニ付テ重大ナル關係ヲ有スレハナリ

(三) 人ヲ殺スノ意思アルコト

本條構成ノ原素ニハ犯者カ人ノ身體ニ危害ヲ加ヘントノ意思ノミニテハ不可ナリ必ス人ノ生命ヲ奪ハントノ意思アルヲ要ス故ニ其處爲カ或死ノ原因ト爲

ル犯者カ之ヲ殺サントノ意ナキ時ハ本條ノ罪ヲ構成セサルナリ例ハ惡戯者アリテ婦女ノ悲ムヲ快樂トシ婦女ニ對シ不實ノ言ヲ捏造シテ汝ノ父若クハ夫ハ何々ノ事ニテ死シタリト告ケシ爲メ婦女ハ之ヲ悲ミ河川ニ投シ死亡シタル如キ其原因ハ全ク惡戯者ノ虛言ニ基クモ其人ヲ殺サントスルノ惡意ニ非スシテ婦人ノ死ハ偶然ノ結果ナルヲ以テ其責任ハ惡戯者ハ負ハサルナリ又醫師アリテ人ノ病ヲ醫セントシテ治療セシニ技ノ拙ナリシ爲メ終ニ人ヲ死ニ致シタルカ如キモ醫師ハ人ヲ殺サントスルノ意思アルニ非スシテ偏ニ病ヲ醫セントスルノミニアレハ假令病者ハ治療ノ誤リノ爲ニ死亡スルモ醫師ハ殺人罪ノ責任ハ負ハサルナリ但過失殺人犯ノ行爲アリト爲スハ格別ナリトス

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又

ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ不正ニ人ヲ殺シタルモノニシテ其犯情ノ最重キモノヲ罰スル刑ヲ定ム

直系ノ尊屬親トハ父母祖父母等ノ如キ親屬ヲ云フ是犯人ト被害者トノ身分上ノ關係ニ依リ刑ヲ加重シタルモノナリ夫レ幸ハ國ノ大本ナリ帝國ノ美德ナリ今之ヲ破ルニ對シテ特ニ刑ヲ重クスルハ故アルナリ其理由ノ如キハ敢テ喋々ヲ要セサル所ナルヘシ

舊法ニ於テハ各其條ヲ別チ殺人犯中ニ於テ種々其情狀ニ依リ刑ヲ區別セシカ新法ハ夫等ノ區別ヲ廢シ情狀ニ依ル點ニ於テハ大ニ承審官ノ眼界ニ任セタリ就中本條ハ一般ニ其情ノ重キノ故ヲ以テ承審官ニ任セス立法者ニ於テ豫メ其刑ヲ重ク罰ス可キモノトシテ之ヲ掲ケタリ

第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

人ヲ殺スノ目的ヲ以テ豫備ヲ爲シタルモノ、處分方ヲ定ム
舊法ニ於テハ豫備陰謀ノ處爲ヲ罰スルハ國事ニ關スル罪ニ限リ他ノ犯罪ニ於テハ之ヲ罰セザリシモノ人ヲ殺害スルカ如キ不俱載天ノ極惡ナル處爲ニ付テハ已ニ豫備ニ着手シ其處爲カ外形ニ顯ハル、并ハ社會ハ此犯人ノ行爲ニ對シ平常特ニ警戒ヲ加フルノ必要アリ故ニ新法ハ殺人罪ノ豫備ヲ爲シタルモノハ處分方ヲ定メタリ

第二百二條 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

人ニ自殺ス可キヲ教唆若クハ幫助シテ之ヲ決行セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ニ依リ之ヲ殺シタルモノ、刑ヲ定ム

總則第六十一條ニ人ヲ教唆シテ罪ヲ犯サシメタルモノ正犯ニ準ストアリテ人ヲ教唆スルモ被教唆者ニ於テ罪ヲ犯サ、ルルハ素ヨリ教唆者ニ於テモ罪トナラサルノミナラス被教唆者若クハ自殺人ノ處爲其モノカ罪トナラサルトキハ教唆者若クハ幫助者モ罪トナラサル事明白ナリ然ルニ本條ニ於ケル教唆者若クハ幫助者ハ總則ニ規定スル處ノ教唆者若クハ從犯者ノ原則ヲ引用スルニ非スシテ所謂自殺教唆若クハ幫助ノ行爲其モノカ一種獨立ノ害惡タルカ故ナリ
本條教唆トハ甲ハ所謂面皮ナキ行爲ニ付誣告ヲ受ケ切齒扼腕ノ餘リ其處分方ヲ親友乙ニ量リシ場合ニ親友乙ノ曰ク寧ろ屠腹シテ身ノ潔白ヲ保ツ可シト教唆シ甲ハ教唆ニ依リ決心シテ自殺シタル如キ素ヨリ友誼上之ヲ教唆シタル場合ヲ云フ

囑託ニ依リシハ人カ自殺スルニ際シ之ヲ仕損シ或苦痛アラントテ恐レ斷頭絶命ノ事ヲ依頼サレ之ヲ殺ス場合ニシテ法學上ノ語ヲ以テ單純ニ解釋スルトキハ合意ノ謀殺タル可キナリ然ルニ生命ハ法律上合意ノ目的ト爲スヲ得サルヲ以テ此場合ニ於ケル合意ノ有無ハ法律ノ運用上區別ス可キ所ノモノニ非ス然ラハ通常ノ謀殺ト同一ニ論ス可キ乎否自殺者ハ自分自ラ之ヲ決行スルニ耐ヘサルヲ以テ他人ニ囑託シテ苦痛ヲ避ント爲シ被囑託者ハ情狀之ヲ見ルニ忍ヒス義勇心ノ爲

ニ手ヲ下シタルモノニシテ毫モ惡意アリテ爲シタルニ非サレハ本法別ニ刑名ヲ設ケ其刑ヲ輕クシタルナリ

相思ノ男女二人同死ヲ發意シ意氣共ニ相投シ互ニ自殺者タリ幫助者タル場合ニ於テ或障礙アリテ其中ノ一人目的ヲ達セス生殘スルモ生殘ノ一人ハ教唆又ハ下手ノ事實アラサルニ於テハ本條ノ問フ所ニ非サルナリ

前例ノ如キ男女ノ關係ナルモ若シ其死ノ方法カ自死即入水ニ依ラス互ニ小刀等ヲ刺シ違ヘタルカ如キ方法ナルモニ於テ其中ノ一人カ生殘リタルモハ生殘者ハ幫助囑託者トナル可シ

又相思ノ男女二人ヨリ男ハ女ヲ教唆者シテ情死ヲ勸メ終ニ承諾セシメ共ニ川ニ投シタルヲ偶人ノ救フ所ト爲リ蘇生シタル場合ニ於テ殆ント前例ト同一ナルカ如クナルモ其女子ノ死ノ決心ハ男子ノ勸誘ニ依リ決心シタルモノニテ前例ノ如ク意氣相投シタル場合ト異ナルヲ以テ此場合ニ於ケル男子ハ所謂教唆シテ自殺セシメタルモノナレハ本條ノ問フ所ト爲ルナリ

第二百三條 第九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七章 傷害ノ罪

舊法ニ於テハ毆打創傷ノ罪アリ此文ヨリ解釋スルトキハ毆打ヲ以テ人身體ニ創傷ヲ加ヘタル所ノ處爲ヲ罰スルノ意タルカ如シ此法文ニ依ルトキハ所謂表見的ノ創傷ヲ罰スルニ止マリ内部ヲ害スル處ノ處爲ヲ罰セサルカ如キノミナラス其方法ニ於テモ範圍極メテ狹隘ニ陥リ所謂表見的ノ創傷ト雖モ之ヲ毆打セス或蹴リ或摩擦シ或其人ヲシテ物ニ觸レシメ依テ人身體ニ創傷セシメタル處爲ノ如キ總テ明文上罰スルト得サル可シトノ不都合ヲ生ス最モ舊法ノ運用上是等ノ處爲モ尙毆打創傷トシテ處罰シタル所ノ裁判例比々アルモ已ニ同第二條ニ法律ニ正條ナキモノハ云々ト記載シテ置キナカラ名ヲ解釋ニ口藉シテ明文以外ノ處爲ヲ罰スルハ穩當ナラサルナキ乎ノ疑アリ故ニ新法ハ總テ是等ノ處爲ヲ包含セシメン爲メ之ヲ傷害シタルモノハ手段方法ノ如何ト身體ノ内外部ヲ問ハス總テ之ヲ罰スル事ト爲シタリ

舊法ニ於テ本罪ニ於ケル刑ノ分割方法ハ一般ノ方法ニ依ラス單ニ創傷ノ結果ノミニ依リ之ヲ定メ(所謂結果犯ノ名アリ)毫モ犯人ノ意思如何ヲ顧サルカ如シ故ニ甚タ輕キ意思ヲ以テ爲シタル所ノ毆打ト雖モ若シ其結果タル處ノ創傷カ大ナルモハ重キ刑ヲ科セラレ之ニ反シ其情狀重キ惡意ヲ以テ爲シタル所ノ毆打ト雖モ若シ其結果タル處ノ創傷カ微少ナルトキハ常ニ輕キ刑ヲ科セラル、ニ至ルノ不權衡ヲ生スルノミナラス其創傷ニ依リ法律カ定メタル處ノ刑ノ分割方法極メ

テ密ナルヲ以テ裁判官カ情狀ニ依リ刑期ヲ定ムル場合ニ於テ運用ノ適當ヲ得ルニ困難ナカラス凡ソ是等ノ犯罪ニ對スル刑ノ分割方法ハ無形ノ犯意ト有形ノ結果ト相俟ツテ定メサレハ用刑ノ妙奧ヲ極ムルヲ得サルナリ故ニ新法ハ一般ノ傷害ノ罪ト爲シ且新法ノ一大主義タル刑ノ範圍ヲ擴張シタル等ニ依リ是等ノ犯罪ニ對シ裁判官ニ於テ刑ヲ分割スルニ於テ所謂犯意ト結果トヲ斟酌スルニ何ノ牽制ナク自由ヲ得セシメタリ

第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

釋義 本條ハ人ノ身體ヲ傷害シタル處爲ニ對スル刑ヲ定ム

- 傷害罪トハ人ノ體驅ノ損害スル處ノ罪ヲ云フ故ニ本罪構成ノ原素ハ(一)被害者ハ現ニ生存スル處ノ人ナルヲ(二)身體ヲ損害スルノ處爲アルヲ(三)損害已ニ生シタルヲ(四)其處爲ノ不法タルヲ(五)損害ヲ與フ可キ意思アルヲ要ス
- (一) 被害者ハ現ニ生存セル人ナルヲ
 犯罪ノ容體タル可キハ生存セル人ナルヲ要スレハ假令人ノ身體ト雖モ已ニ死セル人ニ對シテハ本罪ヲ構成スルヲナカルヘシ故ニ此要素ヲ本罪ノ第一トス
- (二) 身體ヲ損害スル處ノ處爲アルヲ

改正法ハ法文單ニ人ノ身體ヲ傷害シタルモノトノミアリテ其行害ノ手段方法ヲ豫定セス故ニ苟モ人身ニ損害ヲ與フ可キ處ノ行爲アリテ其行爲ト結果ト因聯絡アル可キ證明アルヲ要ス即結果ノ犯人ノ行爲ニ依リテ成立シタルノ處證明アルヲ要ス其證明カ十分ナルハ犯人ノ行爲ノ直接ナルト間接ナルト積極ナルト消極ナルトヲ問ハス身體ニ損害ヲ生スヘキ處爲アルハ本罪ノ構成ニ必要ナル條件トス

(三) 損害ノ已ニ生シタルヲ

傷害罪ニハ所謂傷害ノ結果アルヲ要スルカ故ニ犯人若シ人ヲ行害スルノ目的重大ナルモ未タ容體ニ何ノ感動ナキ時ハ傷害罪ナシトス

(四) 其處爲ノ不法ナルヲ

刑法ノ制裁ヲ與フ可キ處ノ創傷ハ其原因カ必ス不法ニ基カサル可ラス然ラスシテ父母後見人等カ子弟ヲ教誨スル責任ニ依リ監督上子弟ヲ懲戒スル必要アル限度ニ於テ慣習之ヲ鞭撻シ又ハ灸ヲ施シ以テ身體皮膚ニ創傷ヲ負ハシメ其他醫師カ疾病治療ノ方法トシテ身體ノ一部ヲ切斷シ又藥品ヲ用キテ皮膚ヲ腐敗セシムル等治療ノ爲メ必要ナル限度ニ於テ人ノ身體ヲ毀損スルハ慣習上常ニ人ノ是認スル處ニシテ法律モ亦之ヲ以テ傷害罪ナリト爲サ、ルナリ

以上ノ如ク慣習上認メテ以テ一般ニ是認スル處ノ行爲ハ法律ハ之ヲ罰セス故ニ法律カ犯罪アリト爲ス可キハ一般ニ是認セサル處ノ不法ニ原因スル行爲アルハ

ハ之ヲ處罰ス可キナリ

(五) 損害ヲ與フ可キ意思アルヲ

損害ヲ與フ可キ意思トハ詳言スレハ一身ニ損害ヲ與フ可キ性質ノ處爲ヲ爲スノ意思アルヲ以テ足レリトス故ニ其處爲カ苟モ人ヲ傷害スヘキヲ知リテ爲シタルハ本罪ヲ構成ス可シ然ラズシテ犯人處爲アルモ其事實ヲ知ラサルトキハ本罪ヲ構成スルコトナシ例ハ石ヲ林中ニ投シタルニ偶人アリテ其人ニ傷ヲ付クルモ犯人ハ林中ニ人アルヲ知ラサル時ノ如キ或過失タル可キモ本罪ノ罰スル處トナラサルナリ

第二百五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

身體傷害ノ結果ニ依リ人ヲ死ニ致シタルモノ、刑ヲ定ム
前項ノ處爲カ犯人ノ直系ノ尊屬親ニ對シタルトキハ一層重キ刑ヲ科スルコト、爲シタリ

傷害致死ハ人ヲ殺スノ意思ナク犯人ハ單ニ人ヲ傷害スルノ意思ナクシテ其傷ノ重カリシ爲メ偶然ノ結果ニ依リ死ニ致シタルモノニシテ始メヨリ殺スノ意思ア

リシトハ殺人罪ヲ以テ罰セラル可シ
然ルニ傷害ノ度始メヨリ大ナラサルモ被害者ノ身體ノ殊ニ脆弱ナルカ或攝生ノ不十分ナリシ爲メカ或醫師ノ治療ノ不適應ナル爲ニ死シタルハ其責任犯人ニ歸ス可キ乎

此場合ヲ學者ハ三個ノ場合ニ分カテリ

(一) 傷害ノ素ヨリ致死ニ足ルヘキトキ

此場合ニハ醫師治療ノ如何攝生ノ如何ヲ問ハス常ニ致死ノ罪ニ處スルヲ妨ケ

(二) 傷害始ヨリ致死ス可キ度ニ非サルヲ

此場合ニハ被害者ノ脆弱不攝生醫師ノ治療ノ不適應ノ爲ニ死ニ致スモ犯人ハ是レカ責任ヲ負擔ス可キモノニ非ラス何トナレハ被害者ノ死ハ全ク脆弱不攝生若クハ醫師ノ治療ノ不完全ナル爲ニシテ傷害ノ行爲所謂遠因ニシテ近因ニ非サルカ故ナリ

(三) 其傷害ハ致死ノ原因アルカ否不明ナルヲ

此場合ニハ被告ノ利益ニ解釋シ第二ノ場合ニ準シテ解釋ス可シ
自己ノ尊屬親ニ對シテ此傷害ノ罪ヲ犯ス其無道ナル言語ニ絶ス法律カ特ニ重刑ヲ科スル故アルナリ

第二百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタ

ル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

前二條ノ犯罪行為アルトキハ其場所ニ居リ敢テ自分ニ人ヲ傷害セサルモ人ノ犯スニ加勢ヲ爲シタルモノ、刑ヲ定ム

第二百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

二人以上同時ニ人ヲ傷害シ何人カ何レノ傷害ヲ爲シタルカ實際ニ知ルコト能ハサル時ハ二人共ニ謀リテ爲シタルニ非サル場合ト雖モ總則ニ所謂共犯例ニ依リ共ニ同一ノ責任ヲ以テ處罰スルト爲シタリ

舊法ニ於テハ毆打創傷ニ共犯處爲ノ特例ヲ設ケ其傷ノ結果ノ輕重ニ依リ刑ヲ科シタルカ故ニ數人共謀シテ人ヲ毆打スルモ通常ノ共犯ノ如キ責任ヲ各自ニ負擔セシメスシテ現ニ手ヲ下シ傷ヲ爲サシメタル處ノ輕重ヲ審案シ各々與ヘタル處ノ創傷ノ度ニ依リ區分シテ刑ヲ科シ若シ共謀者ニ於テ之ヲ亂擊シ何人カ何レノ創傷ヲ與ヘタルカ分明ナラサルトキハ又一ツノ特例ヲ設ケ其重傷ノ刑ニ照シ一

等ヲ減シ甲乙共ニ同一ノ刑ヲ科シタリ當時立法者ノ考ニテハ其重傷ノ刑ニ依リ通常ノ共犯ノ如ク罰センカ何レカ一方ハ自分カ與ヘタルヨリ重キ刑ヲ受ク可ク然ラハ共ニ輕キ創傷ニ依リ罰センカ重傷ニ對スル刑ヲ科セサルニ至ル可シトノ說ノ爲ニ一ツノ特例ヲ設ケタルモノナル可シ然ルニ處犯共謀ニ出テタルトキハ總テノ場合ニ於テ總則ノ共犯例ニ從ヒ各自重キ罪ヲ負擔セシムルヲ相當ナリトス又處犯共犯ニ非ス即同謀者ニ非サルモ犯時同一體ト爲リ事ニ從ヒタルモノニ對シテハ何レモ其責任ヲ負擔ス可キハ亦當然ナルカ故ニ事實輕傷ヲ與ヘタルモノニ對シ事實重傷ヲ與ヘタル刑ヲ科スルモ全ク干與セサル處爲ニ對シテハ刑ヲ科スルモノニ非サルナリ故ニ新法ニハ共謀ニ依ルルハ常ニ共犯例ニ依リ處罰スルコト爲シタルノミナラス共謀ニ非スシテ偶人ヲ共毆シ其傷害カ何人ノ處爲ナルカ知ル能ハサル場合ニ付テモ事實同一體ト爲リ事ニ從ヒタルトキハ尙共犯例ニ依リ各自同一ニ處分スルコト爲シタリ

現場ニ於テ勢ヲ助ケタルモノ云々是正犯ヲ補助シタル從犯トシテ其刑ヲ定メタルモノニシテ所謂特例ナル從犯タルナリ抑犯罪一般ノ原則ヨリ論スレハ現場ニ於テ勢ヲ助ケタルモノハ自ラ人ヲ傷害セサルモ各自ノ行為ノ集合ニ依リ成レル處ノ法律上不可分タル責任即正犯タルノ責任ヲ免レサルヘシ然ルニ茲ニ一般ノ原則ヲ排除シ傷害罪ノ場合ニ限リ特例ヲ設ケタルハ如何ナル理由タルカ傷害罪ハ人ノ身體ニ傷害ヲ與フ可キ意思ノ外形ニ現ハレタル不測ノ結果ニ付テ其責任

ヲ論スル罪ニシテ其性質殆ント過失犯ニ類スル行爲タリ學者ノ所謂過失犯ニ共犯ナシトハ近時一般ニ是認スル處ノ説ニシテ今殆ント同一ノ性質ヲ有スル處ノ傷害罪モ亦共犯ナシト論結スルモ無謀ニ非サルカ如シ舊法ニハ此理由ヲ採用シ毆打創傷ハ結果ニ依リ各自其刑ヲ科シタルカ故ニ自ラ傷ヲ爲サ、ル補助者ニ對シテハ責任ノ歸スル處ナキカ如シ依之特ニ法文ヲ設ケタリシモ新法ハ此反對ノ原則ヲ排除シ一般ノ原則ニ依リ傷害罪ノ刑ヲ科スルト爲シタル上ハ本條ノ刑亦共犯ノ制ヲ採用スヘキ筈ナルモ斯クテハ全ク共犯ノ原則タル意思ノ共通ナキ處爲ニ對シテ一般ノ原則ヲ應用スルモ苛酷ニ失スルノ恐アルヲ以テ傷害罪ノ場合ニ限リ新法亦特例ヲ設ケタルモノナリ

第二百八條 暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

釋義 人ニ暴行ヲ加フルモ人ヲ傷害スル迄ノ度ニ至ラサル場合ノ刑ヲ定ム。本條ハ所謂輕微ノ犯罪ニシテ實際被害者ト加害者ト示談ノ成ル場合多クシテ社會カ直ニ之ヲ訴追スルノ必要ナキヲ以テ特ニ親告罪ト爲シタリ

第二十八章 過失傷害ノ罪

第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

釋義 過失ニ原因シテ人ヲ傷害シタルモノ、刑ヲ定ム

本條モ亦親告罪ト爲シ告訴ヲ待ツテ訴追スルト爲シタリ。舊法ハ過失罪ト雖モ凡テ檢事ニ於テ直ニ公訴ヲ起スノ法ナリシモ其過失罪中單ニ傷害ニ止マル場合ノ如キハ其情狀大ニ怒スヘキモノアルノミナラス實際被害者ト加害者トノ間ニ於テ示談已ニ纏リ居ル場合多キヲ以テ社會ハ之ニ干涉シ強テ處罰スルノ必要ナキヲ以テ新法ハ親告罪ト爲シタリ。新法ハ法文ニ過失ノ定義ヲ與ヘス是法律ノ編纂上一般ニ定義ヲ排除シタルカ故ナリ然レモ過失犯トシテ罰スルハ過失傷ノ場合ニ限リ偶然傷ノ場合ハ法律之ヲ罰セサルナリ過失傷ハ舊法ノ所謂疎漏懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セサルニ原因スル場合ニシテ法律ハ之ヲ處罰ス可ク定メタリ

疎漏トハ換言スレハ不注意ニシテ犯者始メヨリ十分ノ注意ヲ加フレハ其傷害ナカル可クアリシ場合ヲ云フ例ハ斧ヲ以テ木ヲ斫ラントセンニ斧ノ柄抜ケテ傍人ヲ傷害シタルカ如シ或造家ノ足場ヲ造リタルニ其建造ノ堅固ナラザリシ

爲メ足場破毀シテ人ヲ傷害シタルカ如シ何レモ技師ニ於テ少シク注意スレハ柄ハ抜ケサル可ク足場ハ破レサリシナル可シ然ルニ十分ノ注意ヲ爲サ、リシカ故ニ柄ハ抜ケ足場ハ破レ之カ爲ニ人ニ傷害ヲ加ヘシカ如キナリ

懈怠トハ初ヨリ其手當ヲ爲サ、レハ害ノ生シ得ヘキハ豫メ知り得タルニ其手續ヲ爲スコトヲ怠リシ故ニ起リタル處ノ傷害ヲ云フ例ハ瘋癲人ノ番人其監守ヲ怠リ眠ル際瘋癲人逃走シテ人ヲ傷害シ或旅舎ノ主人カ旅客ノ大病ナルヲ知り醫師ヲ向ヘス爲ニ途ニ死ニ至リタルカ如キ番人ハ眠リナク主人ハ速ニ醫師ヲ迎ヒタレハ斯ル傷害ハ無カリシナリ然ルニ此等ノ事ヲ爲サ、リシハ全ク番人若クハ主人ノ怠リト云フカ如シ

規則トハ行政上ノ規則ニシテ例ヘハ夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅ス可ラサル規則ナルニ此規則ヲ守ラス夜中燈火ナク車馬ヲ疾驅リシテ傍人ヲ傷害シタルカ如シ

慣習トハ土地ニ一般ニ行ハル、處ノ習慣ニシテ船車等ノ行違ヒハ互ニ本例ニ遵フ可キ慣習ナルニ之ニ反シテ避ケタルカ爲ニ人ヲ傷害シタルカ如シ

過失罪ハ行爲不行爲ニ依リテ犯サル、得是其結果ハ常ニ不期ノ事實ニシテ無意犯タリ故ニ此罪ハ共犯人ヲ生スルコトナシ實際ニ於テ二人以上同時ニ此罪ヲ犯スコトナキヲ保シ難キモ是唯各自單獨ノ別罪カ偶然同時ニ生シタルノミ敢テ共犯ニ非サルナリ

又過失罪ハ其原因ニシテ自己ノ過失タル以上ハ直接ニ自己ノ處爲ニ依ルヲ要セス例ハ自家ノ飼犬カ時々狂スルコトアルヲ知り手當ヲ爲サ、リシ爲メ人ヲ噛ミタル場合又自己邸宅ノ墻壁損壞スルニ之ヲ修繕セサシ爲メ崩壞シテ人ヲ傷シタル場合ノ如シ

以上過失罪トシテ罰スヘキ場合ヲ述タリ然シテ之ヲ罰セサルハ偶然傷ノ場合ナリトス偶然傷トハ例ハ建築師足場ヲ踏ミ外シ下ニ墜落シ下底ノ人ヲ傷ケタルカ如シ普請場ニ入り來レル人アリテ偶落チ來レル瓦ニ觸レ爲ニ此人傷ヲ受ケタルカ如シ是等ハ所謂偶然ノ結果ナルヲ以テ法律ノ問フ所ニ非サルナリ

第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

過失犯ト雖モ其結果ノ大ナルモノハ其刑ヲ重ク罰セサル可ラス故ニ本條ハ之ヲ特別ニ一條ヲ設ケタリ然レモ其情狀ハ常ニ一樣ナラサルカ故ニ其情狀ニ依リ適應ノ刑ヲ定メン爲ニ其最少ノ數ヲ定メサルナリ

第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

業務上一層注意ス可キ任ニアル處ノモノ其注意ヲ怠リ之ニ因リテ人ニ傷害ヲ致シメタル場合ノ刑ヲ定ム

舊法ニハ本條ノ如キ規定ナカリシモ社會諸般ノ進歩ト共ニ人ノ業務ニ對スル行爲ハ一層其責任ヲ重シスルニ至レリ其結果トシテ職務アルモノカ其注意ヲ怠リシ爲メ人ヲ死傷ニ致ストキハ之ヲ罰スルノ必要ヲ生シタリ依之新法ハ特ニ本條ヲ設ケ職務懈怠ノ場合ニ限リ無意犯ニモ拘ハラス體刑ヲ科スヘシト定メタリ本條ノ事例ヲ舉クレハ船長ハ航海中ハ常ニ司令塔ニ上リ羅針ニ依リ航海ニ注意スルノ責任アルモ偶睡眠ヲ爲シ爲ニ航路ヲ誤リ暗礁ニ乘リ上ケ船體ヲ沈没セシメ爲ニ人ヲ死傷ニ致シタルカ如シ

第二十九章 墮胎ノ罪

社會文明ノ未タ開ケサル當時ニ在リテハ墮胎ヲ以テ罪惡ト爲サ、リシノミナラス或邦國ニ於テハ人口ノ増殖ヲ防カン爲メ却ツテ之ヲ獎勵スルノ風アリシ吾邦ニ於テ維新前迄ハ各地此風習大ニ行ハレ官ニモ亦默許ノ有様ナリシカ近世ニ至リ大ニ議論ヲ異ニシ胎兒ト雖已ニ胎内ニ在リテ生機ヲ備ヘ早晚發達シテ人ト爲リ國富ノ利源ヲ爲スノ基ナレハ國家ヲ保護ス可キ法律ニ於テ之ヲ禁セサルノ理アラシキヤ是今日文明ノ諸國ニ於テ墮胎罪ヲ規定シ之ヲ罰スル所以ナリ胎兒亦生機アリ早晚發達シテ人ト爲ルヘキモノナリ然ラハ墮胎ヲ爲スハ故意ヲ以テ人ヲ殺スニ類ス然ルハ本條ノ罪ハ殺人罪ニ比シテ遠ク輕ク其權衡ヲ失スルカ如シ其理由如何元來墮胎ヲ爲ス可キ婦女ノ如キハ多クハ姦通亂倫ノ結果ニ依

リテ懷妊シ醜名ノ世ニ發表センコトヲ恐レ或ハ貧窮ニシテ分娩後養育スル能ハサル爲等何レモ困厄ノ極途ニ自己ノ危險ヲ冒シ此ニ至ルモノニシテ情狀大ニ恕ス可キモノアルノミナラス胎兒ハ未タ社會ニ生活セサル一個ノ人ニ非スシテ分娩前種々ノ障礙ノ爲ニ或ハ人ト爲ラサル乎モ知ル可ラサルカ故ニ已ニ人ト爲リタルモノヲ殺スニ比スレハ其情狀ハ社會ノ被害トニ於テ宵壤ノ差アルモノナリ故ニ殺人罪ニ比シテ遠ク刑ヲ輕クシタリ

第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ婦女墮胎シタルモノ、刑ヲ定ム
 本條ハ所謂胎兒ヲ保護スルノ精神ニ出テタルモノナレハ胎兒已ニ死シ居タルトキハ此處爲アルモ罪トナラス又其方法ヲ施スモ胎兒カ生存シテ産レタルトキハ本條ノ罪ヲ構成セス是墮胎罪ハ胎兒カ死シテ出テタルトキノミ處罰ス可キ法律タルナリ

第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ婦女ノ依頼ヲ受ケ又ハ承諾ヲ以テ墮胎セシメ又是レ等ノ處爲ニ因

リ婦女ヲ死傷ニ致シタルモノ、刑ヲ定ム

第二百十四條

醫師、產婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ

又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ記載スル處ノ職務ノ者ハ胎兒ヲ保護ス可キ責任アルモノナルニ却ツテ利益ヲ以テ之ヲ行ヒタルモノ又一面ヨリ見ルトキハ此犯罪ヲ爲スニ便利ナルモノニシテ此處爲アリ故ニ一層刑ヲ重ク爲シタリ

第二百十五條

婦女ノ囑託ヲ受ケス又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ婦女ノ承諾ナク又囑託ヲ受ケスシテ墮胎セシメタル者ノ刑ヲ定ム舊法ニ於テハ其方法ヲ明示シ威逼誑騙又ハ毆打其他ノ暴行云々トアリシモ斯クテハ其方法ニ依ラサル場合ニ無罪タルカノ疑アリシヲ以テ新法ハ一切其手段方法ヲ明記セス單ニ墮胎云々ノ目的ノミヲ示シタリ

第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者

ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ婦女ノ承諾ナク墮胎セシメタルニ因リ爲ニ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ト比較シテ其情狀ノ重キニ從ヒテ處斷スルコト爲シタリ

第三十章 遺棄ノ罪

第二百十七條 老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ

遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

老幼又ハ疾病ノ爲メ獨立ノ生活ヲ爲ス能ハス即チ人ノ扶助ヲ要ス可キモノヲ遺棄シタルモノ、刑ヲ定ム

舊法ニ於テハ幼者ノ遺棄ハ其年齢ヲ以テ制限シ必ラス八歳未満ナルヲ要スト爲シアリ故ニ八歳ヲ超ヘタルハ假令自活スル能ハサルニモ拘ハラズ之ヲ遺棄スルモ罰スルヲ得サルノ缺點アリ元來本章ノ罪ハ自活スル能ハサル者ヲ保護スルノ法律ナルニ自活ノ有無ヲ後ニシテ唯ニ年齢ニ依リ區別シタルハ首尾ヲ失スルノ嫌アリ故ニ新法ハ年齢ニ依ラス自活ノ如何換言スレハ扶助ヲ要スルト如何トニ依リ犯罪ノ成否ヲ區別シ年齢ニ依ルコトヲ廢シタリ

テ單ニ刑ヲ重クスルト否トハ裁判官ノ心證ニ一任シ罪刑ノ權衡ヲ保タシムルヲ相當トス故ニ新法ハ此區別ヲ廢シタリ

本條犯罪ノ主體タル可キモノハ之ヲ扶養ス可キ責任アルモノニ限ルカ否ニ付舊法當時ヨリ論議ノアル處ニシテ甲論乙駁未タ歸一ナラサルカ如シ試ミニ外國ノ法律ヲ參酌スルニ佛國及佛國系統ノ伊白國ノ如キハ幼者ニ付テハ其父母後見人老疾者ニ付テハ子孫若クハ看護人ノ如キ被害者ニ對シテ扶養ノ責任アルモノニ限リ本條ノ罪ヲ犯スヲ得ルト爲シ獨逸ニ於テハ其人ニ制限ナク何人ニテモ之ヲ犯スヲ得ルトセリ然シテ吾新法ハ如何新法ハ法文上ニハ是等ノ制限ナキカ故ニ何人モ之ヲ犯スヲ得ルト解セリ何トナレハ責任アルモノニアラサレハ犯スヲ得サル場合ハ次條ノ如ク其明文ヲ揭ク可シ然ルニ本條ニハ何等ノ明文ヲ揭ケサルハ一般ノ人ニ於テ犯スヲ得ルヲ明白ナルノミナラス新法カ多ク種子ヲ得タル處ノ獨逸法ニ於テ此區別ヲ爲サ、ルヲ見レハ新法モ亦此區別ヲ爲サ、ルモノト信スルナリ

新法ハ年齡ニ依リ區別スルヲ廢シタルニモ拘ハラス尙年齡上ノ區別ナル處ノ老幼ノ法文ヲ使用セリ然リト雖正新法ハ嚴正ニ何年ヲ幼ト云ヒ何年ヲ老ト云フカ其區域一定セサルヲ以テ其老幼ノ事實ニ付テハ裁判官ノ判定ニ一任シ去ルモノト爲ス可キナリ

天性ノ白痴者ノ如キ疾病者ノ中ニ入ル可キ乎疾病ノ原因ヨリスル處ノ白痴者ハ

格別ナルモ然ラサル處ノ白痴者ハ本條ノ物體ト爲ルニ能ハサルモノナル可シ

本條遺棄ノ手段方法ニ付テハ法文上別ニ制限ヲ定メス故ニ暴力詐僞其他ノ方法ヲ以テ之ヲ他所ニ移シ又之ヲ殘シテ自分ニ他所ニ出テ去ルモ敢テ區別スルヲナク目的トスル處ハ扶助ヲ缺クニ至ルノ一點ニアルノミ

本條ノ犯罪モ亦有意犯ニシテ之ヲ遺棄スルノ意思アルヲ要ス然レハ物體カ扶養ス可キモノ、手ヲ離ル、其時ニ於テ犯意アルヲ要セス例ハ群聚中ニ於テ偶然幼者ヲ見失ヒタル後チ俄然惡意ヲ生シ之ヲ遺棄シ去ル如キハ離隔ノ後ニ生シタル惡意ニ於テモ本條ノ罪ヲ構成スルモノナル可シ

第二百十八條 老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

老者幼者又疾病者ヲ保護ス可キ責任アルモノニ於テ之ヲ遺棄シ又是等ノ者ノ生存ニ必要ナル保護ヲ爲サ、ル處ノ處爲ノ刑ヲ定ム

直系ノ尊屬親ニ對シ前項ノ處爲アル場合ノ刑ヲ定ム

舊法ニ於テハ保護ノ責任アルモノヲ單ニ給料ヲ得テ人ノ寄托ヲ受ケタルモノニ

限リタルモ新法ハ此責任者ヲ擴クセン爲メ其場合ノミヲ罰セシモ新法ハ其生存ニ必要保護ヲ爲サ、ルカ如キ殆ント遺棄ノ處爲ト實質上ニ於テ差異ナキ行爲ヲモ罰スルト爲シ是等ノ明文ヲモ加ヘタリ是等ハ法律ノ精神ヲ加味シ其目的ヲ達スルノ限度ニ向テ改正シタルモノナリ

本條ハ老者幼者疾病者ヲ保護ス可キ責任アルモノカ其責任ヲ顧ミス其責任ヲ盡サ、ルヲ罰スルモノナレハ其刑ヲ重クシタリ

責任アルモノトハ有償則給料ヲ以テ人ノ寄託ヲ受ケタルモ、ト無償即一般親屬ノ爲ニスル處ノ後見人子孫ノ如キ總テヲ總稱シ殊ニ直系ノ子孫タルモノ本條ノ罪ヲ犯ストキハ一層刑ヲ重クシタリ是通常ノ責任ノミナラス所謂孝養ヲ缺クノ責アルカ故ナリ

第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

前二條即遺棄シ若クハ保護ヲ缺クカ爲ニ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害罪ノ刑ニ比較シ重キニ從テ處斷スヘキヲ定ム

第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

帝國憲法ニハ人ハ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ逮捕監禁セラル、トナシ

ト是人權ヲ重ンヌルカ故ナリ本章ノ規定モ亦此法律ノ精神ニ依ルモノニ外ナラス然シテ本章ニ規定スル處ノ逮捕監禁罪ニ規定スル處ノ職務アルモノカ職權ヲ濫用シテ是等ノ行爲ヲ爲スト別ニシテ私人カ私擅ニ人ヲ逮捕監禁シタル場合ノ罪ヲ規定シタリ但官吏ノ行爲ト雖モ職權濫用ニアラスシテ私人ニ於テ犯シタルハ本章ニ依リ罰セラル可シ

舊法ニ於テハ公罪私罪ノ別ヲ設ケタルヲ以テ官吏タルノ資格ニ依リ犯シタル犯罪ト私人ニ於テ犯シタル犯罪ト各章ヲ區別シテ規定セルモ本法ハ已ニ公罪私罪ノ區別ヲ廢シタリ今其主義ヲ一貫セシメントスレハ本章ノ如キ私罪ハ第十三章ニ規定スル公罪トノ區別ヲ排除ス可キ筈ナルニ立法者ノ策ノ之ニ出テサリシハ或本章ノ場合ヲ第十章ニ合意ス可キヲ遺忘セシニ非サルカ記シテ後日ヲ待ツ

第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

若シ飲食衣服ヲ屏去スルカ又ハ毆打其他苛酷ノ處爲ヲ爲シタルモノアルトキノ刑ヲ定ム

舊法ニハ人ヲ監禁スルニ其日數十日ヲ越ユルトキハ其十日毎ニ必ラス加等シテ

常ニ刑ヲ重ク科スルノ法アリ是全ク監禁十日ヲ越ユルハ其情狀ノ重キヲ加フルカ故ナリ然ルニ新法ハ兼テ刑ノ範圍ヲ擴クシタルカ故ニ假令長日月ノ監禁アリテ其情狀ノ最重キ場合ト雖モ適宜ニ刑ヲ定ムルヲ得サルカ故ニ殊更ニ加重ノ爲ニ其規定ヲ置クノ必要ナキヲ以テ其規定ヲ廢シタリ

本條ノ罪ハ私人カ擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪ニシテ其犯罪ヲ構成スルニハ(一)人ヲ逮捕監禁シタルヲ(二)其逮捕監禁ハ必ス不正タルヲ二要素ヲ要ス

(一) 人ヲ逮捕監禁シタルヲ
逮捕監禁共ニ人ノ身體ニ付テノ去就ノ自由ヲ奪フ犯罪ニシテ詳言スレハ共ニ身體ヲ拘束スル處爲ナリ其ノ逮捕ト監禁トノ相違ハ逮捕ハ一時ノ拘束ニシテ監禁ハ其繼續ノ行爲タリ故ニ逮捕ハ即時犯ニシテ監禁ハ繼續犯タリ隨テ時効ノ起算ニ於テ著シキ差異アルナリ即チ逮捕ハ其行爲タルヤ直ニ時効ヲ算シ監禁ハ其行爲ノ終極ヨリ時効ヲ算ス可キナリ

(二) 其逮捕監禁ハ必ス不正タルヲ
本條ニ於テ殊更ニ此條件ヲ記載スルモノハ唯本條ノ例外即チ本條ノ支配ヲ受ケサル處ノ數箇ノ場合ヲ掲ケン爲ノ方法ニ外ナラス故ニ左ニ其場合ヲ列擧セシ

(イ) 刑事訴訟法ノ規定ニ依リ現行犯アル場合ニ於テ私人ノ之ヲ逮捕スル場合

(ロ) 貴衆兩院議長カ院內ニ於ケル現行犯ヲ逮捕スル場合

(ハ) 船長カ船中ニ於テ犯罪人ヲ逮捕スル場合

(ニ) 父母後見人教師等懲戒必要ノ爲ニ適法ノ限度內ニ於テ其子弟ヲ監禁スル場合

(ホ) 醫師カ囑託ニ依リ精神病者ヲ監禁スル場合

以上ノ場合ハ本條ノ制裁ヲ受ケサル處ノ例外ナリトス

夫婦ノ關係ニ付テハ本條ノ例外ナラサルカ即チ夫ハ婦ノ自由ヲ束縛スルノ權利ナキカ民法ニ依レハ婦ハ一ツノ無能力者ニシテ夫ハ之カ後見人ノ地位アルモ父子ノ如キ監督權若クハ懲戒權アルニ非サレハ漫リニ之ヲ監禁スルノ權ナカルヘシ然リト雖モ若シ婦ニシテ品行不正ナルハ夫ハ其外出ヲ禁シ居室ニ屏居セシムル如キハ素ヨリ不正ト謂フヲ得サル可キナリ

第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

人ヲ逮捕監禁シタルカ爲ニ人ヲ死傷ニ致シタルモノ、刑ヲ定ム

本條ニ依テ人ヲ死傷ニ致シタル云々アリ故ニ毆打シテ傷ヲ爲サシメタルト逮捕監禁シタルノ結果種々ノ場合ニ於テ死傷ニ致シタル等總テノ場合ヲ包含ス可シ

第三十二章 脅迫ノ罪

舊法ニ於テハ脅迫ノ方法ヲ殺人放火毆打毀壞劫掠ト制限シタルヲ以テ自由名譽ニ對シ害ヲ加ヘント脅迫シタルモノ、如キ不問ニ附セサル可ラス故ニ新法ハ之ヲ生命身體自由名譽財產ト改正シタリ

脅迫罪ハ人ヲシテ法定ノ危害ヲ受ク可キヲ想像セシメ以テ之ヲ恐怖セシムル處ノ原素ハ人ヲ恐怖セシムルノ要素アルヲ要ス即チ(一)人ヲ恐怖セシムル處爲アル(二)法律ヲ指示スル處ノ危害ヲ加フ可キヲ以テ人ヲ恐怖セシムル(三)恐怖セシムルノ意思アルヲナリ

(一) 人ヲ恐怖セシムルノ處爲アル
法律ハ人ヲ恐怖セシムルノ方法ヲ一定セス故ニ言語文書ノ如キ無形ノ方法ニ依ルト短銃白刃ノ如キ有形ノ兇器ヲ以テスルトヲ問ハス此所爲ノ一アルヲ要ス

(二) 法律ニ指示シタル處ノ危害即人ノ生命身體自由名譽財產ニ對シ危害ヲ加フ可キヲ以テ人ヲ恐怖セシメタルヲ要ス

(三) 恐怖セシムルノ意思アルコト
脅迫罪ハ人ノ安全ナル生活ヲ害スル處ノ行爲ヲ罰スルモノナレハ其害ヲ受ク可キヲ恐怖心ヲ起サシム可キ事ノ意思アルノミヲ以テ本罪ヲ構成ス可シ犯

人ニ於テ果シテ目的ノ行爲ヲ爲スノ意思アルカ否ハ問フ所ニ非サルナリ
脅迫罪ノ性質ヲ尙詳述センニ前陳ノ如ク本章處罰ノ目的ハ人ノ安全ナル生活ヲ害スルノ罪ナレハ犯人ニ於テ脅迫ノ行爲ヲ爲スモ被害者未タ恐怖セス詳言スレハ未タ生活ノ安全ヲ害セラレサルハ本罪ヲ構成セサルナリ他言ヲ以テ言ハハ本罪ノ構成ニハ常ニ主觀的ノ脅迫作用ニ依リ其結果客觀的状況ノ相合一致スルヲ要スルモノナリ

第二百二十二條 生命、身體、自由、名譽又ハ財產ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財產ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

人ノ生命身體自由名譽又財產ニ對シ害ヲ加ヘント脅迫シタルモノ、刑ヲ定ム

親族ノ生命身體自由名譽又財產ニ對シ害ヲ加ヘント脅迫シタルモノモ前項ト同一ニ處分スルヲ定ム

舊法ニ於テハ兇器ヲ持シテ犯シタルトキハ一等ヲ加ヘテ處分セシモ新法ハ本條

モ亦刑ノ範圍ヲ擴メタルヲ以テ加重ノ情狀アルキハ裁判官ニ於テ適應ノ刑ヲ定ムルヲ得ルカ故ニ加等ノ情狀ニ對スル明文ハ之ヲ删除シタリ
 生命ニ對シテハ白刃ヲ擬シテ人ヲ殺ス可シト言ヒ身體ニ對シテハ棒ヲ以テ毆打ス可シト云ヒ自由ニ對シテハ汝ヲ縛ス可シト繩ヲ示シ名譽ニ對シテハ汝ノ醜行ヲ社會ニ告白ス可シト脅迫スルカ如シ
 父母兄弟姉妹ノ如キ親族ハ殆ント吾身體ト同一ノ利害ヲ感ス可キモノナレハ是等ノモノニ對シ法律ニ示ス所ノ行為ヲ爲ス可シト脅迫サルハ殆ント吾身體ニ對シ脅迫サルト均一ナルカ故ニ法律ハ是等ノ場合モ尙處罰スルヲト爲シタル所以ナリ

第二百二十三條

生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

暴行ヲ用キス生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可シト脅迫シテ人ニ義務ナキコトヲ爲サシメ又爲スヲ得可キ處ノ權利ヲ妨害シテ爲サシメザリシ行爲ニ對スル刑ヲ定ム
 親族ノ生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加ヘント脅迫シ人ヲシテ義務ナキコトヲ爲サシメ又ハ爲スヲ得可キ處ノ權利ヲ妨害シテ爲サシメザリシ行爲ニ對シテ刑ヲ定ム
 本條ノ未遂罪ハ處罰ス可シ
 舊法ハ脅迫ノ結果人ニ義務ナキコトヲ行ハシメ又爲ス可キ權利ヲ妨害シタル處ノ處爲ヲ罰セザリシモ是等ノ處爲ハ共ニ罰ス可キ必要アルヲ以テ新法ハ此處爲ヲ罰スルノ明文ヲ設ケタリ
 舊法ニ於テハ脅迫罪ニ未遂ヲ罰セザリシモ本條ノ如キ脅迫ヨリ進ンテ人ニ行不行ヲ強ユル場合ニハ社會ヲ害スルヲ甚ダシキヲ以テ新法ハ本條ノ未遂ヲ罰スルヲト爲シタリ

第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪

第二百二十四條 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以

上五年以下ノ懲役ニ處ス

【註】 未成年者即二十歳未満ノ幼者ヲ略取誘拐シタルモノ、刑ヲ定ム
 舊法ニ於テハ幼者ヲ略取誘拐シタル場合ニ於テ十二歳未満ト十二歳以上トニ分
 テ其以上ナルト未滿ナルトニ依リ刑ヲ區分シタルモ元來二十歳未滿ノ幼者ハ何
 レモ父母若クハ後見人ノ保護監督ノ下ニ在ルモノナレハ略取誘拐ノ處爲ニ係ル
 トキハ其幼者ハ父母若クハ監督者ノ下ニ在リテハ教養セラル、ノ權利ヲ奪却サ
 レ且其生涯ヲ誤ルト共ニ其父母若クハ監督者ノ監督權ヲ害スルハ本罪成立ノ要
 點ニシテ就中其主タルモノハ父母若クハ監督者ノ監督權ヲ害スルノ點ニアリト
 ス
 夫レ斯ノ如ク本罪ノ主要ハ父母若クハ監督權ヲ害スルニ在リトスレハ幼者ノ年
 齡ニ依リ刑ヲ區別スルノ理ナキノミナラス略取ノ手段ニシテ暴行脅迫ヲ用フル
 ト誘拐即僞計ニ依ルトヲ以テ監督權ヲ害スルノ度ニ於テモ亦區別アルヲナカル
 可シ但幼者ノ年齡略取誘拐ノ手段等ニ依リ犯情ノ度合ヲ異ニスルハ免レサルモ
 是ニ依ル罪刑ノ權衡ヲ得ントスルハ承審官ノ心證ニ一任スルヲ却ツテ勝レリト
 思料ス故ニ新法ハ幼者ノ年齡ニ依リ刑ヲ區別スルヲ廢シタリ
 又舊法ニハ略取誘拐ノミヲ以テ本罪ヲ成立セス更ニ進ンテ藏匿交付ヲ必要トセ
 シモ藏匿交付ノ處爲タルヤ略取誘拐以後ノ方法ニシテ父母若クハ監督者ノ權利
 ヲ害スルノ罪ハ略取誘拐ノ處爲ニ依リ十分ナリ然ラハ新法ハ略取爾後ノ處ニ

以テ本罪成立ノ要素ト爲スノ條件ヲ廢シタリ
 本罪ハ左ノ要素ヲ以テ成立ス

- (一) 犯罪ノ容體ハ廿歳未滿ノ幼者ナルヲ(二)略取ノ處爲アルヲ
- (一) 容體ハ二十歳未滿ノ幼者ナルヲ
- 吾刑法ニ於テハ略取ノ容體ト爲ルモノハ二十歳未滿ノ幼者タルヲ必要トセ
 リ二十歳以上ノモノハ精神已ニ發達シ民法上完全ナル獨立ノ位置ヲ得父母又
 ハ監督者ノ監督ヲ脱シ居ルモノナレハ本罪ノ所謂監督者ノ權利ヲ害スルヲナ
 シト認メタルカ故ナリ
- 然シテ法律ハ本罪ノ容體ト爲リ得ヘキモノハ二十歳未滿ト規定セルカ故ニ其
 賢愚強弱ハ敢テ問フニ及ハサルヘシト雖モ其果シテ略取ト否トノ事實ヲ判斷
 スル場合ニ賢愚其他ノ情況ハ大ニ判官ノ心證ニ關係スル所アルヘシト信ス
- (二) 略取ノ處爲アルヲ
- 略取トハ父母其他監督者ノ承諾ナク僞計即チ詐欺威力及ビ暴行脅迫ヲ以テ之
 ヲ奪却スルヲ云フ換言スレハ不法ニ監督者ノ監督ヲ脱セシムルノ處爲ナリ故
 ニ本罪構成ニハ監督者ノ監督權ヲ害スルノ處爲即チ監督權ヲ脱セシムル處爲
 アルヲ必要トスル所以ナリ
- 然ラハ父母及其他監督ノ位置ニアルモノハ絶對ニ此罪ヲ犯スヲ得サルノミ
 ナラス他人ト雖モ是等ノモノ、完全ナル承諾ヲ得タルトキハ本條ノ罪ヲ犯ス

ヲ得サルナリ

本條ノ犯罪ノ構成ハ以上ノ要素ヲ要スルノミナラス他ノ犯罪ノ如ク意思ノ善惡ヲ區別スルヲナク假令善意ナルトモ雖モ之ヲ處罪ス可シ例ハ自己ノ實子ナキヲ患ヒ他人ノ愛ラシキ幼兒ヲ見テ之ヲ吾子ニ爲サントノ念慮ヨリ略取シタルトモ雖モ之ヲ處罰スルヲ得是此場合ニハ幼者ノ權利ハ害セサレトモ父母其他ノ監督者ノ監督權ヲ害スルノ點ハ惡意ノ場合ト區別ナキカ故ナリ

第二百二十五條 營利猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

利益ヲ得ン爲ニ猥褻又ハ結婚ノ目的ニテ略取又ハ誘拐シタル者ノ刑ヲ定ム

舊法ニハ本條ノ如キ規定ナカリシモ然ルモ營利ノ目的ヲ以テ人ヲ略取スルモ之ヲ罰スルヲ得サルノ不都合ヲ生ス故ニ新法ハ此法文ヲ設ケタリ

歐洲ノ法律ニ徵スルニ佛國ノ如キハ略取ノ物體ト爲ルモノハ常ニ二十歲未滿ノモノニ限ルト爲シタルモ他ノ國ニ於テハ絶テ年齡ヲ限ラス單ニ被害者カ婦女ナルトキハ二十歲以上ノ場合ニモ尙之ヲ罰スルノ法アリ然シテ我國ニ於テ婦女ニ限ラス男子ト雖モ均シク係ル災厄ニ罹ルヲナキヲ保ス可ラス故ニ新法ニハ或國ノ法律ヲ一層擴張シ被害者ノ男女ヲ問ハス總テ是等ヲ利益ノ爲ニ人ヲ略取又ハ

誘拐スルノ處爲ヲ重ク罰スルノ明文ヲ設ケタリ
猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ僞計又威力ヲ以テ略取誘拐ノ所爲ヲ爲スハ被害者ノ權利ヲ害スルノミナラス風俗ヲ害スルヲ以テ新法ニハ一般ノ營利ト均シク處罰ス可シト爲シタリ

第二百二十六條 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

帝國外ニ移送スルノ目的ニテ人ヲ略取シ又誘拐シタルモノ、刑ヲ定ム

帝國外ニ移送ス可キノ目的ヲ以テ人ヲ賣買シ拐取サレタル者又賣ラレタル者ヲ帝國外ニ送りタル者モ前項ト同一ノ罪ニ依リ處分スルト定メタリ

舊法ニ於テハ幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交附シタル處爲ヲ罰スルノ罪アリ是人ヲ外國人ニ交附スルトキハ忽チ海外ニ移送スルノ恐アルハ勿論ナレトモ然シ乍ラ外國人ト雖モ絶對ニ國外ニ移送スルモノニ非スシテ却リテ內國人ト雖モ依テ以テ國外ニ移送スルノ事實ナシト云フ可ラス故ニ新法ニハ此法文ヲ改メ更ニ國外ニ移送スルノ目的ヲ以テ云々ト規定シ其犯人ノ内外人ヲ問ハサルト爲シ單ニ國外ニ移送スルノ目的ヲ以テ略取スル處ノ行爲ヲ重ク罰ス可シト規定シ被

受害者ノ年齢ニ依ル區別ヲ廢シタリ

第二百二十七條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

【註釋】 本條ハ主犯ヲ幫助スル處ノ犯罪ニシテ所謂事後ノ從犯タルノ性質ヲ有スルモノナリ然シテ其收受藏匿通略取誘拐者ヨリ直接ニ受クルノミナラス轉々シタル場合ト雖トモ苟モ略取誘拐サレタルモノタルコトヲ知リテ收受シタル者ハ本條ノ制裁ヲ受ク可シ

若シ其收受ノ目的カ營利又猥褻ニ在ルトキハ一層重キ刑ヲ科ス可キハ當然ナリ
第二百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限り告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻

ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ効ナシ

【註釋】 本條ハ本章中ノ略取誘拐罪ノ一部ニ於テハ告訴ヲ待テ受理ス可キヲ規定ス即第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル所ノ第二百二十七條第一項其他此二條ノ罪ノ未遂罪ノ場合ヲ除ク外ニシテ且本章中營利ヲ目的トスルニ非サル場合ハ告訴ヲ待テ論ス可シト爲シタリ然シテ是等ノ場合ト雖トモ被拐取者又ハ被賣者カ犯人ト已ニ結婚ヲ爲シタルトキハ其結婚ヲ無効ナリトシ又其結婚カ取消サレタル裁判ノ言渡カ確定シタル後ニ非サレハ告訴ノ効ナシト定メタリ

第三十四章 名譽ニ對スル罪

第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス

惡事醜行アリトシテ公然ニ之ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル行爲タルモ
ノハ其事カ事實ナルト否トヲ問ハス罰スルノ刑ヲ定ム

死者ノ名譽ヲ毀損シタルモノハ誣罔ニ出テタルニ非サレハ罪トセサルナリ
舊法ニハ誹毀ノ方法ヲ法律ニ明示シタルモ凡ソ人ノ名譽ヲ毀損スルノ方法ハ必
スシモ舊法カ規定スル處ノ行爲ニ止マラサルカ故ニ新法ハ之ヲ限定セス苟モ惡
事醜行アリシトテ人ノ名譽ヲ毀損ス可キ事ヲ公然社會公衆ニ摘示シタル者ハ其
方法ノ如何ヲ論セス之ヲ罰スルト爲シタリ

誹毀罪ヲ構成スルニハ(一)惡事醜行ヲ公然ニ摘示スル(二)人ノ名譽ヲ毀損ス
可キ事實タルヲ知リタル(三)二要素ヲ要ス

(一) 惡事醜行ヲ公然ニ摘示スル

誹毀トハ被害者カ社會公衆ニ對シテ赤面ス可キ事實ヲ公然ト摘示シタルヲ詳
言スレハ人ノ隱事ヲ發ヒテ公ニ爲シタルコトヲ要ス然シテ如何ナル行爲カ果
シテ人ノ惡事醜事ト謂フヲ得ヘキ哉否ハ時ノ風俗人情且被害者ノ位置品格等
ヲ斟酌シテ決定ス可キ法律ノ問題ニシテ豫メ法律ニ於テ決定スル能ハサル處
ニシテ例ハ刑事ノ言渡ヲ受ケタルモノニ對シテ其事實新聞紙ニ掲クル人ノ
隱事ニ非サレハ假令公然摘示スルモ誹毀ト爲ラサルナリ又娼妓ヲ爲シタルモ
ノニ對シテ某ハ娼妓ナリト公告スルモ其人ノ名譽ヲ毀損ス可キ事實ト謂フヲ
得サルナリ然レモ娼妓ニ娼妓ヲ爲シタルニ今ハ他人ノ妻ト爲リ居ルモノニ對シ

テ彼ハ曩ニ娼妓ナリシト言ヒテ公衆ニ告クルキハ場合ニ依リ誹毀ト爲ル事ア
リトス

法律ニハ摘示シ云々アルヲ以テ必ラス其惡事醜行タル可キ事實ヲ摘示スルヲ
要ス單ニ漠然トシテ彼ハ惡事醜行アリト彼ハ無能ニシテ何事モ解セスト謂フ如
キハ摘發ニ非サルヲ以テ誹毀ニ非サルナリ

無形人ハ惡事醜行ノ物體ト爲ルヲ得ルカ

法律ニ惡事醜行ヲ摘發云々トアルヲ以テ本罪ノ物體ト爲ルモノハ必ス生活機能
ヲ有シ自ラ活動スル處ノ有形ノ人タルヲ要ス何トナレハ無形人ハ自ラ活動スル
能ハサルモノナレハ隨テ惡事醜行ノアル可キ理由ナキヲ以テ是レカ物體ト爲ル
可キ者ハ自ラ行動ノ機能アルヲ要スレハナリ然ルニ或一説ニ依レハ無形人ト
雖モ權利ノ主體ト爲リ名譽ヲ有スルカ故ニ是ニ對シテモ尙誹毀ノ罪ヲ成立スト
然リ無形人ト雖モ特ニ法律ニ於テ規定アルモノハ格別然ラサルモノハ前陳ノ如
ク自ラ醜行ノ生ス可キ等ナケレハ假令他人カ誹毀ノ目的ヲ以テ無形人ニ對シテ
害ヲ爲スコトアルモ是唯財産上ニ付テ信用ノ如何ニ關スルノミニシテ敢テ誹毀
罪ノ性質タル人ノ名譽ニ對シテ毀損スルヲ能ハサルモノナリ但其誹毀ノ方法ニ
依リテハ無形ノ人ヲ誹毀スルニ非スシテ無形人ヲ代表スル處ノ其人ニ對シテ誹
毀スルモノト認メ得ヘキ場合アルモ此場合ニハ代表者其人ヲ誹毀スルモノニシ
テ無形人其物ヲ誹毀スルニ非ルナリ誹毀罪ノ物體タル可キ被害者ハ必ス其氏名

ヲ摘示スルヲ要セス社會公衆ニ於テ果シテ何某ノ事ナリト一目シテ知り得ル場合ニ於テ犯罪ノ成立ニ十分ナリト信ス

(二) 人ノ名譽ヲ毀損ス可キ事實タルヲ知リタルト

他人ノ惡事醜行ト知りツ、モ之ヲ公ニ告クルヲ要スルノミ強テ他人ノ名譽

ヲ害セン爲ニ告クルノ意思ハ必要トセサルノミナラス又人ノ將來ヲ戒メン爲

ニ忠告スルノ意思ヲ以テ公示シタル場合ト雖モ本罪ヲ成立ス可シ

死者ハ權利ノ主體ト爲ルヲ得サルモノナレハ之ヲ誹毀スルモ犯罪ト爲ラサルト

ノ説アルモ余ハ之ニ同意スルヲ得ストナレハ法律ハ生存者ノ名譽ヲ保護スル

ト共ニ死者ノ名譽ヲモ保護スルカ故ニ死者ヲ誹毀スルモノヲ不問ニ附スルヲ能

ハサルナリ然リト雖モ死者ニ對スル誹毀ノ場合ニ於テ尙生存者ニ對スル如ク事

實ノ有無ヲ問ハスシテ罰スルトキハ遂ニハ真正ナル傳記史乘ヲ編ムノ律ヲ沒ス

ルニ至リ國家ノ歴史ヲ後世ニ傳フル能ハサレハ死者ニ對シテハ誣罔即チ不實ノ

事ヲ故ラニ告クル場合ノミ法律ハ之ヲ處罰シ他ハ之ヲ問ハサルナリ

第二百三十一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル

者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

惡事醜行ヲ摘示セスシテ公ニ人ヲ侮辱シタルモノ、刑ヲ定ム

侮辱トハ人ヲ輕侮スルノ行爲ナリ詳言スレハ他人ニ相當ノ敬禮ヲ欠クノ行爲ナ

リ然シテ人ト互ニ相當ノ禮義ヲ守ル可キハ社會ノ通義ナリ本條ノ如キ假令人ノ

惡事醜行ヲ告白セサルモ互ノ禮義ヲ欠クハ不問ニ附ス可ラス然レモ其情狀最

輕微ナルカ故ニ之ヲ輕罪ニ處スルナリ

第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本章亦親告罪ト爲シタリ

第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百三十三條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信

用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役

又ハ千圓以上ノ罰金ニ處ス

本條ハ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル罪ニシテ其方法ハ虛

偽ノ風説ヲ世間ニ流布シ又ハ偽計ヲ以テ爲ス所ニシテ即チ業務ノ發達ヲ妨害ス

ルヲ大ナリトス

第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條

ノ例ニ同シ

本條ハ前條ト同一ニシテ唯其方法カ威力ヲ用ヒテ爲スノ區別アリ故ニ其

ノ例ニ同シ

第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百三十三條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信

用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役

又ハ千圓以上ノ罰金ニ處ス

本條ハ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル罪ニシテ其方法ハ虛

偽ノ風説ヲ世間ニ流布シ又ハ偽計ヲ以テ爲ス所ニシテ即チ業務ノ發達ヲ妨害ス

ルヲ大ナリトス

第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條

ノ例ニ同シ

本條ハ前條ト同一ニシテ唯其方法カ威力ヲ用ヒテ爲スノ區別アリ故ニ其

ノ例ニ同シ

第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百三十三條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信

用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役

又ハ千圓以上ノ罰金ニ處ス

本條ハ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル罪ニシテ其方法ハ虛

偽ノ風説ヲ世間ニ流布シ又ハ偽計ヲ以テ爲ス所ニシテ即チ業務ノ發達ヲ妨害ス

ルヲ大ナリトス

第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條

ノ例ニ同シ

本條ハ前條ト同一ニシテ唯其方法カ威力ヲ用ヒテ爲スノ區別アリ故ニ其

ノ例ニ同シ

第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百三十三條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信

用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役

又ハ千圓以上ノ罰金ニ處ス

本條ハ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル罪ニシテ其方法ハ虛

偽ノ風説ヲ世間ニ流布シ又ハ偽計ヲ以テ爲ス所ニシテ即チ業務ノ發達ヲ妨害ス

ルヲ大ナリトス

刑モ前條ト同一ニ論スルト爲シタリ

第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ他人ノ所有スル處ノ財物ヲ竊ニ盜ミタル處ノ行爲ヲ罰スル刑ナリ舊法ニ於テハ單ニ其手段方法或ハ其身分ニ依リ刑ヲ異ニシ例ハ水火震災ニ乘シ竊取シ門戸牆壁ヲ踰越損壞シ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊取シ二人以上ニテ竊取シ兇器ヲ持シテ竊盜シ田地山林牧場ニ於テ竊盜シ官吏自ラ監守スル物件ヲ竊盜スルカ如キ何レモ其手段方法ニ依リ豫メ刑ヲ輕重シ其處犯ノ情狀ハ殆ント度外視シタルカ如クナルカ故ニ承審官カ所犯情狀ニ依リ罪刑ノ權衡ヲ保タントスルニ困難寡ナシトセス故ニ新法ハ凡テ是等ノ方法ニ依リ豫メ刑ヲ區別スルヲ廢シ且刑ノ範圍ヲ擴張シタルヲ以テ承審官ニ於テ罪刑相當ノ分割ヲ爲スニ大ニ便利ヲ得セシメタリ

本條ハ人ノ處有物ヲ奪取スルノ罪ナリ故ニ本條ノ罪ノ構成ニハ左ノ條件ヲ要ス
(一)他人カ法律上ノ利益ヲ有スル物タルコト
(二)竊取ノ處爲アルコト
(三)其物件ハ動産タル可キ事
(四)他人ノ所有物ト知リテ奪取スルノ意アル事ヲ要ス

(一) 他人カ法律上ノ利益ヲ有スル物タルコト

財産ニ對スル罪ハ他人カ其物件ニ付法律上ノ利益ヲ有スル處ノモノニ對シテ其利益ヲ害スル處爲タルヲ以テ其物件ト必ラス他人ノ所有物タラサル可ラサルコトヲ要スルカ故ニ自己ノ所有物又ハ特定シタル人ノ所有ニモ屬セサル物即チ空氣光線水等ノ如キ其他所有者ノ委棄シタル物件等ハ盜罪ノ目的タルコトヲ得サルト共ニ犯人ノ所有物ト雖モ其物件ニ付他人カ法律上ノ利益即チ質權留置權等ニ依リ物上權ヲ有スル物件ハ本罪ノ目的タルコトヲ得ヘシ
又他人カ法律上ノ利益ヲ有スル處ノ物件タル處ヲ要スルカ故ニ事實上他人カ占有シ其利益ヲ得タシト信スル物件ト雖モ若シ其物件カ人ノ私有ヲ許サ、ルモノ所謂絶體ニ法律上ノ禁制物(法律上ノ禁制物ニ二種アリ一ハ絶對的ニ所有ヲ許サ、ルモノ阿片煙偽造貨物等ノ如シ他ハ相對的ニ所有ヲ許サル、モノ軍用ノ銃砲彈藥等ノ如シ)及埋葬スヘキ死屍ノ如キ資産上ノ利益ト稱ス可ラサルモノハ本罪ノ目的タル事ヲ得ス
他人ト共有ノ物件ニ付テハ如何共有財産ハ其物件全部ニ付テ已レカ不可分ノ權利ヲ有スルト共ニ他人亦其物件全部ニ付テ不可分ノ權利ヲ有スルカ故ニ共有物ノ一分其一部ヲ竊取スルハ純然タル他人ノ物ヲ盜ムト同シク盜罪アリトシテ處罰セサル可ラス
法律ハ盜罪ノ物件ハ他人ノ所有物タルコトヲ要スルノミナルカ故ニ其物件ハ被

害者若クハ被奪者ノ所有タルヲ要セス詳言スレハ犯人以外ノ者カ其上ニ所有權ヲ有スル物件タルヲ要スルノミ現ニ奪取セラレタル者ハ縱令所有權ヲ有セサルモ尙本罪ヲ構成ス可シ

(二) 窃(盜)取ノ處爲アル事

窃盜罪ハ所謂他人ノ占有ニ係ル物件ヲ己レノ占有ニ移スノ處爲ニシテ其行爲ハ他人ノ承諾ヲ得サルカ他人カ覺知セサルニ乘シテ行ハル、ヲ要ス夫レ盜罪ハ他人ノ物ヲ取ルノ處爲タルカ故ニ此奪取ノ處爲アラサレハ成立セサルナリ故ニ其物件ハ他人ノ所有ニ係ル物ト雖モ他人ヨリ寄託ヲ受ケ曩ニ占有カ移轉シタルカ若クハ他人カ誤リテ占有ヲ移シタルハ物件カ後日發見サレタルカ如キ(假令ハ百圓ヲ受取ル可キコトヲ他人カ誤リテ二百圓ヲ得タル事カ後日發見サレタルカ如シ)己ニ寄託ノ爲ニ占有カ移轉シ己ニ誤謬ノ爲ニ占有カ移サレタルモノニシテ盜罪タル意思ノ發起前ニ於テ占有ハ己ニ移轉シアルヲ以テ本罪ノ構成セサルヲ明白ナリ
遺失物ヲ拾得ノ當時ニ於テ之ヲ窃取スルノ意思アルハ如何
窃盜ハ己ニ説明セルカ如ク所謂他人カ保管スル物件ヲ己レノ占有ニ移スノ行爲ナルカ故ニ己ニ其物件カ他人ノ占有ヲ脫離シタル處ノ遺失物ニシシ未タ何人モ占有セサルモノナルハ所謂占有ヲ移ス處ノ行爲アラサルヲ以テ盜罪ア

リト爲ス可ラス己ニ占有ヲ移轉ノ行爲ナキ爲ニ盜罪ナシト論決スル上ハ其拾得當時ノ意思如何ハ研究スルノ要ナキナリ但余ハ茲ニ論決スルハ獨逸法ニ參酌シタルモノニテ佛國法ノ如キハ假令遺失ノ物件ト雖モ犯人ノ現ニ拾得スル當時ニ於テ物主ノ誰タルヲ知リ且之ヲ窃取セントノ意思ヲ以テ占有シタルトキハ盜罪アリトノ判決例アリ

(三) 窃盜ノ物件ハ動産タルヘキ事

窃盜ノ物件カ必ラス動産タル可キヲ要スルハ吾新法ニ於テ明文ニ掲ケタル所ニシテ所謂第一要素ニ於テ占有ヲ移スノ處爲ヲ要スルト論セシカ故ニ隨テ物件ハ必ラス占有ヲ移シ得可キ物件即甲ヨリ乙ニ場所ヲ換ヘ得ヘキ物件タルヲ要スハ當然ナルヘキモ本法ニ言フ所ノ動産トハ果シテ民法上ノ所謂動産タルヲ要セス不動産ト雖モ其一部ヲ割ヒテ場所ヲ移轉シ得ヘキモノ即山林ノ竹木田野ノ穀建造物即チ家屋ノ金樋ノ如キハ動産トシテ之ヲ本罪ノ目的物ト爲スヲ得ヘキモノナルヘシ
法文ニ他人ノ動産云々ト規定スルト雖モ抑窃盜ノ目的タルヘキ物件ハ必ラス占有ヲ移シ得ヘキ物タルヲ要スルカ故ニ法文ノ所謂動産トハ單ニ有體動産ノ事ヲ意味スルモノト解釋セサルヲ得サルナリ何トナレハ無體動産則權利ノ如キハ吾人ノ觸感ニ依リ之ヲ奪取スルヲ得スシテ僅カニ智能ヲ以テ之ヲ覺知スルヲ得ルモノニ付テハ到底窃取ノ目的ト爲スヲ得サルナリ然ルニ茲ニ混シ易

キハ無體物其モノト無體物タル處ノ權利ヲ證明スル處ノ證書其モノトニアリ
蓋シ無體物ハ到底之ヲ奪取スルヲ得サルモ之ヲ證スル處ノ證書ハ有體物ナル
ヲ以テ盜罪ノ目的ト爲スヲ得ルナリ

(四) 他人ノ所有物ト知リテ奪取スルノ意アルヲ要ス

竊盜ニ要スル處ノ意思ハ其物件カ他人ノ所有物タルヲ知リテ奪取スルノ意思
即チ所有者ト同一ノ利益ヲ受ケンカ爲メニ之ヲ獲得セント欲スル處ノ意思アル
ルノミヲ以テ足レリトス彼ノ羅馬法ノ如ク他人ヲ害スルノ意若クハ自己ヲ利
スルノ意思アルヲ要セサルナリ故ニ自己ノ所有物ナリト信シテ他人ノ物ヲ占
有シ又ハ一時借覽スルノ意思ヲ以テ信友ノ書籍ヲ無斷ニテ持チ歸リタルカ如
キハ本罪ヲ構成セサルナリ

以上ニ於テ竊盜罪組織ノ要素ヲ述タリ然シテ新法ハ未遂ノ場合ニモ尙之ヲ罰ス
ルカ故ニ如何ナル場合ニ迄ヲ未遂トシ如何ナル場合以後ヲ已遂ト爲ス可キ乎換
言スレハ奪取ノ行爲ハ如何ナル事ニ依リ完成ス可キ乎ヲ論究スルノ必要アルヲ
以テ此點ニ付聊研究セントス

盜罪ノ既遂未遂ノ限界ニ付テハ古來學說種々アリ

(第一說) 目的タル處ノ物品ニ手ヲ觸レタルトキハ既遂ナリ
(第二說) 物品ニ手ヲ觸レ進ンテ之ヲ移轉シ所謂犯人ノ實力内ニ入りタルト

キハ已遂ナリ

(第三說) 物品ハ犯人ノ實力内ニ入り之ヲ移轉セシメ犯人カ其場所ヲ去リタ
ルキハ已遂ナリトス

(第四說) 犯人ハ其目的物ヲ目的ノ地ニ持チ去リタルキヲ以テ已遂ナリトス
然シテ余ハ第二說ニ左擔セントス何トナレハ吾刑法ノ盜罪ハ所謂占有ヲ移スノ
處爲タルカ故ニ第一說ノ如ク物品ニ手ヲ觸レタルノミニテハ未タ以テ占有ヲ移
シタリト云フヲ得ス即犯人ノ盜意ヲ明著ナラシムル所爲アリト謂フヲ得サルナ
リ第二說ハ物品ヲ己レノ手ニ入レ所謂實力内ニ置キタルモノナルカ故ニ已ニ占
有タリト云フヲ得ヘシ占有タルキハ盜罪ノ目的ヲ達シ即チ既遂ナリト謂フ可キ
ナリ第三說ノ如ク犯人其物品ヲ携ヘ去ルカ第四說其物品ヲ目的ノ地ニ運搬シ終ル
カ如キハ何レモ是占有以後ノ行爲ニシテ所謂盜罪成立事後ノ行爲タリ依之余ハ
第二說ヲ左擔スルト述ヘタル所以ナリ

第二百二十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタ
ル者ハ強盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス
前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之
ヲ得セシメタル者亦同シ

本條第一段ノ普通盜罪ノ以上ニ暴行ヲ以テ之ヲ奪取シタル處ノ罪ヲ罰ス

ル刑ナリ
 本條ニ所謂強盜罪ハ暴行脅迫シテ他人ノ動産ヲ強取スル處ノ盜罪ニシテ其暴行脅迫ハ通常ノ盜罪ニ加重スル處ノ模様ナルカ將タ強盜罪ヲ構成スル處ノ原素ト爲ス可キ乎其性質上ヨリ論スルトキハ暴行脅迫ハ盜罪ノ加重ノ模様ニシテ強盜罪ノ一ツノ原素ニ非サルカ如クナルモ立法者ニ於テ既ニ竊盜強盜ノ別名ヲ設ケ別個ノ犯罪トシテ規定シタル以上ハ法律ノ規定ニ依ル處ノ一ツノ原素ト解セサル可ラサルナリ然シテ之ヲ加重ノ模様ト爲スノ一ツノ原素ト爲ストニ依リ犯罪着手ノ場合ニ於テ大ニ解釋ヲ異ニス何トナレハ之ヲ加重ノ模様ト爲ストキハ暴行脅迫ニ着手スルモ其物品ニ手ヲ觸レサルトキハ其罪ノ施行ニ着手シタリト爲スヲ得サルモ之ヲ一ツノ原素ト爲ストキハ暴行脅迫ニ着手シタルトキハ物品ニ手ヲ觸レサルモ既ニ強盜ノ施行ニ着手シタリト爲スカ故ナリ又第二段ニ於テ暴行ヲ用キス目前ニ於テ被害者又被害者ニ於テ救護スル處ノ人ノ生命身體自由若クハ財産ニ對シ危害ヲ加ヘント脅迫シテ人ノ動産ヲ強取シタルモノ、刑ヲ定メタリ

舊法ニ所謂脅迫ハ其危害カ目前ニ迫ルヲ要スルカ否例ハ財物ヲ出サ、レハ誹毀シテ新聞ニ出ス可シト脅迫シタル如キ其危害ノ目前ニ迫ラサル所ノ脅迫モ該條ノ脅迫ト爲ス可キ乎又暴行脅迫ハ被害者其人ニ對シテノミ爲シタル場合ニ止マルカ被害者カ救護スル處ノ人ニ對シテ爲シタル場合モ尙該條ノ暴行脅迫ト爲ス

ヲ得ルカ學者間ノ疑義アル處タリシモ新法ハ之レカ決定ヲ爲シ暴行脅迫ハ現在ニ迫リタル場合ノミヲ本條ノ處罰スル處ト處シ又暴行脅迫ハ被害者ノミニ限ラズ被害者カ救護ス可キ爲ノ者ニ對シテ行ハル、時モ尙本條ニ依リ處罰スヘシト決定シタリ依之本條亦所謂盜罪ノ一種ニシテ其犯罪構成ノ要素ハ普通盜罪ニ備フ可キ原素ハ勿論尙暴行脅迫ヲ加ヘタルヲ暴行脅迫ヲ以テ財産奪取ノ手段ト爲シタルヲ一要素ヲ附加スルヲ要ス故ニ更ニ尙二要素ニ付説明セントス

(一) 暴行脅迫ヲ加ヘタルヲ

暴行トハ腕力ヲ不正ニ使用シ即チ有形ノ處爲ヲ以テ人ノ身體生命自由若クハ財産ニ對シ直接ニ損害ヲ生セシム可キ行爲ヲ謂ヒ脅迫トハ同シク暴行ノ一種ニシテ人ノ生命自由若クハ財産ニ對シ危害ヲ生セシメント精神ニ恐怖ヲ起サシムル爲ノ無形ノ行爲ヲ謂フ然シテ本條ノ脅迫ハ法律ニ所謂現ニノ文字アルヲ以テ現在ニ危害ノ生スヘキノ恐怖ヲ懷カシムルヲ謂ヒテ未來ニ生ス可キ危害ハ本條ノ間フ所ニ非サルナリ

(二) 財物ヲ奪取スルニ暴行脅迫ヲ以テ手段ト爲シタルヲ

強盜ニハ此條件ヲ必要ナリトス故ニ暴行脅迫ヲ爲スモ財産奪取ノ目的ニ非サルトキハ強盜罪ハ成立セサルナリ例ハ他家ニ竊盜ニ忍ヒ入り財物ヲ竊取スルニ際シ會々宿怨アルモノカ其場所ニ居ルヲ見テ此者ニ暴行ヲ爲スモ強盜ニ非ス何トナレハ是等ハ竊盜既遂後ノ暴行ニシテ強盜ノ處爲ト關聯セサルヲ以

テ強盜ト謂フヲ得サルナリ
本條被害者トハ財産ノ所有者及所持者ニ限ラス其財産ヲ看守ス可キ責任アルモノモ包含ス可シ

前項ノ方法ニテ不法ニ自分ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ニ之レヲ得セシメタルモノモ強盜ヲ以テ論ス可キモノト爲シタリ
財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメ云々財産上ノ利益トハ物ニ對スルノ權利ノ謂ニシテ然シテ本條言フ所ノ權利若クハ消極的ノ場合即チ他人力或物ヲ獲得ス可キ權利ニシテ自ラ其引渡ス可キ義務ヲ免ル可キ場合共ニ包含ス可シ然シテ本條不法ニ財産權上云々ノ明文ニ依レハ正當ノ理由ナリ其方法ハ前條ニ揭クル暴行又現在ノ脅迫ニ依リ他人ノ意思ニ反シテ財産權上ノ利益ヲ自分ニ得タルト人ニ財産權上ノ利益ヲ得セシメタルトノ場合ヲ以テ準強盜ト爲シタリ舊法ニ於テハ財物其物ヲ強取シタル場合ノミヲ罰スルノ明文アリテ財物以外即チ是等ノ如キ財産權ヲ強取スルヲ罰スルノ明文ナカリシハ大ニ缺點トスル爲ナリ故ニ新法ハ此明文ヲ設ケタルナリ

第二百二十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

強盜ハ其行爲ニ着手セサルモ豫備ヲ爲シタル事カ明白ナルトキハ處罰ス

可キモノナリ是此行爲ハ最社會ニ害多キカ故ナリ

第二百二十八條 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒ミ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス

竊盜既ニ財ヲ得タル後其財物ノ取還シニ會ハントスルニ際シ臨時暴行脅迫ヲ爲シタルハ強盜ト同一ニ論ス可キヲ定ム

強盜ハ元來財ヲ得ルノ手段トシテ暴行脅迫ヲ爲ストヲ要スルカ故ニ其暴行脅迫カ財物奪取ノ爲ニ非サルトキハ單ニ毆打脅迫タルニ過キスサレハ竊盜既ニ財ヲ得タル後ニ於テ財主ノ取還ニ會ヒ之ヲ防ク爲ニ暴行脅迫ヲ爲スハ所謂財物奪取ノ手段ニ非サレハ法理ヨリ論スルトキハ素ヨリ強盜タルヲ得スシテ竊盜ト同時ニ毆打又脅迫罪カ併發シタルノミ然リト雖此處爲ヲ弘ク觀察スルハ其財ヲ得ンカ爲ニ暴行脅迫ヲ加フルト財ヲ得タルモノカ其取還ヲ防ク爲メニ暴行脅迫ヲ加フルト其暴行脅迫ニ前後ノ差アルモ被害者ニ對スル處ノ危險加害者罪惡ノ度ニ於テ敢テ區別スル處アラサルヲ以テ立法者ハ更ニ此處爲ヲ強盜ヲ以テ論ス可キモノト規定シタリ

第二百二十九條 人ヲ昏睡セシメ其財物ヲ盜取シタル者ハ強

盗ヲ以テ論ス

人ヲ昏睡セシメテ其動産ヲ盜取シタル處爲ハ強盜ト均シク論スヘキヲ定ム

人爲ノ方法ニ依リ人ノ身體精神ノ自由ヲ喪失セシメ以テ其財物ヲ盜取スルハ其被害其情狀ニ於テ暴行又脅迫ヲ以テ盜取スルト均一ナルヲ以テ本條ヲ設ケ是等ノ處爲ヲ強盜ト均一ニ處罰ス可シト定メタル所以ナリ

第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ

懲役ニ處ス

死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ強盜カ財物奪取ノ手段トシテ人ヲ死傷セシメタル時ノ刑ヲ定ム

舊法ニハ強盜傷人ヲ無期徒刑ニ處シ同致死ヲ死刑ニ處ス可シト規定シ傷ノ輕重ト殺意ノ有無ヲ問ハサレハ實際罪刑ノ量ヲ適應ナラシムル能ハサリシ故ニ新法ハ共ニ刑ノ範圍ヲ擴メ裁判官ヲシテ傷ノ大小情狀ノ如何ニ依リ刑ヲ適當ニ定ムルヲ得セシメン爲ナリ

本條ノ強盜人ヲ死傷ニ致ストハ強盜ヲ犯スニ際シ常ニ人ヲ死傷セシメタル場合ハ悉ク本條ニ依リ處斷ス可キカ如クナルモ其實然ラス其場合ヲ區別セサル可ラズ唯本條ノ主眼ハ強盜ノ原素タル處ノ暴行脅迫ニ依リ以テ人ヲ死傷ニ致シタル

場合ヲ想像シタルモノニシテ殺傷ヲ以テ強盜ノ手段ト爲サル場合ニハ本條ノ問フ所ニ非サルナリ例ハ強盜財物ヲ奪取スルニ際シ過失ニテ人ヲ死傷セシメタル如キハ強盜ニシテ人ヲ傷シタルニ相違ナキモ本條ニ依リ處罰スルノ限リニ非サルナリ

第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年

以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無

期懲役ニ處ス

強盜ヲ犯シタルモノ同時ニ婦女ヲ強姦シタルモノ、刑ヲ定ム

強盜ハ財産ニ對スル罪強姦ハ人ノ節操ヲ破リ即チ風俗ヲ害スル罪ニシテ全ク關係ナキ別種ノ犯罪タルヲ以テ此二處爲カ同時ニ併發スルモ併發例ニ依リ處罰ス可キモノニシテ容易ニ例外ヲ定ム可キモノニ非サル可シ然レモ今此極惡ナル處ノ二罪ヲ併セ犯ス場合ニ於テ通常俱發ニ依リ處罰スルハ寬ニ失スルノ嫌アルノミナラス強盜ハ古來ノ實験ニ徵スルニ多クハ婦女ヲ強姦スルノ猛惡ナル惡慣例アルヲ以テ立法者ハ特ニ此ニ處爲ヲ併合シテ一罪ト爲シ且前條ハ刑ノ權衡ヲ得セシメン爲メ特ニ重刑ニ處ス可シト定メタリ

強盜強姦中ノ其一ツカ未遂ナルルハ如何ニ處分ス可キ乎曰二個ノ學說アリ曰強盜強姦ノ一ツカ未遂犯ヲ以テ問フ可シ乙曰強盜未遂強姦未遂ナルルハ本刑ニ問

フ可ク強盜既遂強姦未遂ナルハ未遂ヲ以テ問フ可シト余ハ乙説ニ賛成スルモ
ノナリ何トナレハ法律ニ強盜婦女ヲ強姦シタルモノ云々トアリ故ニ強盜ノ事實
ハ既遂ナルモ未遂ナルモ均シク強盜タルヲ免レス又法律ニ強姦シタルモノ云々
アルカ故ニ強姦ヲ爲サレハ強姦シタルモノト謂フヲ得サル可シ故ニ強盜ノ罪
ハ既遂未遂ヲ問ハサルモ強姦ハ之ヲ區別シ既遂ナルハ本條ニ依リ處分シ未遂
ナルハ未遂例ニ依リ處分スヘキモノト信ス

第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公
務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪
ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

本條ハ自己所有ノ財産ト雖トモ質權又ハ留置權等ニ依リ他人カ占有ニ屬
シタルモノ又公務所ノ處分ニ依リ他人カ看守スル處ノ物品ニ對シテ盜罪ノ行爲
タル場合ヲ處分スル規定ナリ元來盜罪ハ原則トシテ其物件カ他人ノ所有物ナラ
サル可ラス所謂自分ノ所有物ハ盜ムヲ得サルモノナリ然ルニ其物件カ典物又留
置權等ニ依リ他人カ占有ニ係ルトキハ質取又留置權者等ニ於テ所謂物上權ヲ
有シ又官廳公署ノ命令ニ依リ他人カ看守中ニ係ルトキハ債務ノ辨濟ニ充當シタ
ルモノナレハ若シ此等ノ場合ニ於テ之ヲ盜取スルトキハ債權者ヲ害スルコト實
際他人ノ物件ヲ盜取スルニ均シケレハ法律ハ此等ノ場合ニハ盜罪ニ準シテ處罰

スルハ國家ノ生存ニ必要ナリト爲シタルカ故ナリ

第二百四十三條 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十
八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ竊盜強盜罪ニ付テハ未遂ノ場合ニモ處罰ス可キモノト爲シタルナ
リ

第二百四十四條 直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ
間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ
其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ
其罪ヲ論ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

本條ハ竊盜ニ關スル特別ノ免除例ヲ規定シタリ則チ直系親族即祖父母父
母子孫及同居ノ親族即同一ノ家ニ在ル親族互ニ第二百三十五條ノ罪ヲ犯シタル
モノハ其罪ヲ免除シ其他ノ親族即同居以外ノ親族ニ係ルトキハ被害者ノ告訴ア
ルトキニ限り起訴ス即第二百三十五條ニ關スル罪ヲ親告罪ト爲シタルコトヲ定ム
但其共犯者カ親族ニ非サルモノニシテ親族ト共ニ犯シタルトキハ他人ニ對シテ
ハ免除若クハ親告ヲ待タサルコトヲ定ム

舊法ニ於テハ直系親族及同居親族以外ノ親屬ニ係ルトキハ通常ノ人ニ依リ處罰セシモ假令同居セサルモノト雖モ親族ハ互ニ善惡苦樂ヲ共ニシ互ニ相愛スルモノナレハ法律ハ私人ノ財産上ニ付猥リニ干渉シ却リテ親族間ノ平和ヲ破ラサラントラ欲シ是等ノ場合ニハ被害者親告ヲ待チテ起訴スルコト爲シタリ

舊法ニ於テハ親族ト共犯シタル他人ハ財物ヲ分チタルニ非サレハ處罰セサリシモ抑盜罪ノ成立ハ財ヲ分ツト否トハ區別セス分財ノ如キハ所謂爾後ノ處爲ニシテ盜罪成立ニ關係セサル事實ナリ故ニ新法ハ是ニ依リ區別スルヲ廢シ已ニ盜奪ノ處爲アルトキハ財ヲ分ツト否トハ問ハサルナリ

親族相盜ノ盜罪ノ例外ニ置キタルハ蓋シ是等親族ノ財産ハ法律上ヨリ見ルトキハ其區別ナキニ非サルモ實際殆ント共通ノ如キモノニシテ其部分判然區別シ難キ事情アルノミナラス起居飲食ヲ共ニシ加フルニ善惡苦樂相通シ和氣霽々ノ中ニ生活ヲ爲ス可キ事ハ社會ノ深ク望ム所ナレハ法律カ強テ之ニ干渉シ處罰スルトキハ世安ヲ保護セントシテ却リテ平和ヲ紊ルノ見ナシトセス故ニ此場合ニハ法律ハ之ヲ免除スルコト、爲シタルナリ

第二百四十五條

本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

本條ハ電氣ヲ財物ト看做シ本章ノ罪ノ目的物ト爲ス可キコトヲ規定シタリ

元來盜罪ノ目的物ト爲ルモノハ財物中ノ所謂動産タルモノタルヲ要ス別言之ヲ

言ヘハ甲ノ場所ヨリ乙ノ場所ニ移シ得ヘキモノタルコトヲ要ス然シテ電氣ハ法學上ノ所謂動産ニ非サルカ故ニ舊法ニ於テハ之ヲ盜ム者ハ竊盜罪ニ問擬ス可キ乎否ニ付法曹間ニ論議アリシカ故ニ新法ハ此疑ヲ決定シ明文ヲ掲ケテ處罰スルコト、爲シタリ

第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以

下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

本條人ヲ欺キテ財物ヲ騙リ取リタルモノ、罪ヲ定ム

又其ト同一ノ方法ヲ以テ財産上ニハ道理ニ叶ハヌ利益ヲ得又自分直接ニ之ヲ利セサルモ他人ヲシテ此利益ヲ得セシメタルモノ、罪ヲ定ム

本條ノ罪ヲ構成スルニハ(一)欺罔ノ處爲タルコト(二)動産ヲ騙取スルコトノ要素ヲ要ス

(一) 欺罔ノ處爲アルコト

欺罔トハ人ニ信用ヲ置カシメテ其信用ヲ誤ラシムル處爲詳言スレハ相當ノ注

意ヲ以テハ其虚偽タルヲ發見スルヲ得サル手段ヲ以テ人ヲ欺ク處爲テ謂フ
 例ハ偽造ノ株券タルヲ知リ之ヲ抵當トシテ金ヲ借り鍍金ノ金具ヲ故ラニ真正
 ノ黄金製ナリト保險附トシテ高價ニ賣渡シ純金ニ非サルカ如シ是等ハ相當ノ
 注意ヲ施スモ其虚偽タルヲ知ル能ハサル詐謀詳言スレハ普通ノ智能ヲ以テ發
 見スル能ハサル方法ヲ以テ信用ヲ得テ之ヲ賣リ以テ其信用ヲ誤ラシムルモノ
 ニシテ所謂刑法上ノ詐欺即欺罔アリトス之ニ反シテ到産辨濟スル能ハサルヲ
 知リナカラ明日必ラス辨濟スルト云ヒ金員ヲ借用費消シ遂ニ返濟スル能ハサルヲ
 ル如キ又商人カ此品ハ上等ナリ綿糸入ノ反物ヲ以テ絹織ナリト云ヒテ賣却ス
 ル如キハ所謂民事上ノ詐欺即欺罔ニシテ刑法上ノ制裁ヲ受ク可キ處ノ欺罔ニ
 非ス要スルニ刑法上ノ所謂欺罔トハ刑事犯ニ係ル場合ヲ云ヒ民事犯ニ係ル場
 合ハ刑法上ノ責任ヲ負ハサルナリ

刑事犯ト民事犯トノ別如何
 刑事犯ハ曩ニ述タル如ク通常ノ注意ヲ以テ其虚偽タルヲ發見スル能ハサル手
 段ヲ以テ人ヲ欺クノ處爲ハ法ヲ破ル大ニシテ社會ヲ害スル亦大ナルヲ以テ刑法
 上ノ制裁ヲ受ケシム前例ノ如ク到底返濟スル能ハサルヲ知リ金員ヲ借り遂ニ返
 ヘサ、ルハ貸主ノ迷惑少ナカラサルモ貸主ニ於テ單ニ借主ノ申入レノミヲ信シ
 抵當ヲ取ラス借主ノ財産ノ有様モ調査セスシテ貸渡シタルハ貸主ノ注意ニ缺欠
 アルカ故ニシテ言ハ、自ラ招ケル處ノ災害タル可キノミ之ニ反シテ株券ヲ抵當

トシテ貸與セシニ其株券カ偽造タリシ如キ貸主豫想ノ及ハサル場合ヲ云則チ前
 者ハ民事犯ニシテ後者ハ刑事犯ナリ約言スレハ其欺罔カ通常ノ注意ヲ以テ發見
 スル能ハサル場合ト否トニ依リ區別シ其發見スル能ハサル場合ノミ刑事犯アリ
 トス

欺罔トハ以上述ヘタル處ニ依リ畧大要ヲ盡セリ然シテ終ニ臨ミ述フ可キハ積極
 即チ錯誤ヲ誘引スル方法ニ依ル場合例ハ余ハ某甲ナリト乙ヲ欺キ物品ヲ受取ル
 場合ト消極即チ錯誤ヲ利用スル方法ニ依ル場合例ハ乙カ甲ニ仕拂フ可キ金員ア
 ルニ際シ乙ハ余ヲ甲ナリト誤リ之ヲ仕拂ハントスルニ余ハ乙ノ信スル處ノ甲ト
 相違スルヲ知リツ、之ヲ矯正スルヲ爲サス直ニ乙ノ誤リヲ利用シテ金員ヲ受
 領スル如シ是等ノ如キ消極的ノ行爲ハ自ラ方法ヲ己ニシテ人ヲ欺ク所ノ積極的
 行爲ハ自ラ方法ヲ盡シテ人ヲ欺ク所ノ積極的ノ行爲ト其行爲ノ性質ニ於テ異ナ
 ル所ナキヲ以テ余ハ是等ノ行爲モ尙欺罔ヲ以テ論ス可シト論決セント欲スルナ
 リ

欺罔サレタル者カ物件ノ所有者ト異ナル場合ハ如何例ハ受托者ヲ欺罔シテ受托
 物ヲ編取シタルトキハ如何或人ハ所有者ヲ欺罔セサレハ本罪ヲ構成セスト論ス
 レモ余ハ之ニ賛同スル能ハス何トナレハ法律ニハ人ヲ欺罔シテ云々トアリテ此
 人ト云フ意ハ敢テ被害者ト制限セサルヲ以テ何人ヲ欺罔シテ物品ヲ騙取スルモ